



水産大学校
 ☎759-65
 下関市永田本町
 2丁目7-1
 発行 水産大学校
 学園だより
 編集委員会
 電話0832(86)5111

今年のがが校の課題

校長 網尾 勝



昨年十二月十八日付で学位授与機構による審査結果が発表され、今春の本科卒業生から学士の学位が授与されることとなりました。

この多年の念願が叶ったことにより、今迄のように「本校の卒業生には文部省による学士号は与えられませんが、人事院からは他大学と同等と認められているし、大学院進学の資格もあり……」という前置きが不必要になったというよりは、誠に清々しい気分というほかはなく、全学の喜びであります。

このことは、先輩教職員の方々の並々ならぬご努力の蓄積の成果であり、また昨春から膨大な資料の作製

整備に心血を注がれた学位授与機構対応委員会委員長をはじめ、各委員の皆様や、教官と一緒に多様なご協力を惜しまれなかつた事務官の方々のお陰であつて、心から感謝申し上げます。

わが校は、これをベースとして、さらに次の修士相当コースへと歩を進めることが可能となり、目下早急にこの課題と取り組む諸準備をしていくところであります。この修士相当コースの設置は、研究・技術の国際交流を一層促進する上でも、優秀な学生の育成にとつても不可欠の条件であり、是非ともこの目的を達成したいと願っております。

このためには、教育スタッフの教育・研究の活発化が要望される訳で、今こそ全学一致して目前に迫っている大学冬の時代の到来に備え、自助努力を傾注すべきときと考えております。

今一つ大きな課題は、今秋本校で行われる日本水産学会秋季大会を円滑に運行することであり、これは学界における本校の評価に深く係わる問題であり、何としても社会的評価を維持し、さらに高揚すべく、これまた全学挙げて取り組まなければ成功しないと考えます。

このような大きな行事は、本校にとつて十四年ぶりのことであり、学術研究上のメリットは勿論、在学生諸君に対する教育的効果も大きなものがあると確信しております。

本校における種々の改革項目のなかで、今年はこの二項目に焦点を定め、学内エネルギーを集中して行きたいと考えております。このためには、昨年のように教職員の皆様と種々ご無理な要請をすることが生ずるかと思ひますので、その節にはよろしくご協力の程お願いいたします。

今年申(サル)の年ということ、この字には「のびる」という意味があるからです。今年のがが校の校運も益々伸展することを衷心より切願しております。

新しい時代の教育・研究組織の確立をめざして

学生部長 俵 悟



学校教育法の
 一部改正によつて、文部省所管外の高等教育機関にも学位授与の門戸が開かれ、わが水産大学校も平成三年十二月十八日付で学位を授与することに足る大

学校と認定されました。これは開学以来の快挙であるといえるでしょう。このことを踏まえて本校の将来展望について述べることにします。

現在、全世界の人口は約五十四億人といわれ、二〇〇〇年には六十四億人に増加すると予測されております。これらの人口を養う食糧生産は地球表面積の七十%を占める海洋に求めざるをえないでしょう。我々水産人は人類の生存に不可欠な食糧源を供給するという使命を持っているわけです。

戦後、日本の水産界は沿海から沖合・遠洋へと世界中に向つて急速に進出しました。その後二〇〇海里時代に突入し、南極の捕鯨をはじめ、遠洋・沖合の漁場から締め出され、最近の水産界は厳しい環境にあると言われております。しかし、わが国で消費される約一二〇〇万トンの水産物は、その漁場・魚種・流通システマの変遷を伴いながら将来に向



けて維持されなければなりません。幸いにして、わが国を取り巻く沿岸から二〇〇海里までの面積は三八六万平方キロメートルで世界第七位を占めております。今後はこの海域のもつ高い生産力を最も効率よく利用し、合理的な資源管理のもとに、生物生産を維持していかなければなりません。したがって、これまでの獲る漁業からつくり育てる漁業へと変遷していかざるをえないでしょう。

一方、ウォーターフロントやリゾート開発が地域の活性化のために盛んに行われるでしょう。

これからの水産業は、これらの事業と共存する方策を確立していかなざるをえません。そのためには、生物系・化学系・工学系・社会科学系を総合した学際的な結合が必要になってきます。私は本校に先端分野(例えばバイオテク・ハイテク・食品機能工学)、情報処理システムの教育・研究施設を拡充し、大学院(修士・博士)相当課程を実現させる必要があると考えております。

このように本校をレベルアップすることにより、自分の職業に使命感を持ち、水産界のリーダーとなる有能な学生を育て、社会に送りだすことが出来ると信じております。一九九二年をピークとして十八才人口が減少する時代にあつて、若者に魅力ある大学校、国際的にも開かれた大 학교にすることが今本校に求められ

ている課題と考えられます。全学協力して新時代にマッチした特色のある教育・研究組織の確立を目指していきたい。

規制と保護

事務部長 松田 州司



学生諸君にしろ、我々教職員もいろいろな規制に縛られて、

この学園内で生活をしている訳であります。しかし、そのいろいろな規制のものについては、つい拘束される、厳しい定めだ、うるさい事を言う等々を考えがちであるし、言いにくくなるものであります。けれども、学生の皆さんを含め一般社会人であれば、もう一步その先を考えると規制と保護は裏表の関係にあり、その関係は非常に密接でかつ深いものであることに気づかれます。

学生の皆さんも当学園内の授業等でその点については多くを学んでいることとは思いますが、水産に関すると言うか漁業に関することを例にあげて申しますと、漁業法と水産資源保護法は行政サイドにおいても常に並行して論議され検討をされるところであります。

漁業法の総則、第一条(目的)には「この法律は、漁業生産に関する基本的制度を定め、漁業者及び漁業

従事者を主体とする漁業調整機構の運用によつて水面を総合的に利用し、もつて漁業生産力を発展させ、あわせて漁業の民主化を図ることを目的とする」となっており、その並びで水産資源保護法の総則、第一条(目的)には「この法律は、水産資源保護培養を図り、且つ、その効果を将来にわたつて維持することにより、漁業の発展に寄与することを目的とする」となっています。

私がこれら法律を解説するところではありませんが、総則から初まるこれら法律を要約するに、こうしなさい、あしなさい、こうしてはいけない、あしてはいけないという定めが多い訳ですが、裏をかえせば漁業(養殖業を含む)、水産資源、漁業者(遊漁業を含む)を保護する目的を十分に含んでいる訳です。

漁業者、漁業従業者であればそれらの規制は充分知っているはずですが、つい自分一人くらいはとか、これくらいのことはと規制を遵守しなければ水産資源の枯渇となり、国際漁業規制に発展したり、海洋環境汚染問題となったり、「養殖業は薬づけ」と言われたり、尊い命まで奪つてしまうこととなります。本年一月十二日の吉見沖での瀬渡し船事故は、遊漁船業適正化法の遵守をおこたつたものと思えます。

これらの事が自分の代だけに限らず後々孫の代迄にも悪影響をおよぼすことになるので、これから大なり小なり水産に関する場で働き、指導的立場になる皆さんが、規制と保護という事を十分理解していただき、良きリーダーシップをとり、良きリーダーとなつてくださる事を、水産大学校関係者の一人として期待する者であります。

図書館の現状と将来

図書館長 河内 正通



教育及び研究に必要な図書、資料を収集、整理、保存し、職員及び学生の利用に供するための業務を十名の館員で行っている。

本校図書館の蔵書数は八一、六五七冊であり、人文・社会・自然科学、外国語、保健体育関係図書が約四万冊、専門教育図書が約四万一千冊である。このほか、国内外の学術雑誌を約二百種購入している。一方、標本類四、一五〇点を収蔵、展示している。これらの図書、標本の中には、本校図書館にしかない貴重なものも多数ある。

標本室は常に開放し、誰でも自由に閲覧できる。図書関係も開架書庫に専門書を中心に約二万五千冊が収蔵され、自由に検索、閲覧できる。奥の書庫には、文学書や学術雑誌等が保管されており、この書庫にも係

員へ申し出れば、誰でも入庫できる。開館時間は平日十八時まで、土曜日十五時までであり、延長開館を行って学生、職員の利用の便を計っているが、これ以上のサービスは人員と予算の両面から困難な状況にある。現在の図書館は西端の丘の上に建てられ、閑静な環境下で落着いて勉強するには最適な条件を備えている。しかし、製造・増殖の両学科が新館に移転した現在では、離れ小島に置き去りにされた感がある。また、廃水処理のためのパイプライン付設工事のため、道路も掘り起こされ、図書館通いも容易でない。これらの事情を考慮に入れても学生の利用率は極めて低い。図書館をもっと利用し、活字に親しんで欲しいものである。近年、各大学において図書館が学園の中央付近に建てられるようになった。本校図書館の新築移転も近い将来に行われる予定である。その折には、利用に便利な中央部に移したいと考えている。

貴重な書籍や標本を管理、供覧する図書館業務に加え、近年、高度情報化社会の中で、必要とする情報をより正確に、より早く、より効率的に提供するための態勢を図書館を中心に整備、推進する必要があることが叫ばれている。このためには、専門職員の養成と学術情報システムを整備が必要である。図書館業務の電算化に関して先般、本校情報処理

センター委員とメーカーを交えて勉強の場をもったが、現在の汎用計算機を利用するには、ハード、ソフトの両面から種々問題のあることが判明した。

図書館新築の際には、視聴覚教育設備の整備、拡充とあわせて、図書館専用電算機を設置し、図書館機能の充実と情報サービスの向上を図りたいと考えている。これには、かなりのスペースと高額な予算を要するため、当座の対応として図書館所有のパソコンを利用し、百科辞典などの大量な書誌情報を自由に検索できるCD-ROMを設置して勉学の一助にすることを検討中である。

教養学科の将来を 考える(私見)

教養学科長 齊藤立彦



教養学科は、
人文科学・社会科学・
自然科学・
学・語学・体

育・水産社会科学の五教室より成り、一般教育・語学・体育・専門基礎教育(専門に進むための基礎となる教育)・共通専門教育(四学科共通の専門教育)を行い、これまで水産大学校の教育課程に重要な役割を果たしてきた。

平成三年、大学教育課程の改定に伴い本校の卒業生にも学士号が与え

られるという大きな成果を得たが、教養学科にとつては苦難のときを迎えそうである。即ち、大学教育課程から一般教育・語学・体育の区分を無くし、四年間で一二四単位を取れば卒業できることとなった。これは一般教育・語学・体育の単位を取らなくても卒業できるのではあるが、大学教育から教養教育が不必要になったということでは決してない。従って、各大学が必要に応じてこれらの科目を卒業必須単位に入れることとなる。

しかし、大学設置法が制定されて以来徐々に教育課程の欠陥が現れ始め、近年その声が大きくなり、とうとう今回の改定となったと思われる。水産大学の教養学科がそうであったとは思わないが、希望をもって大学に入学してきた学生が始めの二・二年間は高校の延長のような授業ばかりで大学に幻滅してしまうとか、教養課程ではただ単位をとればよいといった学生が多くなっていることも事実であろう。また、教養課程の教官にとつては自分の研究が直接教育に結びつかない、学生を育てる喜びがない、したがって学生との結び付きが少ないと言った悩みも多い。

今後、単科大学の教養学科が生き残る道は、制度的には共通専門科目(水産社会科学や情報教育等)を多く取り入れることも一つに道ではないかと思う。また、これまで反省の上に

漁業学科の課題

漁業学科長 高島末夫



指定された課題は、日頃何を考え如何に学科の舵をとるかと言うことで、字数制限あり難題である。

立って、魅力ある授業によつて学生からの大学教育の中で教養教育は是非必要だと思われるよう心がけることが大切に思われる。特に理科系の単科大学では、文科系の先生の講義時間が少なく、非常勤講師で十分だと思われがちになることにも心がけるべきであろう。いずれにしても今、教養学科には変革すべきときがきていると思う。

社会はマスコミが伝える業界の動向で、その業界を評価しようとする。水産業を見る目もその例外ではない。漁業を取り巻く環境は内外ともに厳しい。マスコミは暗い面のみ取り上げ、遠洋漁業即ち日本の漁業と言う短絡的論調の印象すらみうけられる。地球人口の急激な増大の中で動物性蛋白質の供給のために、漁業が極めて重要な産業であることを訴え、漁業に対する社会的国家的認識を一層高める努力が必要である。社会に対して日本漁業のPRとイメージアップ、さらには大学受験生および父母・教

育関係者に水産大学のPRこそ当面する重要課題と思われる。優れた人材を育成し水産界に輩出するための必要条件である。

これからの国際漁業は海洋生物資源保護、生態系保護を念頭におき、再生産可能な水産資源の持続的開発を図り、国際間の協議と理解なくしては存立しない。相手国の理解を得るには、科学的データに依拠する以外にない。国際的に信頼し得る海洋生物資源や生態の調査およびデータの蓄積など、漁業に国際競争力をつけるための支援協力が水産大学の意義をさらに高めることとなる。

わが国の漁業生産量の八二%、同生産額の七八%は沖合、沿岸漁業で占めている。水産輸入量は近年急激に増大しているが、一方国際漁業における余剰配分の原則の実状と推移、さらに食糧供給の点から考えると、今後この二つの漁業に科学的力点を置かねばなるまい。水産資源、漁業技術、漁業経営の安定に関連する問題など調査研究、技術開発を要する課題は尽きない。従来のアナリシス的研究に加え、シミュレーション手法の導入をはじめ、研究成果を現場にフィードバックする等これからの漁業学が展開するための選択枝は多い。学生のアンケート調査の集計を見れば、実習(練習船を含む)関係と科目の必修選択に関係する内容が多いので、若干触れよう。漁業を構成

する内面は多種多様な要素から成り立ち、学科教育面では七つの講座により各要素を均衡のとれた形で教育している。漁業は多くの基礎技術、知識の統合されたものであり、理学、工学、経済学などの幅広い分野が有機的に結合しながら展開している。さらに海洋産業の特性から調査研究をはじめ全ての作業に自己完結が要求され、実践力が必要となる。このことを考えると実習の意義は極めて大きい。管理課程においても、また専攻科まで含めた技術課程においても、本校教育の成果は社会が認めるところである。

船用機関学課程の現状と将来

機関学科長 金岡 浩



機関学科の設立目的は競争で極度に人材不足となった大型漁船の機関士を早急に養成することであり、当初は学生定員三十名で発足したが、機関士の不足は更に深刻な問題となり、国家の要請で昭和三十三年には五十名に増員し、船舶機関士養成の教育を行って、これまでに数多くの有為の人材を送り出し、社会に大きな貢献をなしてきた。しかし、その後の遠洋漁業の沈滞、海運不況及び近代化船の出現などにより、

船舶職員の需要が激減したため、昭和五十六年に従来からの船用機関学課程に加えて、機械技術者養成のための機械工学課程を新設した。

両課程の員数割合は、昭和六十二年度入学生までは船用機関学課程の方が多かったが、それ以後は機械工学課程の方が多い。この理由は八十年代の水産・海運業界の不況で船に対するイメージが低下したことや、若者の生活意識が変わった事によるものと思われる。この傾向は商船大及び商船高専においても同様である。

これに対して、最近海運市況の回復と不況時の厳しい雇用政策により多くの若年者が離職し、更に新人の採用抑制のため船舶職員の年齢構成は逆ピラミッド型となり、今後五十

十年で機関長クラスの退職者が相当数であり、各海運会社とも後継者確保が大きな課題となっている。この問題は規模を縮小したとはいえ大手水産会社も同様である。この現状を打開するため遅まきながら国レベルでも「海技の伝承問題」が検討され、早急に取り組むべき対応策として安定的新規採用、船員の待遇改善、有資格者の早期昇進などがあげられている。

船員不足は日本だけの問題ではなく、最近の調査報告によると、今後職員、特に機関士が世界的に、大幅な不足状況を迎えると発表されている。仮に現状の需給関係を維持する

ためには年平均二万人の職員が不足するとの数字もあるが、職員養成には時間がかかり、また、教育費用もかさむことを考慮して、早急に大規模な養成計画が必要である。

これからの船舶職員は単に船を運航する時代は過ぎ去り、職員として大切なことは海上経験を通じて習得した総合的な技術を活用して、陸上部門(陸上勤務)においてその職責を果たすことである。この対応策として、水産・海運会社では大卒の求人計画を打ち出している。

今後企業は船員の待遇を改善し、船及び船員のイメージアップに努めるであろうが、船舶機関士養成機関である本学科の使命は非常に大きいことも痛感している。

以上のことを考慮して、出来るだけ多くの学生諸君が船用機関士の道を志向してもらいたい。

大学教官の社会的使命と製造学科

製造学科長 田川昭治



私が十五年前から常日頃頭の片隅に置いて、自分の意識から消えさらないように努めている事柄のいくつかを延べて、編集部への責を果たしたい。

一、人間関係のすべての基礎は相互

の信頼にある。教育においては教師と学生との信頼関係が重要であつて、これが欠如すると教育効果が期待できない。勉学の意欲に燃えて入学してくる学生に対して、教師は精いっぱい努力をもって彼らの信頼に応えなければならぬ。

二、大学の教師は研究を行い、その成果を公表しなければならぬ。私達国立大学の教官は国(国民の税金)から研究費をもらつて研究している。だから一年間の研究で得られた成果を毎年公表する義務があると考える。私は四十年勤務しているので四十本以上の研究論文を公表してなければ私自身の努力が足りないといふことである。(文部省で大学院設置認可のとき、勤務年数に相当する研究実績があり、最近五年間毎年欠かさず論文を公表している教官を念として評価するのは、ここらに意味があるであろう。

三、教授は十―二十年後の自分達の学科のあるべき姿を考えて人事をすすめ、研究態勢の整備、充実をはからなければならぬ。

四、助教授まで教官が昇任するときには研究業績の審査を受けるが、一度教授に昇任するとそのような審査が一切行われない。だから、教授になつたらそのことを自覚して努力すべきであると考え。今回の大学設置基準で教育・研究活動を自ら点検評価すべきであると新たに規定さ

れたが、きわめて重要な意味を持つものである。

五、教授は全エネルギーの六十%を直接的な研究活動に二十%を、大学の運営業に二十%を地域社会での活動等に使うべきである。大学は自己のエネルギーの幾分かを国、県、市町村等に還元すべきであると考えからである。

ちなみに、平成三年における製造学科教官十五名の研究活動の実態は次のとおりであつた。

学会等研究会への参加者
 国内集会 三十四人・回
 国際集会 三人・回
 学術論文公刊数 二十七編
 国内誌 五編
 国際誌 三十編

現在投稿中の論文 三十編

増殖学科の今日的課題

増殖学科長 竹下 貢 二



最近、水産のもつ重要性が改めて強調されるようになった。

飽食、グルメ志向の時流の中で、つい見逃し勝ちであるが、近い将来に世界人口の爆発的増加と、それに伴う深刻な食糧危機が予想されることから、蛋白質供給源としての水産物への依存度はますます強まってゆくであろう。一方、わが国は世界一の

水産物輸入国であり、国内消費量の八〇―九〇%を占める輸入エビを筆頭に、食卓にのぼる中・高級魚貝類の多くが輸入物によつてまかなわれている。そして、こうした特定の魚種の集中買ひは、海の生態系を乱すものとして、新たな国際的批判を浴び始めている。

このような情勢の下で、水産物の自給率を高め、国民の需要に即した水産物の安定供給を図ることが強く求められるようになった。そして、わが国においては、つくり育てる漁業及びそれと両輪をなす資源管理型漁業を柱とする漁業の再構築が、二十一世紀に向けての重要な課題となつている。

増殖学科は、水産増養殖の分野における専門的知識と応用技術を通じて、水産に対する社会的要請に応えるための教育・研究の場であり、水産における二十一世紀的課題と深くかかわつている。水産増養殖に関する基礎科学は広い範囲に及んでおり、また応用技術も日進月歩の勢いで進展している。したがつて、要求される教育・研究面での課題も多岐にわたつているが、当学科では生物と環境の両側面から、それら課題に取り組んでいく。今日的課題として、増養殖対象については、生物の個体や集団の構造と機能及びそれらと環境との相互関係、生物の健全な育成に関する技術開発、疾病などの原因

解明とそれへの対応、生物資源の高度利用に向けてのバイオテク・ハイテク技術の応用と開発などがあげられる。また水産生物をとりまく環境については、その保全と活用のための要因分析や、人工魚礁を含む漁場基盤の適性解明などがあげられる。こうした課題は互いに深くかかわり合つていくことから、課題への取り組みを裏切るものにするためには、各専門分野の知的エネルギーを有機的に結び付け、教育・研究の水準を高めることが不可欠である。

二十一世紀に向けて、水産に対する社会の期待はますます高まつている。水産増殖学の分野がこの期待に応えるためには、水産科学の使命をもう一度見直し、新しい学際的教育・研究の途を直ちに歩き始めなければならぬと思う。

専攻科を考える

天鷹丸船長 乾 栄 一



近年地球の環境問題が大きく取りあげられ、国際的な視野の下で汚染防止対策が検討されはじめた。人類のあくなき欲望が、無限の可能性を求めて雑多の産業廃棄物を生み、それを処理する街も見出せぬま、発展を続けている昨今、どこかに歪が生じるのは当然である。いず

ず

これは原点に戻って、地球にやさしい一次産業の重大さを見直し、地球の存続を真剣に考える時が来るのではないだろうか。

我が国の水産業も、公海に二〇〇海里が敷かれて以来衰退の一途を辿り、特に遠洋漁業においては壊滅的な打撃を受け、漁業を志す後輩を指導する我々にとっては、前途の望みを絶たれた感もあつた。然し世界の海の海洋資源が枯渇した訳でもなく、ましてや遠洋漁業が消滅してしまつた訳でもない。一步眼を世界に向けると、漁業こそ成長産業の一つである、国を挙げて力を入れていいる所もある。長年の経験を実績を踏まえ、た上で、我が国の轍を踏まぬ様、これらの国々を正しく指導することが、我々に課せられた重大な使命であることを知って欲しい。

次代を担う学生諸君は、キャンパスでただひたすら勉学に勤しむのも大切だろうが、それよりも先ず現場に出て手を汚し、現場の苦労を知る事の方が重要なのではなからうか。今バブル経済の中で膨れ上つた企業は、求人に見えを変え学生も又これに飛び付いているが、永い目で見ると果たしてこれで良いのかと疑う一二年遅れても良いから少しでも視野を広げ、国際人としての指導力を養う事の方が大切ではなからうか。基盤が出来て地に足の着いた人材が、将来は必ず台頭してくる事は自明の

理である。

少なくとも水産を志し、漁業・機関の門を叩いた学生諸君なら、何は扱って置き海と船には積極的に接し、水産を体で学んで巣立って欲しいものだ。個々には経済的な理由もあるだろうが、若し許されるならば、諸君に与えられた折角のチャンスだ、別に海技免状を必要とする職を望まなくても良い、要は専攻科を学生生活の締め括りとして、ライセンスの取得に焦点を置いた、自己錬磨の一年間としては如何カナ。身近に練習船と云う立派な動く実験室がある技術コースの学生には、此処で己を鍛える学生らしい心意気が欲しい。眼前の小利に惑わされることなく、広い意味での指導力を船内生活で養いつつ、夢とロマンの残っている航跡に一年間身を託すと、又別の世界が見えてくるものだ。企業は逞しい水産人、チャレンジ精神のある人材を求めている筈だ。

来れ専攻科へ!!そして自分を見直せ、あとは諸君の判断を待つ。



水産大学校滄溟寮 海上保安庁長官より表彰!



平成四年一月十二日午後、水産大学校の裏海岸(響灘)にて、瀬渡し船「福神丸」が転覆し、乗船者四十七名が海中に投げ出された海難事故と救助活動は、全国的に報道されたところです。

救助活動における滄溟寮生の活躍においては、常日頃より、自治寮として培われた団結力・精神力・実行力が遺憾なく発揮されました。

この、功勞にたいして、海上保安長官より「表彰状」を、山口県警察本部長及び下関市長より、「感謝状」の贈呈を受けました。なお、救助された方を初め多くの方々より感謝のお言葉を頂いております。

海難事故救助報告

滄溟寮情宣委員長 竹谷 博志
一月十二日十五時過ぎ、寮周囲の騒ぎと、パトカーのサイレンで異常に気付き、寮長が寮前でずぶ濡れの人を発見する。

十五時三十分、副寮長と役員一名が裏海岸を視察。この時点で海難事故と判明し、直ちに救助活動に移る。二人の話によれば、「海に浮かんでいる黒の点々、よく見ると全て

が人であつたのがショックだった」と言っております。

十六時、毛布数十枚、たき火用灯油をもつて、一年生約三十名が現場に向かう。

十六時十分・遭難者を寮に收容することを決定。寮生総出を呼びかけ、約六十名が現場に急行する。

同時に風呂、暖房の準備を行う。十六時二十五分・寮内集會室に遭難者を十一名收容するも、内二名は自力で立てず、寮より救急車で病院へ移動される。九名の方には入浴・暖かい飲み物・暖房で暖をとつて頂き、衣服は寮生の物を貸与する。

十七時・寮生全員帰寮する。寮には、家族の方、報道陣が続々と来られる。家族の方には收容者の名前をお教えし、他に乗船者名簿も揭示して見て頂く。

一八時・警察、報道陣に寮委員會室のみを条件に、事情聴取、インタビューを許可する。

二十二時・收容体制を解除する。ただし、〇時までは、役員が寮玄関で訪れる方の対応を交替で行う。

※この救助活動を体験して、海に係わりをもつ人間として、改めて海の怖さを知り、このような惨事を起こしてはならないとの教訓を得ると同時に、人間社会の一面を勉強させて頂いた思いが残るのも事実です。

最後になりましたが亡くなられた方の御冥福を心よりお祈りします。

学士号授与について

学位授与機構対応委員会

委員長 前田 弘

平成四年三月以後の卒業生に対して、申請により学士号を与えられることが昨年末の十二月十八日に決まった。

授与されるのは、「学士(水産学)」である。見慣れない表現であるが、すべての学士号はこのように変わった。なお、一般の大学では卒業と同時に自動的に卒業生に対して学長名で学位記(学士号)を与えられる。

しかし、本校の卒業生の場合は、卒業後一カ月以上に申請料を添えて学位授与機構に申請すれば、機構長名の学位記が与えられる。これらが一般の大学と本校を含む文部省以外の官庁が所管する大学の間に見られる学士号取得法の違いである。申請期間が卒業後一カ月以内に限られる点を十分留意していただきたい。

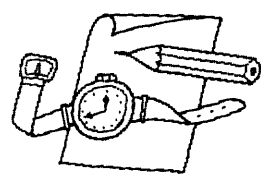
水産大学校とはいったい何なのか。学生と父兄にとつては一度は問いただしたい問題だろう。高卒を入学資格とし、修業年限四年間、大学とは同じ内容の教育を受け、同じ額の入学金と授業料を払う。募集要項には卒業後の資格がいろいろ書いてある。その中には大学院の受験資格が含まれている。これだけ大学と似て

いても学士号がもらえない。同じような学校がいくつかある。防衛大学校・防衛医科大学校・気象大学校・海上保安大学校・職業訓練大学校がそれである。これらの中で職業訓練大学校以外の学生は在学中から国家公務員であり、棒給をもらい、卒業後の勤務先が保証されている。では水産大学校は。

水産大学校は水産界で活躍する人材の養成を目的としている。水産界で活躍する限りでは、学士号がなくても水産大学校卒業というだけで大手を振って歩ける。しかし、他の社会に一步踏み出したとき、答えに困るだろう。このような状態のまま、四十年間過ごしてきた。その間に何回か文部省移管の運動が起こった。時の流れ：水産が日本を支える花形産業であった時代もあった。しかし、夢のような時代は短く、栽培漁業がジャーナリズムを賑わすものの二百海里の問題以来、水産界は日がたたらなくなってきた。農水産学系学部の統廃合が問題にされる最近では、うっかり文部省移管等を持ち出すものなら、水産大学校の存在さえ危うくなるかもしれない。時の流れは我々に不利になってきた。

は、戦後の高等教育の普及の一翼を担っていた短期大学と急速な工業技術者の養成の必要性のために作られた高等専門学校である。これらに、二年制の専攻科を設け、その卒業生に対して学士号を与える制度が作られた。大学は、大学院の拡充・留学生の受け入れ体制の強化・生涯教育等生き残りの道を模索している。このような動きの中で、文部省所管以外の高等教育機関でも条件さえ充ておれば、その卒業生に対して学士・修士・博士の称号を与えられる道が開かれた。

このように書いてしまうと当り前のようであるが、それまでの道は平坦だったと言えない。大学の生き残りが問題になっているのに、大学の卒業生以外に学士号を与えることはもつての他であるという考え方も成り立つ。一昨年の夏の大学審議会の答申案には、文部省以外が所管する機関の問題が盛り込まれていた。しかし、我々が肝を冷やしたのは、答申案にあった「専ら政府の職員の養成等の理由により大学教育を行えない教育機関の卒業生に対して」という文章である。この文章では先に記した大学の卒業生には学士号が与えられることになる。水産大学校が「等」に含まれないとなると、水産大学校は存続さえ危うくなる。一昨年の年末から昨年三月まで、来る日も来る日も深夜に及ぶ水産庁の担当



官と文部省の交渉が繰り返される。送られてくるファックスを見て、限られた時間内に資料をつくり回答を送る。三月近くになってやっと間違いない水産大学校が含まれるような案が作られた。次が国会の関所。国会が紛糾して、期限切れ、廃案にでもなれば、泣くに泣けない。でもこの問題は終わった。そして、法律が公布されたのは昨年の四月、実際の業務を行う「学位授与機構」が発足したのは七月であった。

次に、本校が「大学の学部」に相当する教育を行う過程」として認定されなければならない。大問題である。手探りで膨大な原稿の作成・問合わせ・修正の繰り返し。限られた時間内に行われた二千ページを上回る申出書の製作には学校中のほとんどすべての部門の努力がすぎ込まれた。このようにしてやっと平成四年三月以後の卒業生は、申請により学士号を授与されるようになった。長い道であった。

学生自治会

愛校心

自治会長 峰松 徹

「愛校心」と言う言葉は、現代の学生にとって野暮つたく、古語となつてしまつた様です。

今、学生自治会は、学生自身が学校に対して無関心であるという問題を抱えています。

現在の学生は、生活も多種多様化して、一つの共通した問題に対し意見を交わし考えようという機会は少なくなつてしまいました。

先日、学生大会を開きましたが、出席者は少なく、各々が自治会員であることの意識が薄いことが分かりました。

又、大学生活の充実、並びに学生相互の連帯感を養う場である学園祭にしましても、学校に来る事も少ない学生が多くなります。この様な状態が現実なのです。

しかし、学生は生活の大半を学校で過ごしているのですから、我が学校が充実した環境、施設、カリキュラムであるとは言え、何らかの意見や不満があるに違いありません。

一人ひとりの学生の声を、自治会は大切に聞き、正当であるか否かを判断し、学生の代弁者となつて学校に対して意見を述べ、学校の向上に

務めていかなければなりません。

我が校は、全国から集まつた八百名足らずの学校です。水産を志し、吉見の地に集まつたのも、何かの縁に違いありません。他のマンモス大学に見られない、学生一人ひとりが学校を造り上げていく姿勢が、最も必要とされるところでです。

このことは、自分自身を高めることでもあると同時に、全国に類を見ない特色ある学校を築くことによつて、大学のPRともなり、次代を担う多くの若者が水産を志し、水産界の発展へとつながると信じます。

以上述べました事は、表題のとおり、学校を愛する気持ちの意志統一に他なりません。

意志統一と言うのは、大変困難であり、現実離れした理想論に過ぎないかもしれません。

しかし、学生の一人ひとりが卒業する時には、伝統の重みを感じつつ「ああ、本当に充実した四年間であった。水産大学校に入學してよかつた」と誇りと自信を持って、社会に飛立って頂きたいと思つています。困難を極める水産界で、どの様な難問が出て来ようと、誇りと自信、柔軟な姿勢によつて対処し、リードしていく事が出来ると思ひます。

学生自治会は、自治会活動を通じて、以上の事を真剣に受けとめて頂く様努力して参りたいと思ひます。

滄溟寮

今、自治寮を！

滄溟寮長 斎藤 誠

「大丈夫ですか、しつかりして下さい！」息をさらせながら介添えする学生、厳寒の荒波に飲み込まれそうになつてゐる遭難者を、腰まで水につかりながら救助した学生、海難事故での寮生の救助活動は、目覚ましいものがありました。

この時の、寮生の心は確かに一つになつていました。自治寮でなければ、これだけの活動を機敏に行うことは出来なかつたと思ひます。

私は、昨年十二月より寮長を務めていますが、滄溟寮の運営で二点の問題を抱えています。

一点は、日本の水産界をリードする水産大学の寮ということで、海の男の育成、社会に出る前の人付き合いの勉強ETC；精神面などでの上下関係の厳しさです。

昔から、先輩は「俺達は一年の時はん」とこんな感じで後輩に話します。しかし、時代の流れでしようかなりの学生の財布が豊かになりますと、寮は寝る場所でしかなくなるようです。なぜなら、自分の個室(自動車)を持つと、何処へでも自由に行けるわけですから。

寮は、必ず三・二・一年生が同室となるよう部屋割りを行いますが、

寮が寝る場所ではないとすれば、先輩が後輩へ話すことも、後輩が先輩へ腹を割つて一晩中語り合う事が無くなりつつあります。

今一点は、「生活の場」としての寮を考えたいときです。

滄溟寮は、寮生が寮則を定め、それに基づいて運営し、動く寮です。部屋独自の門限等を作つて上級生が下級生を見守り、親となり兄となつてゐる訳ですから、寮に何時も居ないで寮運営に協力しない、後輩の面倒を見ないなどが続くと、全国でも数少ない、自治寮を絶やすことにもなりかねません。

また、寮生の居場所が分からず、且つ、深夜の事故が多発すれば学校が管理に乗り出すと思ひます。

社会に自由と規制があるように、寮でも自由と規制があります。

幾つかの矛盾していることもあるでしょう。その時こそ団結し協力し合つて欲しいのです。団結を徒党を組むこと、協力を強制されている、と勘違いして欲しくないので。

時代というものは確かにあります。私も、親の話を聞いて、「へえ？」と思う事はたくさんありますが、その中でも、なくしてはいけなないものがあると信じたいのです。

厳しさの中でも、楽しさのあるこの自治寮をなくさないよう、寮生の団結と協力を信じて、寮役員と共に運営して行きたいと思ひます。

今だから、自治寮を、滄溟寮を！！

学生部だより

平成四年度 入試について

平成四年度の入試も前年度に引き続き志願者は増加。一般入試は二月十六日に下関(本校)と東京(東京水産大学)の二カ所で実施され、下関試験場は四四八名、東京試験場で三二七名の志願者数であった。

推薦入試は、水産高校出身者のみを対象とするA制度が十一名、特定の高校に限定しないB制度が三十七名の合格を得た。

帰国子女特別入試については、二名の志願者があったが合格者は得られなかった。

本年度の卒業生から学位が授与され、次年度の志願者数の増加を期待します。

安全運転のお願い

学生課

近ごろ若者による交通事故のことがニュースとして耳にしない日は、ほとんどないと思います。

本校におきましても、全学生(七八一名)の車両保有台数は、ふえつづけ、現在所有届け済みのものは、三三〇台に達しています。そのせいか、学生による交通事故件数も増加

し、特に、重大事故がふえると言う唯識事態となっております。我々もそう言う現場に再々立ち会ったことでもあります。事故等に対して学校としても出来る限りの範囲で、誠意を持って対応してまいります。補償、賠償等につきましては、当事者以外の関与できる場所ではありません。防止策としては、学校としても学生自治会と共に、再三再四、学生諸君に安全交通を喚起するとともに、毎年五月には警察に講師の派遣を依頼し、学内で交通安全講習会・単車実技講習会を開催し、交通ルールの周知、徹底を計っています。しかし、交通事故防止策としては運転者自身の自覚を持つ以外に解決策は見あたりません。

この際、もう一度、事故を起こせば家族全員を不幸に落し入れることを肝に命じ、安全運転に心掛けるようお願いいたします。



平成三年度卒業生進路状況

前年度まで急増した、ソフト開発関連企業の求人件数が、今年度は減少したに係わらず前年と同数の三五〇余件の求人申し込みがありました。進路別人員しらべ、及び進路先の一部を紹介します。

卒業生の進路状況 (平成3年度)

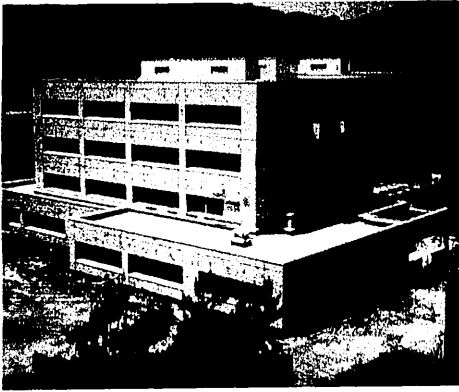
◎ 進 学	全国漁業共済組合連合会	広島水産(株)
神戸商船大学	全国共済水産業協同組合	(株) 極 洋
東京水産大学	全国漁業協同組合連合会	東 洋 水 産 (株)
九州大学	山口県	千代田水産(株)
長崎大学	兵庫県	西島製作所
三重大学	鳥取県	東芝エンジニアリング
高知大学	富山県	旭計器工業(株)
水産大学校研究科	愛媛県	(株)大金製作所
水産大学校専攻科	三宅島	ダイキンプラント(株)
◎ 就 職	(民間企業)	東 洋 製 缶 (株)
(官公庁)	三光汽船(株)	日立造船(株)
農林水産省	阪九フェリー(株)	ケンコウ・マヨネーズ(株)
文部省(広島大学)	共同船舶(株)	林兼産業(株)
千葉県	㈱ニッスイシッピング	日本ハム(株)
岡山県	(株)東京タンカー	キュービー(株)
山口県	(株)出光タンカー	名古屋製酪(株)
広島県	(株)ナビックスライン	はごろもフーズ(株)
熊本県	㈱東京リーフアライン	大 柴 大 源 (株)
(諸団体)	大洋漁業(株)	金 子 真 珠 (株)
日本製菓業協同組合連合会	(株)ニチロ	田 崎 真 珠 (株)
(財)新日本検定協会	(株)ニチレイ	マ ル ホ (株)
(社)海事検定協会	中央魚類(株)	第 一 製 菓 (株)

学 科	専 攻 科		漁業学科	機関学科	製造学科	増殖学科	研究科	計
	船航課程	船関課程						
区 分	船航課程	船関課程						
卒 業 者 数	16	7	44	37	46	33	4	187
進 学	大 学 院	0	0	2	2	4	4	13
	研 究 科	0	0	0	0	0	3	3
	専 攻 科	0	0	15	12	0	0	27
計	0	0	17	14	4	7	1	43
就 職	国家公務員	2	2	1	0	0	0	6
	地方公務員	1	0	0	0	0	5	6
	各種団体	3	0	6	1	3	1	14
	水 産	1	0	7	1	11	2	23
	船 舶	8	3	0	0	0	0	11
	造機・造船	0	0	1	18	1	0	20
	食 品	0	0	2	0	27	4	33
そ の 他	1	0	10	3	0	13	0	27
計	16	5	27	23	42	25	2	140
そ の 他	0	2	0	0	0	1	1	4

※その他は、公務員試験、海技試験受験等の受験準備中の卒業生。

施設紹介

水産大学の施設整備は長期整備計画に基づき国の財政事情のきびしい中を校長を初め、水産庁、官房予算課等財政当局の御努力により要求が認められ着々と整備されている。平成三年度は昭和六十三年度から四カ年計画で建設に着手した製造・増殖学科共用実験棟(RC一四・四三六八㎡)が完成し、校内廃水合併処理施設(廃棄物処理施設を含む・二カ年計画)の整備を行い、平成四年度は校内廃水合併処理施設の最終工事に加え、学生寮暖房設備の改修、海水取配水設備(二カ年計画)の整備、学生クラブ合宿棟の整備、実習用小型舟艇の建造等の新規予算要求が認められたのでこの整備に着手することになります。



人物往来

平成三年度

(転入) (転出)

- 4、1 町井 紀之助 小幡 文雄
- 鍋島三千年 吉田 勝一
- 高柳 進 松下幸太郎
- 石山 克己 藤本 佳昭
- 田中 辰彦 山本あゆみ
- 田中 昌弥 山城 秀之
- (採用) 武田 靖昭
- 毛利 雅彦 今 義英
- 山浦 寿幸 湯川 紀行
- 小林 克登
- 石崎松一郎
- 村瀬 昇
- 飯田 満仁
- 佐野 一磨
- 岡本 忠
- 山本 洋子
- 5、16 鈴木 昭博
- 6、1 堀田 俊彦 佐伯 友子
- 筒井 康一
- 10、1 陣上 聚 相田 俊明
- 森元 映治
- 安村 直昭
- (博士号取得者) 横田 源弘
- 1、9 工学博士 濱野 明
- 9、11 農学博士

練習船の動き

耕洋丸(約二千トン)、天鷹丸(約八百八十トン)の立派な練習船は、本年も多くの学生を乗船させ、実習・調査研究の目的をもち、日本周辺航海や国際航海で活躍する。詳細な航海計画を掲載してお伝えするのが良いが、投稿依頼を受けた時点では、四年度の航海計画が決っていないので、計画案と言うことで航海について順次述べる。新入学生に対し一日の体験航海、漁業二年生に対し山陰沖または四国沖の沿岸漁業に視点を置いた二週間の航海、製造・増殖三年生は耕洋丸に同時乗船して二週間の航海、漁業・機関三年生はこれまで通り一カ月の航海をする。三年生の航海は主として東シナ海での漁業実習・調査と思われる。また漁業・機関四年生の遠洋航海は十月末から約三カ月の航海だが、細部は未定である。専攻科学生の遠洋航海は、四年生とは別海域の国際航海が計画されるだろう。以上のほか、耕洋丸平成四年度航海では、八月下旬に三陸・海の博覧会に招請を受け参加し、勇姿とともに充実した船内研究整備を地域の方に披露する。さらに九月中旬には総務庁の協力要請を受け、北方領土国後島の募参に協力するための航海を実施する予定である。

編集後記

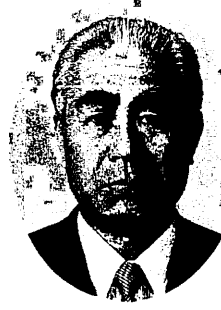
急激な時代の変化に迅速かつ的確に対応すべく、校長を中心に学生部長、事務部長、図書館長、各学科長、船長が本校の運営にあたって、それぞれの立場で見事な取り取りをされています。そこで今回の特集では、いま本校でかじ取りの労を取られている方々に、学生のアンケート調査結果(ランダム・サンプリング)も参考としていただきながら、これからの本校のあり方について、胸に抱いている思いなり抱負を語ってもらいました。次に、広報紙としての活動内容の充実が努めました。第一は、配布先の拡大です。「学園だより」の目的は、「学生の資質向上を計るため、教職員と事務職員との強い連携のもとによりよい大学教育を目指す広報活動」(創刊号より)にあります。この基本精神を遵守し、さらに連携の輪を広げ、意志疎通の充実を図るために学生のご父母への配布に踏み切りました。第二は、紙面の拡充です。高度情報化時代にあつて広報紙としての課題は山積みしていますが、少しでも前進するため、内容の充実を図りました。「学園だより」は、本校関係者の貴重なコミュニケーションの手段です。今後より一層の充実を図るためにも、多くの方々から積極的な意見が寄せられることを期待します。



水産大学校
 ⑦759-65
 下関市永田本町
 2丁目7-1
 発行
 学園だより
 編集委員会
 電話0832(86)5111

水産大学校の教育方針について

校長 網尾 勝



この度、学園だより編集委員会から表題について校長の考えを述べるよう要望されました。この表題に関し、一言でいえば「社会に貢献できる有能で逞しい水産人の育成」と答えることになりました。

しかし、昨今の水産業界は二百海里時代に入って以来急速に変貌し、従来の大規模な漁業形態は殆んど影をひそめ、多方面に亘る新しい関連事業へと転換しております。

この変換を直ちに衰退と受けとめているかの如き報道が溢れていることは誠に残念です。時には「日本の水産はまだ存在するのか」というような質問さえ聞かれます。

これに対して、私は、世界第三位になったといえ日本は冠たる水産国で一千万トン前後の漁獲量を保っており、世界をリードする優れた水産の技術を保有していること、また水産物の需要は増大はしても決して低減していないことなどを訴えております。

いかに水産界が様変わりしようとも水産のもつ今日的意義はいささかも変わらないし、その重要性は益々増大しています。今更申すまでもなく、まもなく到来するであろう地球上の人口爆発に対応する食糧の供給、地球環境との共生型文明の構築(自然との調和、水域の保全)などの人類全体の課題に答えるのは目下のところ、陸上よりも三倍ほど生産効率が良い海を対象とし、かつ良質でヘルシーな魚介類蛋白の生産を対象としている水産こそが最も適合した分野であると考えます。

水産大学校が社会から託されている水産の学問や技術の向上および教育は、これらの課題に答えるためであって、この目的に添うことができなければ本校の存在価値は無きに等しいといつてよいでしょう。

わが校は、常にこの課題に対応すべく自己点検・自助努力を怠らないように心掛けているのが現状です。同時に、この自助努力がいたずらに空回りしないよう、また時代を先取りしながら自己改革を続けていかなければなりません。そのためには社会情勢、とりわけ水産を取巻く情勢を細大もろさず把握しておくことが必要で、水産の実像と虚像を注意深く見分けながら自己制御を怠らないことが大切です。単に時流に乗りおくれなないようにやって行けば良いのではなく、変えなければならぬものと、安易に変えてはならないものとをよく見極め、自己変換を図らねばならないと考えております。

昨年、新たに設立された学位授与機構より、学士号を授与されるようになりましたが、この折、文部省系の大学の審査員の先生方に本校の教育水準を審査していただきました。結果、教育陣、施設など大学として十分な内容を備えているとのことでした。併せて、大学院の水準にあるとの言葉もいただいております。このように外部からの評価、点検も受けております。

幸い本校は、創設当初の指導者の炯眼により、水産教育上全国で最も優れた立地条件の場所に設置されております。この条件を最大限に活用することこそ、水産の実像を学生にキヤッチさせる最良の方途でもあります。ここでの学生生活は、人間が自然と調和することを学ぶことによつてこそ、はじめて人類の永続性が保たれるということを体得させてくれる筈です。日々刻々と変化する海、四季折々の風や雨とのふれ合いで自然の偉大さと、美しさへの感性を育ててくれますし、あるいは人々の生活の営みが近くの海に与える影響などを無意識のうちに体得させてくれます。まことにここでの四年間はこのキャンパス周辺の山一川一海一空の連続性を居ながらにして理解させてくれるし、沿岸環境の破壊が漁業だけでなく人類全般の衰退とも繋がっていることを容易に納得させてくれます。学生達が水産人としての使命感を強く自覚するようになるのは当然です。

もしも多くの学生がこのようなことに無関心だとすれば、それは教育陣の指導力の不足であり、教育に対する目的意識の希薄さを問われても仕方のないことです。そこで、我々教育陣は、洞察力や創造性を養う場、骨太の精神力と体力を養う場として本校周辺の自然を活用し、学生達に自然の受けとめ方について一層の情

熱を傾けて指導すべきです。高校時代の受身の学習態度から一転し、能動的姿勢、好奇心や興味に支えられた自主的学習態度を学生のうちに我々教育陣が誘導・励起させることを更に心掛けるべきと考えております。このことはわが校の創立以来の伝統である実学重視の校風の基調でもあります。

他大学にみられない教育の一例としては、全学生に二週間以上の乗船実習を課していることでしょうか。これは実学精神の具現化の一例です。この精神を通して培われた資質が、いかなる職場でもその真価が発揮されることは既に多くの卒業生諸氏により実証されております。また、本校の裏海岸での瀬渡し船遭難の際の学生諸君の救助活動の献身性との確かな対応能力も本校教育の成果の一つといえるでしょう。

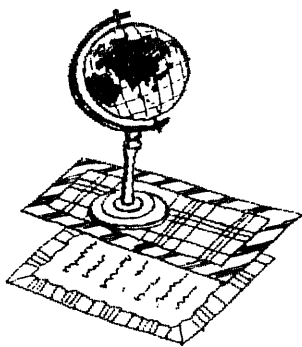
今後、実学の面もさらに充実させる具体策の一例として、実験漁場の利用について検討しております。これは、大学の農学部での演習林や演習農場に相当するもので、大学の利用可能な海域をもつのは全国で初めての試みです。実現すれば管理型漁業、増養殖などに関する教育、研究が一層充実するものと考えております。

水産大学校での教育は、少々のことでは挫けない精神力と体力、何事にも物おしせず立ち向うフアイト

を育てる一方、細密高度に分化した近代技術を吸収消化できる技能や基礎知識をバランス良く身に付けさせて社会に送り出すことです。後者の部分についての強化は、今春の学士号取得が可能になったことを踏まえて、更に研究科の強化や水産教員免許の獲得に向けて努力中です。特にこの中に新時代にあさわしい学問研究の分野をできるだけ盛り込むことになっております。このように調和のとれた学生達を育てることに目標を置いて邁進すればわが校の社会的評価は一層高まるものと思います。

一方、本校は水産界を中心に社会の随所で活躍中の卒業生との誇るべきネットワークをもっており、今後ともこれを大切に活かしてゆかなければなりません。

以上、水産大学校の教育方針の概略について所感の一端を述べさせていただきます。



卒業生の寄稿

学園生活をふり返って

長井 敏

(平成元年三月卒業)

私は、四年前に増殖学科を卒業し、兵庫県に就職しました。現在は、水産試験場の資源部で研究員として、播磨灘の漁場環境について調査・研究を続けています。仕事の都合で年に一度くらいは母校へ行きますが、吉見独特の磯の香をかいだたとたん、下宿生活や学校での講義、卒業の実験等を懐かしく思い出します。

卒業論は、水産植物学講座の大貝先生に指導を受け、藻場造成に関する研究をテーマに頂き、頑張りました。私は、卒業にとりかかった当初から公務員になることを目指していたのですが、先生は試験勉強をする上で卒業の実験等がじゃまにならないように十分な配慮を下さいました。この配慮のおかげで試験勉強はずい分捗りました。試験勉強や卒業の実験の合間に、毎日一、二時間程、校内で採ったどくだみを煎じたお茶を飲みながら、先生は御自身の研究に対する夢や抱負、あるいは将来我々が仕事をしたり、結婚して家庭をもった時に必要な知恵や心構え等、先生の失敗談を混じえて話をして下さいました。私がこの対話の中で得

たものは多く、社会人になってからあの時教えてもらっていなかったら大失敗をしていたと思うことも何度かありました。大変有益なアドバイスをして頂いたことを今でも深く感謝しています。

大学での講義についてですが、一、二年生の時は教養科目が主であったことに対して、三、四年生では専門科目とその実験がほとんどでした。各科目は、それぞれ御専門の先生方が、それまで積み上げてこられたものですから、内容が非常に充実していました。また、先生方の体験談や余談も時折混じり、「へえっ」と驚いたり感心したことも多かったのです。厳しく、かつ熱心に教えて下さる先生方が多く、講義が終わった時にくたくたに疲れていた科目がほとんどでした。これら講義で学んだことの多くの内容が公務員試験に出題されており、恩恵を受けた卒業生もずいぶんいるのではないかと思います。仕事柄、事あるごとに講義ノートを引きっぱり出しては勉強をやり直している仕方で、学生の頃のハチャメチャな生活を思い出しては独り苦笑いをしています。在学中、先生方の手抜きのない講義や時折の人生訓話にややもすれば疎ましく思いがちでしたが、講義の時に先生方から伝わってきた熱意は、我々学生の将来に対する熱い期待と暖かい思いやりだったのだと今では確信しています。

社会人になつて

田村 圭

(平成四年三月卒業)

昭和六十三年に入學して前期一杯退學することばかり考えていた一人の卒業生の記です。

入学当初、いろんなことで悩んだものの、多くの教官、先輩、友人の励ましによつて、部活、バイト、勉強(これは威張れませんが)を何とかこなし、平成四年三月無事専攻科を卒業、現在、出光タンカーの三等航海士として頑張っています。

六月、乗船命令で航海士のヒヨッコとして、初めて乗船したタンカーは二十五万トンの巨大船でした。船橋からは船首のマストが遙か遠くに見え、人影も双眼鏡で見ないと誰だか判別できないほど大きな船で、はたして自分がこの船の目となり頭脳となり得るのだろうか、不安で一杯でした。

最初の一航海は他の航海士と合ワツチでしたが、二航海目からは研修乗船であっても、しっかりと当直を任せられ、出港後、数日間のワツチはリーダーを見てるのが精一杯の状態でした。他にも仕事はあるのですが、務めを終えると疲れがドオーッと一度に出てベッドに直行の毎日でした。しかし、その内、何度か他船を避航したり、変針操船を行ったり、船位も正確に海図に記入できるようにな

ると次第に気負いが取れ、安全航行がサマになってきました。そうすると今度は、「この二十五万トンの大きなタンカーを、ワツチ中は自分一人の判断で動かしている。乗組員の人命と高価な船と積み荷をあずかっている。自分は日本のために原油を運んでいるのだ。」という充実感に満ち溢れ、水大に入學し、この道を選びました。入学当初、いつ退學しようかと悩んでいたことが、ウソのようです。

停泊中のタンカーの仕事は、原油の積みと揚げですが、その作業に必要なポンプやバルブの操作等、どれを取っても初めてのことでした。作業中、自分は航海中の士官から停泊中の見学者に早変わりしてしまい、周囲の張りつめた緊張感には別の戦場を見るようで、早く一人前の戦力にならなければいけないと思えました。しかし、それも乗組員の方々の親切なご指導のおかげで何とかこなせるようになりました。

少人数の近代化船でベルシャ湾航路三航海ではありましたが、今まで以上に船に対する愛着が増し、他人との生活も苦にならなくなりました。インド洋、アラビア海の夕日の美しさ、緊張感のある職場のクルーの心の暖かさに包まれて自分の幸せをつくづく感じています。

今の私は平成四年十二月一日から

一年間陸上勤務です。そして、会社のノウハウをしっかりと覚え、再び海上で頑張ります。何年後かに、そのまま船で働いてキャプテンになるか、それとも陸上の出光マンになるか決断する時期がくると思います。どちらを選んでも悔いのないように、頑張りたいと思います。

最後に、今の私があるのは、教えて頂いた水産大学校と、新米ヒヨッコ航海士を一人前の船乗りに育てあげたために尽力を惜しまない会社のおかげだと、深く感謝をしているところです。

今、レトルトがトレンド

古川 羊介

(平成元年三月卒業)

入社して二年足らず。距離に負けるなと恋に燃え、そんなことはおかないしと転職。それでも負けずによりやく結婚。私にとっては激動の二年。活躍の日々というより、嘆き、苦しみ、悪戦苦闘の毎日ですが、私の近況をお聞き下さい。

(株)ニチレイに入社して私は生産部生産第三課に配属されました。この部は加工食品事業の生産部署を統合して発足した、できたばかりの部です。仕事内容は国内外の加工食品生産の企画・調査・実施そして管理と広範囲にわたっています。特にこの課は常温食品(調理缶詰・レトルト

食品)の管理を行う部署で、その常温食品の製造および生産管理、技術等の修得のために、今、私は山形県にある大栄食品(株)で研修中です。

生産工場では、毎日14~17アイテムの製品を生産しており、私も牛丼やシチュー・カレーなどいろいろなものを仕込みました。サイレントカッターで野菜のみじん切りをしたり、シーマーやシーラーを運転したり、レトルト殺菌の作業など、製品を生産するための工程(原料加工・仕込み・充填・殺菌・包装・出荷)を一年半かけて学びました。

現在は工場内にある商品開発・品質管理課に勤務しています。商品開発では既存商品の品質・コストの見直しのための試作や新商品の開発などをしています。品質管理ではクレーム処理、製品への異物混入対策、工場内の衛生管理、製造した製品についての開缶検査、製品の細菌検査などをしています。

このような仕事をしていて、私が今一番感じるのは、学生時代の講義や実験(微生物学実験、レトルト試験機によるFo値の測定など)、実習を通して学んだことが活かせる仕事であるということです。しかしながら、活かせる仕事とわかっていても、なかなか学んだことを活かす程に、頭脳に知識が詰っていないのが現状で、社会人になつても勉強の日々が続く私です。今年四月で社会人三年

目。社会人としての自覚をもって、まず、基本に立ち戻り、置かれた状況に対して、周囲を注意深く観察、分析し、また新しい事実を見い出すなど足もとを踏み固めるような姿勢で仕事を進めていきたいと思えます。

卒業を間近にひかえて

小 菫 宏 文

(漁業学科専攻科)

海、船、魚、水産……この単純なレールで水産大学校を選んだ僕は、昭和六十三年四月の入学式の日、満開の桜を見ながら、山と海があるこの地をとて好きになった。夏になれば、いつも仲のよい友人と学校の裏の海岸で泳いでいた。遠く岸を離れ、照りつける太陽を浴びながら、手足をのぼして浮き身をする、なんとも気持ちがよく、まさに「我は海の子」だった。

三年生からの専門課程では、当然、技術課程を選んだ。同じ道をめざす同級生が半数以下になったため、陸上の教官、練習船の教官にマンツーマンに近い指導を受け、このように親身になって学生を指導してくれる大学が他にあるだろうかとつくづく感じた。その割には、物忘れが良すぎて、心底、情熱を注いで頂いた多くの先生方には申し訳なく思っています。

授業と乗船学習が並行して行われ

ることは、教室で学んだ知識と現場の技術がよく理解でき、いいシステムだと思ふ。初めての乗船実習では、規律や船内生活の厳しさに驚いたが、日を重ねるにつれ、また、何度も乗船実習を経験するにつれ、その大切さがよく分かるようになった。「板子一枚下が地獄」の世界でミスをしたため、航海士のカッコ良さや漁師の段取りの良さを船内の講義とデッキ上の実習でしっかりと学ぶことができた。眠かった朝別課も、廃止すべきだと思つた巡検も、航海当直も、天測も、掃除も、食事当番も、操練もすべて行き着くところは「板子一枚下の地獄」に落ちないためのものだった。

四年生と専攻科で行われた遠洋航海では、二回にわたり、外地を訪れ国際人としての感覚を身につけることができた。四年生の時は初めて訪れた外国の地に驚き、すべてが物珍しかった。皮膚の色、髪の毛や目の色が違う人と、日本とは違う街並みで違う言葉で話をするだけで感動だった。専攻科で二度めに外国を訪れたときは、日本を外地から認識した。日本の経済発展や教育水準の高さ、日本人の公共心のなさ、日本の若者のシラけた感覚などを痛感した。また、澄み切った青空、美しい海、悠々と泳ぐ鯨、寶石をちりばめたような夜空を見てみると、心はなごみ、地球環境保全の大切さを感じた。

今、専攻科生の自分はまもなく卒業を迎える。海にあこがれ、この学校に來た。そして、多くのことを海に学び、海の職場を選んだ。卒業後の進路は水産庁に決まり、最後の専門科目の仕上げに一生懸命である。先生方からみれば、頼りないかも知れないが、残り少ない学生生活を悔いのないよう努力したい。そして、社会人になったら、水産大学校で学んだことを大いに生かしたい。水産庁の船に乗り、活躍したい。日本の水産は下関の水産大学校といわれるようになりたい。よい航海を続け、立派な船長になりたい。夢と希望は大きくふくらむ。巣立ちの時期はもう目の前だ。学びやと吉見の町に別れを告げ、飛び立とうとしている。後輩達に伝えたい。自分の学生生活は悔いのない、いい青春だった。この学校にきて本当に良かったということを。自分をこのように育ててくれた多くの人々に、どこかの港街で再会し、語り合えることを祈りながらペンを置く。



在校生の寄稿

森 本 利 晃

(増殖学科四年)

今から四年前、大学受験を数カ月後に控えていた私は、突然それまで漠然としか考えたことのなかった自分の将来を、ある程度、具体的に決めなければならぬ時期がせままっているという事実にあせり始めていた。自分にはいったいどんな道が向いているのだろうか。何を職業として生きているのかが自分に一番あっているのだろうか。

私が、水産大学校を選んだ理由というのは、まず生物が好きであったこと。それと昔、父によく魚釣りに連れて行ってもらっていたので、「海」という場所に人一倍興味があり、「海」や「魚」を相手に仕事ができたらどんなに楽しいだらうと考えたからです。

さて前置きはこの程度にして、卒業を間近に控えた今、この水産大学校での四年間の思い出を振り返ってみます。

一年次―授業は一般教養が主で、毎日一講目からあり、高校のとき想像していた「暇な大学生活」とはずいぶんかけ離れたものであった。しかし、バイトも始め、生活を共にす

る友人も多くできたことで、今考え
てみるとそれまでの考え方を換えさ
せられる重要な一年だったように思
う。

二年次―専門科目が始まり、興味
深い講義が多かったので、授業に対
する退屈なイメージというのがなくな
った。なかにはどうしても寝てしま
う講義もあったが……。また他の大
学ではあまり体験できない臨海実習
や内水面実習などもあり、レポート
等に追われたが、新鮮な日々を過ご
せた。

三年次―月曜日から金曜日まで、
相変わらず専門の講義のオンパレー
ド。高度な内容のものからそうでな
いものまで、自分がほとんど水産に
染まっていくのがよく分かる毎日だ
った。

四年次―卒論の実験と公務員試験
の勉強とで七月までは毎日、夜中の
二時、三時までかかり、朝学校に遅
れて先生にお小言をもらう日も少な
くなかったが、四年間で最も充実し
た時だった。

最後に、水産大学校での四年間は、
今まで自分のまわりにはいなかった
一風変わった友人や、自分の将来の
方向を明確にして下さった先生方に
巡り会わせてくれた、私にとって陽
のあたる場所だったように思う。



水産大学校に入学して

田 中 智 子
(製造学科一年)

もう四月だというのに雪がちらつ
く函館空港を発ち、私が下関にやつ
て来てから既に八ヵ月余りになりま
す。

私は水産学を学ぶため、この大学
に入学しました。原始生命誕生の場
である海や、鰓呼吸で水中生活をし
ている、下等な脊椎動物の「魚」に
興味を抱いたのが高校一年の時。そ
んな単純かつ漠然たる好奇心が、い
つの間にか、「水産を学びたい。」と
いう願望に発展していました。

「水産学って何をやるの?」―
私はよくこのように尋ねられ、もし
て決まって口ごもってしまいます。
一口に水産学といっても、非常に幅
広い分野から成り立っています。そ
れは、水産大学校に四つの学科が存
在することからもわかるでしょう。

また、水産学といえれば、一般的に
普段の私達の生活とは全くかけ離れ
た学問だと思われがちです。確かに
陸上で生活する私達にとって、水中
はまだまだ馴染みが薄く、言わば摩
訶不思議な世界となっているわけ
ですから。

しかし、今日の社会を様々な方向
から眺めてみると、人口爆発による
食料不足、深刻化する環境問題、国
際化の発展に伴う海運業の重要性な

ど、いかに水産界の占める割合が大
きいかがわかることと思います。水
産学は私達の生活と深い関わりを持
つ、身近な学問であると同時に、将
来、種々の課題に直面せざるを得な
い学問でしょう。

このような意味で、水産学は非常
にやりがいのある学問だと思います。
まだ一年生なので専門的な部分に関
しては全くわかりませんが、きつと
面白いと感じるに違いないと思っ
ています。

さて、次に水産大学校の印象につ
いて述べようと思います。これは私
見ですが、一言で表すと「地味で素
朴」という、アットホームな暖かさ
が感じられます。特に私は気候をは
じめ、食べ物、言葉など、様々な面
であまりにも違いすぎました。しか
し、それにもかかわらず大きな不安
も覚えずに生活してこれたのですか
ら。

唯一の気になる点は、単科大学と
いうこともあって、ともすれば一色
のカラ―に染まりがちだということ
です。折角、全国至る所から学生が
集まっている訳だから、総合大学に
劣らずいろいろなカラ―で染めあげ
ることができたら……と思います。

限られた四年間の大学生活で、多
くのことを吸収し、一回り大きく成
長したいと思えます。



平成四年度日本水産学会秋季大会

大きな成果をあげて終了

秋季大会実行委員会庶務係 浜田盛承

昨年の水大学園だより(第六号)の巻頭言の中で網尾校長が書いておられましたように、昨年十月二日から五日にかけての四日間、本校で平成四年度の日本水産学会秋季大会が開催されました。本校での開催は昭和二十五年、三十九年、五十一年に次ぐ第四回目ですが、前回からは実に十六年ぶりの開催ということにな



りました。この間に本校にはいろいろな出来事があり、外観はもとより中身も充実させながら大きく様変わりいたしました。この数年をみてもたとえば三年前に創立五十周年記念事業を行ったこと、二年前に本校卒業者に学士号が与えられるようになったことなどですが、これらを歴史的に意義づけるためにも今回の秋季大会を成功させようというムードが全学的に高まって参りました。そこで、網尾校長(実行委員会委員長)を先頭に水産学会会員の教官ならびに事務官から成る大会実行委員会が発足いたしました。その時以来、委員会のメンバーは各自担当の役割を遂行するために準備を進め、しっかりと受け入れ体制のもとで大会を迎えることができました。

参加者は全国の水産系大学、試験・研究機関ならびに企業の研究者、大学院生などが主でしたが、ほかに多くの官庁、企業の方々の参加がありました。北は北海道・釧路から南は沖縄までの参加があり、実質的参加者は一千余名にも及びました。研究発表数は秋季大会としては過去最高(五一五報)であり、昨年の北里大(三三七報)、一昨年の近畿

大(四四三報)を大きく上回りました。そのため、研究発表会場の設営・運営にたずさわった会場係の心労は大変なものであったと思われます。その他、会場ごとの研究報告の選定、発表順序の決定などの係も大変苦勞しました。

研究発表の分野は漁業、資源、増養殖、環境、生化学、利用、加工、バイオテクノロジーなど多岐にわたりました。時代を反映し、湾岸戦争による石油流出に伴う海岸汚染についての一連の報告もありました。

また、会員の交歓会が市内のホテルで開かれ、六〇〇人を越える参加がありました。その規模の大きさと用意周到な準備、スムーズな進行、下関市のフク連盟(小野英雄唐戸魚市場(株)社長)の協力による「フク刺身ならびに西山正己名人による「牡丹盛り」、「鶴」のフク刺実演など、いずれも参加者に満足いただけたと思います。

また今回の大会で特筆すべきことは、韓国・釜山水産大学校教授四人による特別講演が行われたことです(ただし、一人の方は体調不調のため来日されませんでした)。言うまでもなく、本校と釜山水産大学校は成り立ちからして兄弟の関係にありますが、その絆を強めるとともに学問の相互交流に意義があったものと思います。特別講演の演題と発表者は次のとおりでした。

- 一、鎮海湾の海洋汚染 張善徳教授
- 二、シマハゼの成長に伴う骨格発達 の過程 金容億教授
- 三、韓国における養殖の現状 趙載潤教授
- 四、韓国ドジョウの染色体操作(講演取り止め) 金東洙教授

大会期間中は絶好の晴天に恵まれ、参加者も多かったこと、大会運営にほとんどトラブルが無かったことなどから、参加された方にはおそらく良い印象を持っていただけたものと思います。本校に久しぶりに来られた方はその間の変わりぶりに目を見張っておられましたし、初めての方は学校ならびに周囲の雄大な自然に感嘆しておられました。

大会の運営に当たっては教官、事務官のほかに、多数の学生諸君の協力をいただきました。学生にとって学会は初めての経験だったと思いますが、一糸乱れぬ協力ぶりに大会実行委員会としては心から感謝しています。

また、大会は水産大学校後援会、漁漁会をはじめ関連の企業・団体から、さらに山口県、下関市からも多大な協賛をいただき、スムーズな運営ができました。多くの方々のご協力、ご協賛のもとに平成四年度日本水産学会秋季大会が大きな成果をあげて終了したことを報告申し上げます。併せて学内外の方々のご協力に心から御礼申し上げます。

船舶職員法の改正と漁業学科・ 機関学科のカリキュラム改正について

漁業学科長 高島末夫

大学の学部学科では大学に課せられた本来の専門教育に加え、更に専攻分野に密着した関連法律に規定された内容を充足する教育が行われている。大学を卒業後、国家試験に關係する資格が与えられるとか、あるいは国家試験を受験するとき科目の一部が免除されると言った学科の教育では、關係する法律に注意が払われている。

本校の漁業学科技術学課程と機関学科船用機関学課程の学生は、船舶職員法に基づき定められた内容の教育を受け、必要単位数を取得し、さらに練習船で必要な教育を履修すれば、巨大船の船長・機関長への道に通じる三級海技士(航海または機関)の国家試験を受験する場合、および運航士受験の場合には学科試験が免除されることになっている。

このことは、卒業後直接船舶に乗り航海士または機関士として活躍しようとする学生、さらに直接乗船しなくとも漁業会社、船舶関連企業、造船、港湾流通企業、海事関連企業、高校教員等陸上で活躍したいと考えている学生には極めて大きい特典である。

言うまでもなく大学にはそれぞれ

の大学の教育理念があり、本校においても水産学、漁業学、機関学の創造的教育カリキュラムの実施を根幹としながらも、卒業後学生に付与される資格を考えると、漁業学科、機関学科ともに船舶職員法と言う法律と学科教育とは深い係わりがある。

この船舶職員法が、もっと詳しく説明すれば、この法律に基づく船舶職員法施行規則の一部が平成四年三月改正され、さらに平成五年初頭に再度改正されることになっている。この規則が改正された背景にはいろいろ要素があるが、なかでも注目するのは商船系大学、水産系大学の教育現場からの要望と練習船教育の充実が挙げられる。

教育現場からみると、その一つは資格取得のために海技関係、船舶関係の単位が他の専門分野に比較して多すぎ、学生の勉学に大きい負担となっていること、さらにそのために学生が求める自由な科目の選択ができにくいことが挙げられる。

また練習船教育の中で、教育効果の高い適切な内容の科目については、席上課程の科目と同様に正式な単位として認め、海技科目の精選を図る必要がある。

このような教育現場の認識は、商船系大学、水産系大学の共通の認識であり、平成二年二月に鹿児島大学で開催された全国水産系大学練習船教育研究会でも、東水大と本校が共同して議題を提起し、討議のあと本校を含め五大大学(校)長連名で運輸省海上技術安全局長に要望書を出した経緯がある。

規則改正の主旨は、次のようである。規則では科目の内容と取得単位数を規定しているが、改正の前後を比較すると(括弧内の数字が改正後の必要取得単位を示し、いずれも数字以上の単位が必要である)。

(漁業学科関係)
三級海技士(航海)五二(四十)、その内容を比較すると、航海に関する科目二十(十五)、運用に関する科目二四(十八)、法規に関する科目五(四)、英語に関する科目三(二)

(機関学科関係)
三級海技士(機関)五二(四十)、その内容を比較すると、機関にかんする科目その一、その二、その三の合計三八(三三)、執務一般に関する科目十一(四)、英語に関する科目三(二)となった。

漁業学科・機関学科共通の性格をもつ運航士資格に係る科目は、これまで二九単位以上必要であったものが二三単位以上となった。以上のように、必修単位数が若干縮減された。本校ではこの規則改正

を受けて学則改正となるが、これらの科目は、本科と専攻科にまたがり教育しているために、学科関係教官と船舶教官により充分な協議の上、学則改正は本科および専攻科ともに行った。また新学則の適用は、漁業学科では平成三年度入学生から適用することにした。また機関学科では、関連する基礎科目の改正数が多かつたために、平成五年度入学生から適用することとしている。

なお、機関学科船用機関学課程および専攻科船用機関課程の学生が対象となる船橋当直三級海技士(航海)については、この資格取得に必要なタービン練習船による実習が不可能なため、単位を縮減することができなかった。

今回の学則改正により、漁業学科、機関学科のそれぞれ両課程の学生の卒業条件となる取得単位数は百三十六単位となった。

専門科目の単位数の減少により、学生諸君には若干時間のゆとりができるが、これは専門科目の選択の幅を広げ、勉学に柔軟性をもたせたものであり、一方練習船実習はさらに重要性を増し、船内で多くの知識、技術の習得が必要となる。公務員、船舶職員ともに国家試験は、準備と努力なしでは合格は難しい。学生諸君には、大学の専門教育が国家試験のみを対象とした教育ではない点と今回の学則改正の趣旨を十分理解し、今後の健闘を期待している。

新 任 紹 介

大 学 生 に 思 う

事務部長 瀧 澤 二 三 男



昨年六月に東京から赴任してまいりました。出身は新潟県で、県の

ほぼ中央に位置し、日本一の大河・信濃川と清流・五十嵐川の合流点に開けた三条市が私の故郷です。

さて、四月ともなると、通勤の電車などで、新大学生と思われる若者達と乗り合せることが多くなります。そうした若者達の多くが申し合せたように小脇にかかえている本、そして一心に読みふけている本は、ほとんどといって良い位、部厚いザラ紙の本に限られているようです。驚きです。のびのびと育つべき少年時代に、朝から晩まで受験勉強をしてきて、やっと入学にこぎつけホッとしたところなのでしょう。これからのんびりしたい気持は分らないでもありませんが、これでいいのだろうか、と考えさせられます。

最近の風潮として、入学試験という関門を通ったことにより、幼稚園以来十数年間の勉学の目的を達したと思いき、後は「卒業証書」を受

け取ることを考えて、大学生活を送る学生が多いように思われます。

入学試験をパスして本校に入学された諸君には十数年勉強をしてきて、その勉強とはどんなものだったのか、ここで一度振り返ってもらいたいと思います。

勉強するという言葉に二つの意味があると思います。その一つは、学ぶ、習う、稽古する、覚える、記憶するでしょう。もう一つは、学ぶ、調査する、研究する、学問する、努力するでしょう。

大学での勉強は、後者であるべきで、単なる知識のつめこみであってはいけないと思います。

自分の希望・将来目標を自覚し、大学でこれから何を学び、どの方面へ進出しようとするのか、この際、しっかりと自分を見つめ、目標を定めてそれに向けて努力していただきたいと思ひます。

学生諸君に本当の意味の勉強をしていただくため、教育施設及び環境整備等を通して、立派な学園作りに役立ちたいとつくづく思う今日この頃です。

着 任 の ご 挨拶

天鷹丸船長 久保田 勝 彦



四月一日付けで天鷹丸乗船を命ぜられ、西海区を水産研究所陽光

丸から転船して参りました。昭和四十年に水産庁に入庁し、北洋漁場におけるサケ・マス・カニ漁業の指導取締り、南極海におけるオキアミを中心とした南極海洋生態系の調査、九州西海域におけるマイワシ産卵群の音響調査等に船舶職員として従事してきました。

この度、はじめて練習船舶勤務となり、潑刺とした学生諸君との出会いに緊張しつつも新鮮なものを覚え無我夢中でやっております。四月八日、専攻科生二十三名が乗船してきました。

彼等が本船教官諸氏の熱心な指導の下に、遠洋航海、日本一周航海、東シナ海トロール航海と実習を重ねることにより高度な知識技術を習得し、自己完結の精神を養い、海技を伝承してゆく姿を見て練習船の素晴らしさを知り、かつ、責任の重大さを痛感しております。

いま、本校では創立五十周年を契機に二十一世紀に向けて新たな学園づくりが進められています。それが

どのように方向づけられようと、水産学の教育研究にとつて練習船が必要不可欠なものであることに変わりはないと思ひます。むしろ今まで以上に練習船による教育研究を充実させる必要があると考えております。

天鷹丸は、堪航性、操縦性、居住性に優れ、最新の教育研究設備を装備しており、乗組員の資質は高く最高の練習船だと思ひます。安全については最大の配慮をもつて学生諸君の乗船を迎えたいと思ひます。

練習船は学生諸君のために何ができるのか、水産大学校としての研究のために何をすべきなのかを真剣に考えたいと思つています。そして海技習得のためであれ、卒論研究のためであれ、意欲に燃えて乗船してくる学生と一緒に潮を被り、勉強したいと思つています。

皆様のご指導ならびにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

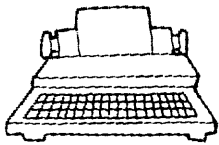
いま水産業は新しい

教養学科 三 輪 千 年



エンジン音と油と魚の臭いがミックスした薄暗いエンジン・ルー

ム、船体が動揺し波が打ち込む甲板



上での作業、薄暗い早朝からの寒風に吹かれての網起こし作業、と水産業に対するイメージは「汚い」「暗い」「危険」のいわゆる三Kに、さらに「きつい」の一Kが加わった四K職場とも言われています。水産業に対するイメージから、若者に敬遠される職業の一つが水産業です。従って、漁業を営んでいる漁業者の子弟でも、漁業を嫌って跡を継ぐ者が極端に少なく、都市に出てサラリーマン生活を送る者が多いのが現状です。

水産業が、こうした三Kないしは四K職場だからと言って、将来に対する展望がまったく無いのかと言えば、そうではありません。

一つに、バイオテク、資源管理、資源情報のネットワーク化などと、水産業における技術革新は、今日のコンピュータ化、情報化とともに高度に発達してきています。これらの最新技術知識を持つてしなければ、今日の水産業が抱える課題に因應することはできません。

二つには、今日の国民生活の豊かさを反映して、新鮮度の活魚・生鮮魚からレトルト食品やチルド食品などの高度加工食品といった多種・多様な水産物「商品」が市場に出回っています。水産物「商品」の消費・需要形態は、食生活の高度化に伴い今までにいく多様化し、しかも個性化しています。そうした水産物「商品」市場に見合った供給体制を整え

ることも課題となっています。従って、水産物「商品」の消費・流通に対する社会・経済的な新しい枠組みの究明も欠かすことはできません。

三つに、水産物「商品」の生産・流通を考える場合、漁場を提供する諸外国との入漁交渉及び漁業技術協力と技術移転問題、輸入水産物をめぐる関税を始めとする諸問題、さらには地球環境と漁業資源の開発・利用問題等々、わが国一国だけで解決がつかない問題はなにも一つなく、国際間の協力・協調（国際化）関係を抜きには考えられない現状があります。今後、究明して行かなければならない課題は、ここに挙げたものだけでなく他にも限りなくあるものだと思います。しかし水産業の現実には、冒頭で記したような厳しい側面があることは否定できません。だからといって水産業の将来が悲観的であるかといえ、今日の新たな問題解決に向けての新しい枠組みからの発想や、課題に対する取り組みを行っていくには、展望は必ず開かれるものです。そのためにも、若い柔軟な頭脳とエネルギーが、今まで以上に水産業には必要となつていっているのです。

ものを造ることの重要性

機関学科 江 副 覚



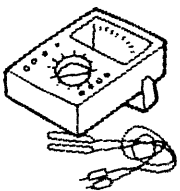
数年前、私のところにいた卒業生が福岡にある、大手コンピューター系のソフト会社に就職の面接に行ったとき、卒論の内容について質問されて、「歯車の面圧強度に関する研究を行っています。」と答えたら、面接官が「まだ油にまみれて歯車の実験をやっているようなところがあるのですか。」と言われ、ショックでその後の質問に満足に答えきれず落胆した様子で帰って来て、「もうだめです」と言った。私はそれを聞き、「そんなことを言うような人が幹部にいる会社の将来性はないからこちらから断れ」と言ってしまった。

その数日後、学生は「私の希望通り？」に不採用の通知をもらった。また、七年ほど前、スペースシャトル・チャレンジャーが打ち上げ直後に爆発するという不幸な事故があった。この原因の詳細については知らないが、その遠因の一つに、米国内の研究開発に対する姿勢があると言われていた。すなわち米国が歯車に代表される生産技術を軽視した結果が招いたものであると。世界の

最先端の技術を持つとされている米国の航空機産業において使用される歯車の多くが外国製である。歯車の専門家が職を失うとともに設備や技術の面で精密加工と生産力を失い、現在の工業界で要求されている性能を満足する精密歯車の生産が国内で対応できなくなってきたためである。資源も土地もないわが国においても、数年前のバブル経済時には、機械系学科にきた学生が銀行や証券会社を就職先に選ぶ場合があった。若者が三Kの中で物を造ることを嫌がる傾向があることは、米国以上に深刻で影響が大きいと思う。

ところで冒頭の学生は、第一志望であった大手自動車メーカーに入社し、研究所で新車の開発に従事し活躍している。また最近、米国が他国に対して優位を確保しなければならぬ技術に、半導体や光学とならんで工作機械と精密歯車が挙げられていると聞く。

工学でも縁の下に隠れている歯車を例にあげて、造ることの重要性について述べたが、機関学科のハード系も学生に興味を抱かせ、さらに魅力的で楽しいものになりたい。



学生部だより

平成五年度

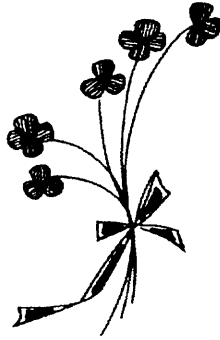
入試について

平成五年度の本校志願者は、漁業学科百二十八名、機関学科百五名、製造学科百三十八名、増殖学科二百十五名、計五百八十六名の応募であった。定員に対しては、漁業学科二・六倍、機関学科二・一倍、製造学科二・八倍、増殖学科七・二倍となった。

推薦入試は、漁業学科二十三名、機関学科九名、製造学科二十五名、増殖学科十名、計六十七名の応募であった。

一般入試は、平成五年二月十四日(日)に下関試験場(本校)と東京試験場(東京商船大学)の二会場で実施され、いずれも好天に恵まれ、順調に終了することが出来た。

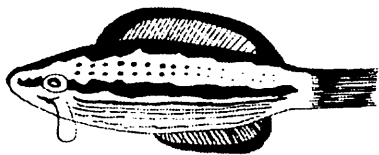
次年度の募集については、全学あげての更なる努力が必要である。



平成四年度卒業予定者

に対する求人企業及び進路状況について

求人状況は、バブル崩壊に伴う先行き不透明感にも拘らず、今年度の求人件数は六七八件(求人倍率四・〇倍)となった。今年度の進路状況は別表のとおりである。



平成四年度卒業予定者の進路状況 (平成5年1月8日現在)

◎進学(大学院等)	漁船保険中央会 (勤)九州環境管理組合 東京商船大学大学院 日本海洋レジャー安全協会 三重大学大学院 (勤)日本缶詰検査協会 広島大学大学院 ◎民間企業 高知大学大学院 大阪商船三井船舶(株) 九州大学大学院 共同船舶(株) 宮崎大学大学院 新日本カーフェリー(株) 長崎大学大学院 阪九フェリー(株) 水産大学校研究科 日本汽船(株) 水産大学校専攻科 国際エネルギー輸送(株) ナビックスライン(株)	ニチモウ(株) 名古屋製粉(株) キュービー(株) ロイヤル(株) タカキペーカリー(株) 伊藤ハム(株) フンドーキン醤油(株) ケンコーマヨネーズ(株) 日清製粉(株) 日新興業(株) (株)日阪製作所 ダイキンプラント(株) (株)アマダメトレックス (株)西島製作所 (株)大島造船所 旭機装(株) 日本電子機器(株) 日本新薬(株) 日本配合飼料(株) 第一製薬(株) 日本エービーエス(株) (株)大金製作所 山武エンジニアリング(株) 山武計装(株)
◎就職(官公庁)	山九(株) 日本水産(株) (株)ニチロ (株)水研 (株)極洋 東洋水産(株) 大栄太源(株) 大阪魚市場(株) 中部水産(株) 東都水産(株) 中央魚類(株) 横浜冷凍(株)	
◎水産関係各種団体	日本製粉漁業協同組合連合会 長崎県信用漁業協同組合連合会 農林漁業金融公庫	

区分	学 科	専 攻 科		漁業学科	機関学科	製造学科	増殖学科	研究科	計
		船舶運程	船舶課程						
卒業予定者数		14	12	54	50	51	30	5	216
進 学	大 学 院	0	0	1	2	4	7	1	15
	研 究 科	0	0	0	3	2	3	0	8
	専 攻 科	0	0	16	6	0	0	0	22
計		0	0	17	11	6	10	1	45
就 職	国家公務員	1	2	1	1	2	3	0	10
	地方公務員	0	0	2	2	2	5	1	12
	水産各種団体	0	0	4	2	0	2	1	9
	水産関係・関連	2	0	24	0	6	9	1	42
	船舶・海事関係	11	2	1	1	0	0	0	15
	造船・造船関連	0	1	0	28	0	0	0	29
職	食品関係・関連	0	0	1	1	29	0	0	31
	そ の 他	0	0	2	3	3	1	0	9
	小 計	14	5	35	38	42	20	3	157
※そ の 他		0	7	2	1	3	0	1	14
計		14	12	37	39	45	20	4	171

※他に48企業がありますが紙面の都合上、やむを得ず省略させて頂きました。

※その他=国家公務員・海技試験・大学院等の受験準備中の卒業予定者。

練習船の動き

平成五年度練習船の

世界一周について

練習船運航委員長

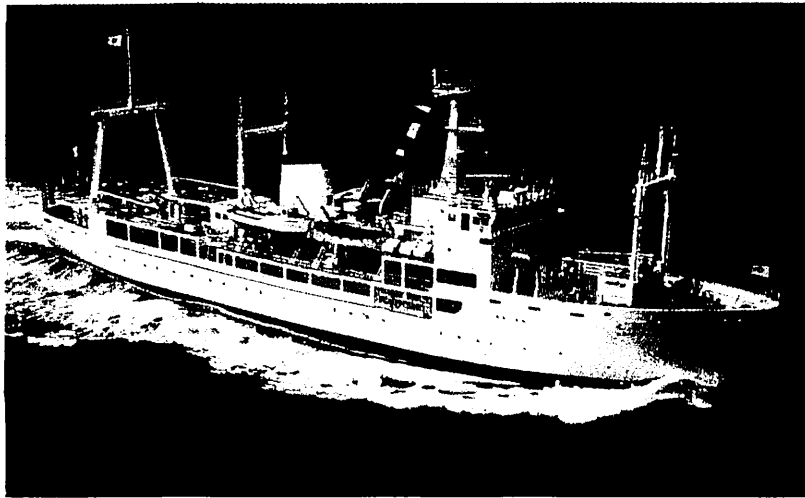
高 島 末 夫

最新の装備をもつ水産大学校練習船耕洋丸(約二千トン)・天鷹丸(約八百八十トン)は、今年も多くの学生を乗せ、各種の実習・調査研究のために日本近海と地球規模での国際航海を計画している。その中で注目される漁業学科・機関学科四年生の遠洋航海は、耕洋丸に乗船して、西回り世界一周航海が予定されている。本校練習船は、インド洋、南太平洋、北太平洋、大西洋と主たる海洋の調査・研究を毎年実施してきたが、平成五年度は昭和四十年の世界一周航海のあと、二度目の遠洋航海となる。食糧問題、漁業問題さらに環境問題等まさに地球規模での調査・研究が要求され、グローバルな視点と国際感覚なくしては事の展開が難しい時代、この航海には各分野から多くの期待が寄せられている。航海計画は練習船、調査研究計画は本校調査研究委員会と海洋調査委員会においてそれぞれ細部の検討が進められている。航海は下関を出港し、東シナ海、太平洋、南シナ海を南下しシンガポール寄港、さらにマラッカ海

峽を通りインド洋、アラビヤ海、紅海、スエズ運河を抜けてポルトサイド入港、続いて地中海に入りメッシナ海峡を通りイタリヤ・ナポリ寄港、再び地中海を西に進みジブラルタル海峡を抜けてモロッコのアガジール入港、大西洋沿岸で調査の後、再度アガジール入港する。その後は大西洋を一路西に進み、西インド諸島トミニカの首都サントドミンゴ寄港、続いてカリブ海、パナマ運河を通過して太平洋に出てメキシコ・アカプルコ入港、そこから南下しながらマグロ操業を行い、ハワイの南に達した点から海洋観測を実施しながら北上してハワイ・ホノルル入港、その後太平洋を一路西に進み下関帰港となる。太平洋でのマ

グロ延縄漁業と生態調査、大西洋でのトロール漁業調査、太平洋西経百六十度線上での連続した海洋観測、さらに地球規模での大気環境調査等の調査研究が計画されている。寄港地では食糧・水・燃料等の補給のほか、水産関連機関との交流・交歓、水産施設や漁業の実状見学等が予定されている。なかでもモロッコ・アガジールでは、現地の水産関係者の乗船と共同調

査・操業等が予定されている。この航海では英語、スペイン語等多くの語学が楽しめるほか、国際的な視野と感覚が十分身につくであろう。学生達のベツト数からみて、製造学科、増殖学科の学生も、自分の研究目的と一致するならば乗船は可能である。



施設紹介

平成四年三月、校内の廃水処理施設二系統が完成した。

一、酸・アルカリ処理施設

校内の各建物より排出される実験実習の廃液に対して薬品による中和処理及び浮遊物質等を凝集沈殿除去して放流する集中処理施設である。

二、合併処理施設

従来の単独し尿浄化槽を廃棄して一箇所に集中し、一般排水と併せて活性汚泥処理をして放流するものです。この施設は校内排水と学生寮排水に区分して設置されている。

これら両施設の完成により校内の排水は、瀬戸内海環境保全特別措置法による水質汚濁に係わる環境基準以上の水質を確保できるものと期待される。

なお、平成四年度に着工した施設整備工事は次のとおりである。

一、海水取配水設備工事

海水取水量を常時確保(現在は干潮時の取水不可)するものである。

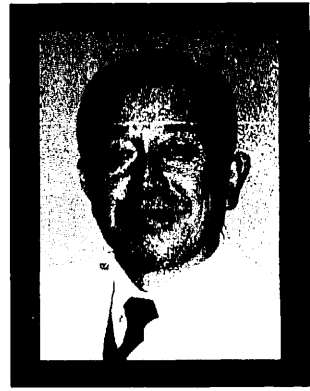
二、学生合宿棟整備工事

旧学生化学実験室の改修により、合宿室十三部屋、会議室及び談話室各一室、シャワー室、洗濯室を完備する施設となる。

三、学生寮暖房設備等改修工事

現在の蒸気暖房をルームエアコンに改修すると共に外壁の全面補修を行うものである。

計報



人物往来

△平成四年度▽

〔人事異動〕

4、1 (転入)

江副 覚

久保田勝彦

黒田 拓幸

吉田 芝之

田之畑康隆

井手 好宏

三輪 千年

青木 邦匡

井上 悟

前原 祐子

木野 輝昭

松本 貴弘

6、1 (転入)

瀧澤二三男

10、1

富賀見清彦

須田 有輔

近藤 昌和

〔来校者〕

7、10

水産庁長官

7、23

水産庁次長

9、28

ブラジル・リオ州漁業研究

財団

10、19

アルゼンチン海軍教育総局

ラファエル漁業学校長

〔転出〕

高柳 進

山崎 要

伊藤 正博

原 又男

三美 雅永

〔採用〕

松田 州司

島 秀典

鶴岡 俊彦

島 一雄

奥山 一雄

奥山 一雄

奥山 一雄

奥山 一雄

奥山 一雄

奥山 一雄

奥山 一雄

奥山 一雄

奥山 一雄

奥山 一雄

奥山 一雄

奥山 一雄

奥山 一雄

奥山 一雄

奥山 一雄

奥山 一雄

奥山 一雄

奥山 一雄

奥山 一雄

〔水産特論講師〕

12、19

水産庁次長

5、28

水産庁企画課長

6、16

水産庁水産流通課長大隈

10、27

水産庁研究課長

11、27

水産庁国際課

海外漁業協力室長

10、8

〔博士号取得〕

10、1

大韓民国釜山水産大学校

教授

2、19

大韓民国釜山水産大学校

養殖学科四年

食品工学科二年

海洋工科大学院

大韓民国釜山水産大学校

養殖学科四年

食品工学科二年

海洋工科大学院

大韓民国釜山水産大学校

養殖学科四年

食品工学科二年

海洋工科大学院

大韓民国釜山水産大学校

養殖学科四年

食品工学科二年

海洋工科大学院

大韓民国釜山水産大学校

養殖学科四年

編集後記

現在、大学は急速な転換期の真つただ中にあります。その中で組織の改革はもとより、数年後には大学就学人口の減少が予想されるからです。このような状況下でも、将来の水産業に関わる人材の養成と学理・技術の教授・研究の推進は本校が社会より託された使命といえるでしょう。水産業は社会的意義から、現在も将来も変わることなく、国民に蛋白質資源としての水産物を供給していかなくてはならないことは確実です。このため水産業を取り巻く環境が厳しくなってきた今日でも益々本校の使命を自覚しなければならぬと考えます。そこで今回の特集では、本校の教育方針を校長先生に述べていただくとともに、本校卒業生あるいは在校生の諸氏に社会での活躍の様子と学生時代の思い出、あるいは将来の抱負を紹介していただきました。本校教職員の教育・研究にかけると抱負と学生諸君の明るい学園生活と旺盛な学習意欲を再確認し、今後の水産教育あるいは研究進展ひいては社会への貢献の一助になれば幸いです。「学園だより」は本校関係者の貴重なコミュニケーションの手段として、創刊以来紙面と内容の充実に努めてきました。本号も多くの皆様の寄稿をいただき紙面を更に拡充しました。今後ともより一層の充実を図るため、多くの皆様のご意見をお待ちしております。



水産大学校
 759-65
 下関市永田本町
 2丁目7-1
 発行 水産大学校
 学園だより
 編集委員会
 電話0832(86)5111

水産大学校の現況

水産大学校長 松 生 治



平成五年十月十四日、晴れ渡った秋空にプレス・ヘリコプターが舞い、多くの見送り人と五彩のテープの乱舞の中を、本校創立以来二度目の世界一周航海に練習船耕洋丸は出航していきました。平成六年二月二十一日までの百三十一日間、総航程二四六九一マイル(約五万キロメートル)。漁業学科生十六名、機関学科生二十六名、製造学科生三名、増殖学科生三名、(何れも四年生)、そして陸上から指導教官三名が同乗しての航海です。

寄港地は、シンガポール(シンガポール)、ピレウス(ギリシア)、モナコ(モナコ)、アガデイール(モ

ロッコ)、ポルトカストリーズ(セントルシア)、アカプルコ(メキシコ)、ホノルル(アメリカ)です。これ等の寄港地においては、水産事情の調査見学及び親善行事が催され、そして、航海中においては、航海・機関・運用・気象・海洋調査実習や国際海峽法の研究が実施されました。この貴重な世界一周の航海は、練習船での団体生活を通して水産を实地・現場に学ぶ技能体得の試練場であり、お互いの紐帯は一層深まったことでしょう。諸外国における見聞は、国際感覚の一步進んだ修得を果たし、そして水産先進国として誇る日本の実情の認識を深め、二十一世紀に向けての水産のあり方への洞察力の涵養ともなり、それらは、近い将来において大きな効を發揮するものであることを信じています。

本校の施設状況について要約致します。平成四年度着工の海水取排水施設整備が本年度完成されます。学生クラブ活動棟の整備は本年度完成予定。製造学科実習工場の本年度着工、平成六年度完成予定。長い間の懸案であった図書館建設は、キャンパス中央に本年度着工し、平成七年度の完成予定。そして、教室(一号館)の暖房改修は本年度完成。更に艇庫前の棧橋改修工事も着工し年度内に完成予定です。漸次学内施設は整備が進められています。

さて、本校にとっての大きな課題として、既に平成三年度より、学士号の取得が可能となり、長期に渉る懸案は達成されていますが、この度従来の研究科を二年制に改編して、修士学位取得の道を開く為に学位授与機構に課程認定の申請をしておりましたところ、平成六年四月より発足するはこびとなりました。本課程の創設実現を目前にして、学内挙げて、そして特に委員の各氏に大変な努力を願いました。これの実現により、本校の卒業生のみならず、水産を志す外からの入学者も期待され、本校の充実に大きく貢献することになることは言うまでもありません。

水産学士といひ、修士課程相当コースといひ、ともすれば文部系に追従するかの観もありますが、もとより本校は農水省水産庁所管の教育機関であり、その設立の意義も踏まえて、過去の水産の歴史をふりかえり、来る世紀の水産の現場に生きる水産教育の場たらしめねばならないと考えます。

次に、本校は、水産に対する現状認識の下に、次代に備える水産教育・研究の殿堂たらしむべく、そしてその可能性を求めて、特別研究機関の設置(水産大学校設置基準第三条第三項)に関して検討を進めています。その任に当たる委員各氏に絶大な苦勞を煩わしています。

巨大な歴史的流動の中で、特に二十世紀から二十一世紀に向けての動向は急速であり、加速性を増しています。現在五十四億の世界総人口は西暦二〇〇〇年に六十四億と予測され、それは又、必然的に人類の食糧危機を予想させます。流通の構造も現代から未来指向に向けてより複雑化されていく事も考えられます。そして様々な情報の摂取、整理、発信等々、その多様化に関しては枚挙にいとまなき程であります。水産をことうした各般に渉る総合の中で、あるべき水産の研究を果たさねばならないことは言うまでもありません。その為に本校に水産学に関する特別研究機関の設立を目指す、正に基本的必要性を痛感しています。水産は既に、日本独自のものでなく、全人類の共有を基盤としなければならぬものである限り、眼前に厳存する国際関係、各国家間の諸問題―言語、宗教、人種、文化等の相違―は時に障壁とこそ映り、これの克服は至難

とさえ思える状況ですが、しかし、如何なる事があつても、乗り越えねばならないハードルであります。正にこれらの水産に関する総合の研究主体として特別研究所の設立を目指している訳です。

さて、次に目下、水産教育の将来検討委員会で従来の本校の学科の改組に関して検討を願っています。永く継承され維持されてきた学科構成を改組するという意味で、誠に重要な課題です。既に文部系大学に於いても大学設置基準の改正とその実施に伴い、厳しい作業が進められている事も看過できない状況です。この課題は、先に述べた検討課題と密接不可分な関わりをもつものであるだけに、検討は大変な作業であります。更にこの問題は、出生率の低下に伴う受験生の激減も予想され、その為全国の大学は対策を真剣に検討しています。本校も例外ではありません。現在本校の学生は受験期においても、そして在校生においても全国からの学生が集まっているのが一つの特徴ですが、今後、受験生にとつても在校生にとつても魅力ある大学である為への真摯な模索が改組の一つの課題とも言えます。

以上、主要項目に渡り、何れもが軽重を論ずることができない程に、そしてそれぞれを個別的には論じえないものであることの認識の下に、本校の現況を報告致します。

一二年制研究科

(修士課程相当)の発足

学生部長 村上正忠

平成三年度卒業生から学位授与機構による学士(水産学)の学位が授与されることになり、本校から、二年間計三四〇名の学士が誕生した。

これを契機に近年高まりつつある研究・教育の高度化に対応するため二年制研究科を発足させることとなり、研究科改組検討委員会(委員長 藤石教授)による検討ならびに学位授与機構対応委員会(委員長 濱田教授)の活動により、水産大学校則の改正ならびに学位授与機構側に対する本校研究科の修士課程認定申請へと進み、平成六年度入学生から受け入れるための準備がなされ、平成五年十一月二十五日には学位授与機構の現地審査が行われた。

この水産学研究科では大学校あるいは大学で修得した学識の上に、更に広い視野に立つて精深な学識を修め、専門分野における理論と応用の研究能力を養うことを目的とし、水産技術管理専攻と水産資源管理利用専攻の二専攻を設け、それぞれ学生定員を十名としている。その第一の専攻は本科漁業学科及び機関学科の課程を基に、物理学の応用系の学科目を主体とした、海洋資源の適切な維持・管理を目的とした、資源管理型漁業の推進に役立つ漁業技術、

水産機械、工学などの、専門を二つの専攻分野(漁業技術管理学、機関工学)に配している。第二の専攻は本科製造学科及び増殖学科の課程を基に、生物学及び化学の応用系の学科目を主体とし、水産生物の生産及び有効利用を目的とした、海洋生物資源の増養殖、環境保全、生物化学、食品化学などの専門を二つの専攻分野(水産資源利用学、水産資源管理学)に配している。また、水産技術管理学専攻には教養学科自然科学教室及び水産社会学教室が担当する特論を設け学科目の充実を図った。

この研究科では、公募による入学試験で学生を受け入れ、修了には二年以上在学し、三十単位以上(研究指導分野内の学科目は必修)を修得し、研究論文の審査に合格する必要がある、この者に修了証書を授与する。

さらに、この論文を学位授与機構に提出し、審査を受け、その結果修士の学位が授与されることとなる。



水産学研究科の構成

	専攻	専攻分野	研究指導分野
水産学研究科	水産技術管理学	漁業技術管理学	漁具・漁業計測学、漁業管理学 漁場・漁法学
		機関工学	計測・制御工学、伝熱・機械工学
	水産資源管理利用学	水産資源利用学	水産微生物学、生物化学
		水産資源管理学	水産資源学、水族生理・行動学、 水産動物学、水産増殖学、水族防疫学

卒業生・在校生の声

社会人になって 振り返る学生時代

道 家 あずさ
(製造学科43期)

私は、昨春水産大学校、製造学科を卒業し、静岡にある水産調味料会社に就職しました。入社して一年が過ぎます。現在私は、開発部に所属し、新商品の開発や従来品の改良などの仕事に携わっていますが、仕事上、食品に起こりがちな化学的問題や衛生問題などには、度々直面しています。そんな時、授業でとった水産生物化学や食品化学、食品衛生などのノートは、私にとっては大変貴重となり、これまでに何度めくったことでしょうか。また在学中、毎日大変だった実験も、今となればそのお蔭で、自ら分析などする際でも、心配ご無用です。とにかく私の場合、就職先が、水産系の食品会社という点で、大学や学科に密接に関わっていることもあり、大学で学んだことは、すべてが現在の仕事の基礎となり、実に役立っていると思います。全く何も知らないのと、少しでも知っているのとでは大いに差があると、思いませんか。

学んだことは勉強だけではありません。四年の間には、工場実習を初

めとした様々な実習を修得しました。中でも、最もつらく、最も思い出しに残ったのが、やはり漁獲物処理実習といえるでしょう。海の上の生活は、限れた空間内で、仲間と共に、日常とは全く異なる生活をするということにより、他では得ることのできない連帯感を養えたように思います。だからという訳ではありませんが、先日、会社の上司から、「やっぱり水産人はいいいねえ。言葉がなくても、顔を見れば何か通じる気がするな。連帯感があるというのかな。君の顔を見るといつもそう思うよ。」と、大変嬉しい言葉をかけていただきました。私は水産人としても、社会人としても、まだほんの新人ですが、水産大学校で学んだことにより、水産人としての一歩をふみ出しました。そして、私の中の「海」の存在はさらに大きくなる一方です。でも、きっと水大生なら、多かれ少なかれそんな気持ちを持っているのでは……。

本当に、「海」はいつ見てもいいですね。

想 出



夢

寺 崎 義 人
(機関学科四年)

四年前、私は希望に胸をふくらませ水産大学校の門をくぐりました。もうすぐ卒業になりますが、学生生活を振り返って体験を述べようと思います。

入学当初は、夢に描いた学生生活と現実との落差に葛藤の日々を過しました。しかし、日が経つにつれて初心は薄れ、将来について模索し始めたのは一年次も後半でした。そんななか、「機械で身を立てよう。」と決心したちようどその時に、補導教官から大学院への進学を勧められ、その場で決意したことが昨日のように思いだされます。このような経緯で、来春からは東京商船大学大学院で勉学を続けられることになりました。

さて、一般に大学院への進学者は成績が良いと思われがちですが、私の場合には当てはまりません。しかし、与えられたチャンスを生かそうと考え、三年次後半から入試が終わるまで無我夢中で努力しました。一人で机に向かうと不安にかられる日もありましたが、悪いことは考えず、英語や専門基礎科目(熱力学・水力学・物理学)の修得に全力を傾注しました。

この体験を通して、「一所懸命頑張

れば自分でもできる。」ことを知り、これが最大の収穫となりました。念願の希望を叶えることができたのも、先生方に御指導・御援助をいただけたため、そして何よりも「夢」を持ち続けられたためではないかと思えます。

最後になりますが、大学の四年間は人生の分岐点にもなります。早めに各人の進路決定をし、失敗など気にせずに目標(夢)に向かって邁進してほしいと思います。後輩諸君の目標達成を祈念してペンを置きます。

水産大学校に入学して

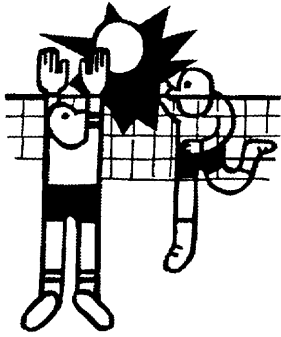
浴 野 文 枝
(製造学科一年)

本校に入学した時、今までの高校生活との違いや、水産大学校ならではのユニークな事柄に出会い、改めて興味を持ったのを昨日のこのように覚えていて。講義棟には広い教室があり授業を行う時はマイクを使うのも大学ならではのと思った。また、今までのような地方から学生が集まってきているので方言も様々で友達と話しているのも楽しい。

大学には多くの部があり、私はバレー部に入部した。何と言っても女子学生の人数が少ないため試合にでることは不可能かと思っていたが、みんな力を合わせて練習をした甲斐あって、春頃には試合に出場するこ

とになった。人数が少ないのでよくまとまって、全員がこれまで以上にはりきって練習するなど楽しくやっている。部活に入ると友達も多くなるし、色々学ぶことも多い。いい運動にもなっている。練習はつらいこともあるが入部してよかったと思っている。

入学時には船を見学したり、魚類などの標本を見たり、本学ならではの体験をした。これからは、食品について様々な面から調査して、何にどのような成分が含まれ、それが身体にどのような影響を与えるかを調べていきたいと思っている。入学してまだ一年。実験もまだ多くはないが、これから三年間が本当に自分のやりたいことができるのだと思うと楽しみである。



今、水産大学校で 感じていること

石 樋 由 香
(増殖学科三年)

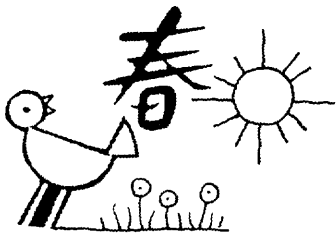
ありきたりの回想なのですが、私が初めてこの下関に来たのは、三年前の入試の時でした。空は厚い黒雲で覆われ風は強くて吹き飛ばされそうになりながら水産大学校の門をくぐりました。そのうち雨も降りだして、「ああ、なんて寂しい所なんだろう。」と不安に駆られたことを思い出します。

しかし、四月から通い始めた校内は、満開の桜とおだやかな海と新しい友人に包まれて明るい雰囲気は一転しました。そして、そこに響く「押忍」の声。それまで寮や体育会系という言葉に縁のなかった私には、一種独特の世界が感じられ、今だに戸惑いを感じさせてくれます。

あれから三年。季節は同じようめぐっていますが、水産大学校は確実に変わりつつあります。校内で過ごしている私達にとって、身近なことではあっても、実はそれほど大きな変化と感じていないのが本当のところだと思えます。それは、五十年という歴史の中で培われてきた内容に形式が追いついた当然の結果だからかもしれません。しかし学士号の授与や二年制研究科の設立は、間違

いなく水産大学校の発展の第一歩です。その陰にある多くの先生方のご尽力に感謝せずにはおれません。と同時に、この時期にここに集まった水大生が、大学という机上の「水産学」だけではない、経験豊かな教官の元で肌で感じて学んだ内容すべてを生かして、これからの水産を担って歩み出せればと思っています。

あまり大きなことを書くと、後で読むと恥しくなりますが、私がここで過ごす日もあと一年。この水産大学校が大好きだからもつと何かしたいと思っています。四月には新入生が入ってきます。私の第一印象は天候のためとても寂しいものだったけれど、実際は、素朴で親しみやすいところでした。それが少しでも伝わればと、とりあえず私は、寮生の「押忍」の声に負けないよう、目一杯の笑顔で登校したいと思っています。



クラブ紹介

電波通信・放送研究同好会

岡 野 郁 生
(機関学科三年)

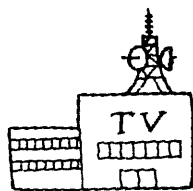
こんにちは、電波通信・放送研究同好会です。略して「水大通」。皆さんはご存知でしょうか？発足して一年半のこのような同好会があることを。活動内容はアマチュア無線とFM放送で、部員は三年生二人、二年生三人、一年生一人の計六人、顧問教官は航海学を担当する漁業学科の本村教官です。

アマチュア無線では、見知らぬ多くの人との会話が楽しめ、友人が増えます。部員全員、試験を受けて免許を取りました。どんなに遠くにいる相手でも、全く「ただ」で交信できます。ですから、電波を使って、水産大学校の名を地球の隅々まで広めたいと思います。もちろん、航海中の練習船、耕洋丸や天鷹丸との交信も可能で、一昨年、赤道を越えた耕洋丸と初めて交信できたときは感動しました。

次にFM放送ですが、海燕祭の時、私達はFMスタジオを作り、放送活動を行っています。約三カ月前から曲を選び、番組を創るなど準備を進めます。海燕祭の二日間、DJ(ディスクジョッキー)を行い、ミキサー、

CDデッキ、カセットデッキを操って、自作の送信機とアンテナから、皆さんのラジカセに電波を送ります。水大には無線の放送設備がありませんが、海燕祭の時には校内であればどこでも、私達のユーモア溢れるDJや音楽、メインステージの案内、各クラブのCMなどをラジカセの八七・〇メガヘルツで聴くことができます。西日本の大学で、このようなFM放送を行っているのは水大だけです。聴いた方もいると思いますが、昼休みに海燕祭の時のFM番組を、一号館に流しています。

まだ同好会なので部室もないし、部費もつきません。「三学科共用実験棟」四階の電波計器実験室を集合場所とし、月、金曜日の昼休みと火木曜日の放課後に仲良くワイワイやっています。FM放送や音楽を聴くことが好きな人、DJが好きな人、番組を創り、オンエアしてみませんか？無線で見知らぬ人と友達になりましょう。電波を使って、水大広報の一役を務めましょう。これが私達のクラブです。



常陸宮ご夫妻が 本校ご視察

平成五年八月七日(土)、下関市内において開催された日本海洋少年団全国大会に御臨席された常陸宮ご夫妻が同日の午後、本校をご視察された。

本校では、国際交流会館にて松生校長はじめ部館科長一同がお迎えし本校の概要をご説明した後、増殖学科実験室において増殖学科の山元憲一、酒井治己及び竹下直彦の三教官から同殿下の研究に造詣深い淡水魚についてご説明した。

山元教官は、コイヤウナギそしてテラピアをサンプルとした実験装置を使って「鰓換水機構について」、続いて竹下教官は、ニゴイを入れた水槽を使って、「ニゴイ二型の遺伝的分化について」、酒井教官は、ドンコの標本を並べて、「日本及び韓国産ドンコ属魚類の生物地理に関する集団遺伝学的研究について」ご説明した。この他に、高橋幸則教官は、「エビ種の腫瘍について」ご説明した。

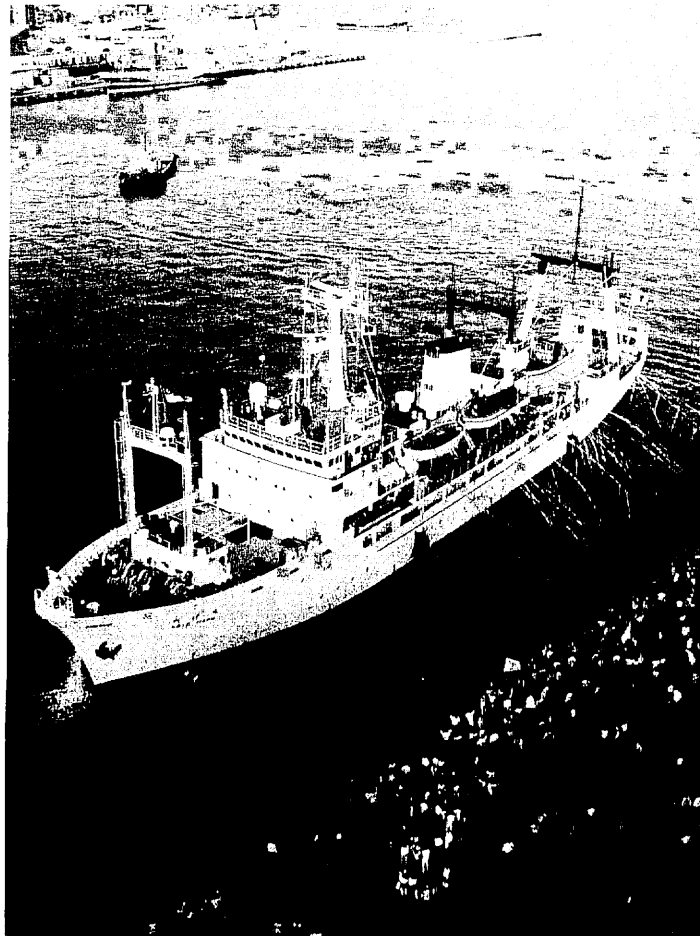
ご夫妻は、いずれのコーナーでもパネルや生きた魚を目の前に興味深くご覧になりながら、時折質問もされ、熱心に説明をお聞きになった。



世界一周航海

耕洋丸船長 乾 栄 一

晴れ間を見せることも無く過ぎた冷夏だったが、十月になって連日よい天気にも恵まれ、船出の日は、透き通った青空を惜し気もなく見せる、秋晴れとなった。学校長を始め学校の職員、新聞テレビの報道関係者の一団、来賓の方々に混じって、乗組員や学生の家族と、大勢の見送りを受けて、純白の耕洋丸は第八十次の



航海に出達した。五色のテープが美しく宙に舞い、在校生の歓声が、上空のヘリコプターの轟音に掻き消され、見送りに来てくれた人々の姿が、次第に小さくなって、視界から消える頃に、黄昏となった関門海峡を、行き交う多くの船の流れに沿って西へ進んだ。

大瀬戸を航過して北上すると、夕焼けに映える若戸大橋が、左舷側にくっきりと浮かび、真っ赤な夕日を背景にして、素晴らしい景観を見せる、誘われる様にして、思わずカメラ

ラを向けたが、これで暫くは日本の灯とも別れるのかと、その時は、ちよびりセンチな気分が過ぎた。六連島を航過してオールハンを解き、船は本格的な航海体制に入ったが、秋の夕日はつるべ落として、アツと言う間に辺りは暗くなる、遅い夕食を摂り、冷えたビールを胃に流し込むと、急に疲れが出てくる様であった。

思えば今回の世界一周の航海計画は、二年の歳月を投じて、何度も学内で検討を重ね、多くの先生方の、

貴重な意見と協力を得て、地球規模の観測や調査を盛り込んだ、研究テーマも出上来がり、実現する運びとなったのは、夢の様である。

公海に二〇〇海里が敷かれて以来、遠洋漁業を始めとして、斜陽していく水産界わが校の存在を、広くアピールする為にも、こころで花火を打ち上げたかったのが本音だが、目まぐるしく変動する世界情勢の下、環地球ともなると、寄港地の選択にも、再三の変更を繰り返さざるをえなかった。船では、初めて通るスエズ運河の、通行規則や慣習を学習し、必要な設備を準備する為の対策を講じて、代理店を通じて何度も、費

用の軽減を交渉した。一方、寄港する港の治安を調査して、水産関係の適当な施設が、近くにあるかを確かめ、その上、学生が市内を自由に学で、且つ安全である事を第一の条件として、航海予定表を作成したが、何よりも心配したのは、運航経費の予算であった。これは燃料を積み込む所での値段が、使用経費に大きく作用すると言う不安定なものだが、大凡の目安を付ける事ができて、何とか実施に踏み切った。その他に、航海途上の気象海象の予測や、学生や乗組員の健康管理や労務管理の問題と、思わぬ難問が山積していたが、船内が一丸となって、一つずつクリアしていった。

下関を出港した後は、連日好天に恵まれた航海、先ずは東南アジアの経済の中心地であるシンガポールに入港、幸いにも、新しく出来た客船用の美しい岸壁に、接岸する事ができ、先ずは、目まぐるしく変貌する、貿易中心の商業都市に触れる事が出来た。食料を始め、自給能力は零に近い国だが、活気のある街は、止まる所を知らぬ建設ブームが続いており、新しい大きなビルが、次々に出ていくのを、ただただ驚いて眺めていた。

地球の一番広い部分をゆっくりと回って、二四、六九一海里一三一日を費やした今回の遠洋航海、寸刻を惜しんで高速化する、現代の社会に

施設紹介

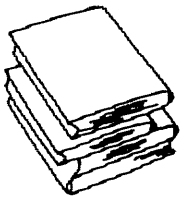
新図書館の建設

図書館長 松井敏夫

現図書館は昭和三十二年に建設され、昭和五十四年に開架書庫が増築されたが、築後三十六年を経過した現在では、蔵書数が当初計画収容数の五万冊を遙かに越えており、年々追加される蔵書の整理に苦慮している。このため施設整備第二期長期計画要望事項の一つとして図書館の更新、資料館の新築を要求していたが、幸いにも今年度の景気対策補正予算で標本課を含まない図書館の更新（平成五年度予算四億円）が認められ、平成五・七年度の三か年で完成する予定である。建設位置は施設整備協議会で審議の結果、旧本館の跡地に決定した。また、内部の設計に当たっては図書館建設委員会を発足させて検討し、十五万冊収容可能な書庫をはじめ、視聴覚教室の充実、図書館の電算化、働きやすい環境づくりなどを目標にした希望素案を作成して、この建物の設計・建設を担当する建設省中国地方建設局営繕部に提出した。その後、地建との協議が数回行われた結果、鉄筋コンクリート造二階建、一階八三八平方メートル、二階七五一平方メートル、

屋上四四平方メートル、計一、六三三平方メートル（現図書館の約一・五倍の広さ）の構造・規模が確定した。

新図書館を現状と比較すると、先ず位置がキャンパスのほぼ中央部となり、非常に利用し易くなる。内部については視聴覚教室や開架書庫の拡張、電動式移動棚採用のため閉架書庫の収容冊数の増加、ゼミナール・会議室及び特別室の設置のほか、窓の一部を総ガラス張りにしたり中庭を設けるなどして自然光を取り入れる工夫がなされており、二階にはロビーや吹き抜けがあつて、ゆつたりとした感じがもてる設計になっている。また空調設備が完備され、快適な環境の下で図書などに親しむことができるようになる。このほか、図書館専用のパソコンを設置して、知識情報の検索、提供などが正確・迅速にできるよう図書館の電算化を今後積極的に推進する。このように、現状よりも近代化した図書館が建設されるので、完成の折には学生並びに教職員各位の一層の活用をお願いする次第である。



小野臨湖実験実習場にて

近藤 昌和
(増殖学科40期)

小野臨湖実験実習場は昭和二十九年にその名称が官報に公示され、発足しました。本実習場は宇部市及び小野田市の工業用水、飲料用水及び灌漑用水の確保のために建設されたダム湖（小野湖）に隣接しています。ここではコイを主体とする淡水魚、および淡水無脊椎動物などの生産、増殖をはじめ、小野湖の理化学的、生物学的性状を調べています。また、毎年六月・八月には増殖学科の陸水学実習と内水面増殖学実習が行われています。

これまで利用されてきた研究棟や宿舍も築四十年近くたち老朽化が顕著となっており、建替えが計画されています。早ければ再来年にも着工の予定です。建替え後は、今より数段高度な実験・実習が可能になり、水産上重要種のジーンバンク（遺伝子保存）やバイオテクノロジー（生命工学）に関連した実習が行えると思います。その時には増殖学科だけでなく他学科の実験・実習にも利用してもらいたいものです。

本実習場に勤務し、学生を指導する立場となつて気付いたことがあります。学生は研究において結論を早急に求める傾向が強く、計画通りに実験が進まないことを非常に恐れて

いるようです。大学における研究とは本来基礎研究の積み重ねであり、簡単に結論が得られるものではありません。水産学は一般に応用の学問と考えられていますが、応用とは基礎研究をおろそかにして成立つものではありません。新しく生まれ変わる実習場が学生達の基礎研究の場となることを切望しています。

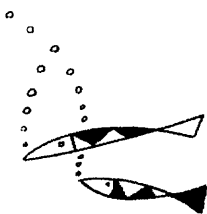
海中からの発想

村瀬 昇
(田名臨海実験実習場)

水産大学校附属田名臨海実験実習場のある山口県東部の瀬戸内海沿岸は、岩礁が広がる比較的穏やかな海域です。着任以来私は、タンクを背負い、海中散策を楽しみながら（というより海底をはいつくばって）、実習場周辺の藻場や海中林について観察してきました。水深約三メートルまでの砂地にはアマモ場がみられ、岩盤や転石上にはヤツマタモク、メタワラ、ヨレモクなどによるガラモ場が広がっています。また、水深十メートル付近の岩盤上には海中林としてクロメの群落が形成されています。観察中に、藻場から「サツ」とチヌが駆け抜けたり、海中林の傍らで海面に顔を向けた数十匹のメバルの整列した姿をよく目にしました。藻場および海中林は、水産生物資源を保護・育成する重要な役割を担

っているため、その造成や保全について県や国の事業として各地で取り組まれ、造成手法や基盤開発など技術的な面で様々な研究が行われてきました。しかし、それらによって造成した藻場や海中林が何年も維持されているという報告は、残念ながらほとんど見当たりません。これは、造成を対象とする種を個体群(群落)としてとらえ、群落が成立するための環境条件、群落の更新過程などについて生態学的な基礎研究が疎かであったためと考えられています。

各地の沿岸で藻場・海中林が環境の変化によって脅かされている今、実習場の海中散策で私が目にした光景はいつまでも続くとは限りません。私は、「水中からの視点でものを考える」と「木を見て森を見ない」の二つの言葉を肝に銘じて海藻群落の研究を進めています。潜水観察によって、「水中からの視点でものを考える」ために海藻群落の中に頭を突っ込み、「木(海藻の個体だけ)をみて森(海藻群落構造とその機能)を見ない」ことがないように留意し、天然海藻群落の構造と機能を明らかにしていこうと思っています。



新任紹介

着任のご挨拶

庶務課長 渡邊 幸隆



平成五年 四月一日付
 けで三重県 安濃町にある農林水産省、野菜・

茶業試験場からまいりました。最近 は、バイオテク技術を駆使し、ある抵抗遺伝子を植物体(野菜)に導入し、特定の病気等に抵抗性の強い新植物体を作成するなどの研究に力を入れています。研究者は、問題はないというが、自然界との関係から問題視する人(団体等)もあり、また、食することの抵抗の問題をいう人もあるようです。さて、入省以来試験研究機関(技会関係)での事務を担当してきましたが、この度、縁がありまして、水産庁の当校に Outreach いたしました。早いものであつたという間に一年が過ぎました。水産庁の関係や、教育機関である大学の組織関係が以前勤務していたそれと異なる等もあり面食らいましたが、お陰さまで皆様の親切なご指導を得て、それなりに慣れてまいりました。学校のために役立つよう頑張りたいと

思いますので、皆様よろしくお願ひします。

私は、出身は広島県ですが、転勤のお陰で三つの札所巡りの機会を得ました。札所巡り(参り)も数々ありますが、四国一周の四国八十八カ所めぐりと近畿二府五県一周の西国三十三カ所観音札所めぐり、そして中国五県一周の中国三十三カ所観音札所めぐりを二年前に結願しました。下関長府の中国十九番金山功山寺には平成二年十月に詣でました。まさか下関に住もうとは夢にも思わずに。多く訪れた古刹のうちには、長年月の風雨にさらされ朽ち果てる寸前のものがあり、これらの文化をどのようにして後世に伝えていくかと気になります。コンクリートに建て替えたり手を加えたりした寺院を見かけるが、何となく風情がなくなりかたみがかうすい感じ。

観光を兼ねて心身の健康を願ひ、心のあるさとへの旅として「納経帳」をもつての巡礼は、健康と単身赴任のお陰と感謝しています。もとより、信心のうすい私ですが、時に、苦しい山道を汗して登り、古刹のお堂の前で手を合わせお参りをするとき、先人の信仰力(和)の偉大さを感じ、何となく自分が浄化される気持ちとなり、今ある自分に感謝する心になるから不思議です。仏さまを拝む心と人(和)を拝む気持ち……和の精神をもつて互いの幸せを願ひ生きて

着任の挨拶

漁業学科 杉原 滋彦



約二十三 年間勤務した、科学技術庁傘下の特殊法人理化学研究所

を退職し、平成五年十一月、当大学校に着任致しました。大学卒業以来、海中の光を主とする、自分の興味ある分野の研究に専念できた訳ですから、恵まれた研究環境にあつたと思ひます。ところが数年前より研究所の方針に従い、砂漠化機構の研究に着手しました。そのため、とかく海洋の研究が疎かになり、焦燥と寂しさを感じて来た次第です。

この度、図らずも研究対象域を再び海に求めることができ、嬉しさと少しばかりの興奮を感じています。しかし、長期にわたり海洋学に重点をおき、水産学からある程度の距離をおいて来たのも事実であり、古巣に帰ってきた懐かしさと同時に、水産学における自分の研究の位置づけ

に戸惑っています。

また、赴任してまだ僅かな期間とは言え、水産大学校も組織改革への着手など、重大な転換期にあることを知りました。そのため、教育・研究面ばかりでなく、運営面における責任の重大さを感じています。

一方、水産業の将来に不安を感じている関係者が多いことも知りました。しかしこれにたいし、私は樂觀的です。それは、人類の食糧の供給源を海に求めるのは自然でかつ不可欠な事であり、しかも魚類のような良質の蛋白質として、あるいは海藻類のような貴重な栄養源として水産物の重要性を考えるだけで、水産の将来は十分明るいと思うからです。当然産業の一層の発展には、時代に即応した改革や解決すべき諸問題があり、そのためには相当な努力が必要なことと推察していますが、この樂觀的な考え方は、水産界のむしろ中心から離れた所に長くいた者のみに出来ることも知れません。着任を機に水産業の将来を内部から眺め勉強したいと思っています。そのためには、学内の方々は言うまでもなく、学外の方々のご意見やご助言を戴く事が必要です。皆々様のご協力を切にお願い致します。

意外な分野で 同種の開発研究が

機関学科 小畑清和
一〇〇〇



〇ヘリウムガスが循環する配管を開発研究したことがあ

る。以前にはほとんど例のない高温配管であるので、配管熱膨張を吸収するメカニズムが開発テーマの一つとなった。解決方法として伸縮継手(昔のカメラのジャバラ)を応用すべく、試作とその健全性試験を繰返した。実機採用に漕ぎ着けるまでに三年かかり、更に、一号機稼働までに三年かかった。開発がうまく進み始めたのは、実物大モデルの高温疲労試験結果と大型電算機による応力計算値とが対応づけられるようになってからであった。試験装置も応力解析プログラムも自分達で作ったものを使った。破断面の顕微鏡観察から破断原因を推定したことも、寿命延長の検討に役立った。

開発研究の途中から、破損寿命には引張り圧縮による金属疲労のみならず、クリープや応力弛緩や試験体製作精度などが複雑に絡み合っていることがわかって来た。いろいろな設計寿命予測法を適用してみると、

米国の中温用評価基準(暫定)が安全サイドで且つ比較的よい近似となることがわかった。このようにして、未経験分野へ一歩一歩入って行き、トラブルのないものを作ることが出来る。

開発を通じて得られた高温強度研究を学会で発表するよう勧められ、米国機械学会が開催するサンフランシスコ会議へ申し込んだ。それまでに一度も参加したこともないのに、よくもまあ申し込んだものと今でも自嘲するところである。論文審査委員からの第一回コメントはいろいろ厳しいものであった。該当箇所を補充して再提出したところ、折り返し発表許可の通知が来ると共に、月刊論文集への掲載を審査委員として推挙したと知らされた。発表時には、米航空宇宙局の高温強度のトップや大型構造解析プログラム「マーク」の開発者などから次々と質問を受け、興味を持って聞いてもらえたことを実感しつつ、壇上から回答した。彼等が何故に興味を持ってくれたかは解らないまま、金門橋などを見物して日本に帰って来た。間もなく、自分達のが掲載された論文集が送付されて来た。

十年ばかりして、ふとしたことからスペースシャトル展を見に行き、エンジンの液体燃料配管に使用の伸縮継手が自分達の開発したものに近似しているのを、目の当りにして驚

いた。ジャバラの山谷の相対的形状から伸縮継手一箇当り山数も似ていた。自分達が高温用をめざしたのに対し、彼等は零下二〇〇℃以下をめざして開発し、別々の特殊金属を使いながら似たものになっていた。国が違っても考え出すことには、類似性があるものと感心した。自分が学会発表時に興味を持たれ、突っ込んだ質問があったのは彼等も開発に目途が立った段階にあったからと思えた。

一旦、伸縮継手の開発に取り組みとそれが終了した後、いろいろな温度や形状・用途の伸縮継手問題やトラブルが持ち込まれ、その対策を通じて応用分野の広いことを知らされることになった。

はじめまして

製造学科 上西由翁



私が生まれ育った鹿児島は、東に雄大な桜島と波静かな錦江湾を

のぞむ自然豊かな街です。少年時代は、家から歩いて五分のところにある船溜りで船に乗ったり、遊泳禁止区域で泳いだりしては怒られながらいつも海に親しんでいたような気が



します。こうして生まれ育つた環境もあり、また家業が水産加工業を営んでいたこともあって、ごく自然に鹿児島大学水産学部に進学し、修士課程、博士課程と鹿児島で過ごしました。

さて、縁あってこのたび下関に来たわけですが、初めて水産大学校を訪ねた道すがら、蒲鉾店が多いのに気づきました。水産加工業の盛んな街という第一印象でした。また、水大までの海岸線は、海の色に透明感があり、シンボル桜島のような大きな島がないせいか水平線まで開けていて、鹿児島と違った風情を感じました。これからこの地でどのような研究をしようか、漠然と海をみながら車を走らせました。

製造学科へ赴任する前に、私は他学部と共同研究の機会を得ました。お世話になった研究室のスローガンは「限りなくローカルな問題を限りなくインターナショナルな舞台へ」ということで、この言葉に心動かされたおぼえがあります。分野を越えて通じるこの言葉をいつも心の片すみにおいて、機会あるごとにいろいろな分野の研究に接し、さまざまな分野の人たちと語り合っていたいと思っています。

鹿児島弁がぬげきれず、早とちりの多い私ですが、どうぞよろしくお願いたします。

学生部だより

平成五年度

卒業予定者の進路状況

近年日本経済はバブル崩壊に伴い、学生の就職状況は今や社会問題となつていますが、本校学生の平成五年度卒業予定者の内定状況については、学生本人の事情を除けば一〇〇%に近い学生が、本校での履修分野内での例年と大差無く採用が内定している。しかしながら、平成五年度求人件数は五六八件(昨年度比の二一六%減)と減少しており、水産関連企業においても例外無く厳しい状況にあつた。本年度の進路状況は別表のとおりである。



平成五年度卒業予定者の進路状況 (平成6年2月1日現在)

◎進学(大学院等)	石川県信用漁業協同組合連合会	ヤマサカマボコ(株)
神戸商船大学大学院	愛知県漁業保険組合	(株) ヤ マ キ
東京商船大学大学院	漁船保険中央会	ヤ ヨ イ 食 品 (株)
九州大学大学院	㈱九州環境管理組合	キ ュ ー ビ ー (株)
鹿児島大学大学院	日本小型船舶検査機構	ロ イ ヤ ル (株)
三重大学大学院	㈱日本缶詰検査協会	山 崎 製 パ ン (株)
長崎大学大学院	◎民間企業	伊 藤 ハ ム (株)
水産大学校研究科	出光タンカー(株)	フ ン ド ー キ ン 醬 油 (株)
水産大学校専攻科	共同船舶(株)	ケン コ マ ヨ ネ ー ス (株)
◎就職(官公庁)	関西船舶(株)	鳥 越 製 粉 (株)
農 林 水 産 省	阪九フェリー(株)	富 士 製 粉 (株)
通 産 省	日本汽船(株)	日 新 興 業 (株)
郵 政 省	国際エネルギー輸送(株)	ヤ ン マ ー エ ン ジ ン ア リ ン グ ㈱
茨 城 県	昭和海運(株)	(株) 鷹 取 製 作 所
岩 手 県	山 九 (株)	旭 機 装 (株)
徳 島 県	大洋漁業(株)	(株) 大 金 製 作 所
長 崎 県	(株) ニ チ ロ	日 本 ク ラ ウ ン コ ル ク (株)
札 幌 市	東 洋 水 産 (株)	日 本 新 薬 (株)
下 関 市	大 栄 太 源 (株)	日 本 配 合 飼 料 (株)
◎水産関係各種団体	東 都 水 産 (株)	第 一 製 業 (株)
日本製粉漁業協同組合連合会	横 浜 冷 凍 (株)	日 本 動 物 薬 品 (株)
長崎県信用漁業協同組合連合会	大 東 魚 類 (株)	大 洋 真 珠 (株)
大分県信用漁業協同組合連合会	(株) 水 研	釣 り サ ン デ ー
兵庫県信用漁業協同組合連合会	新日本環境調査(株)	(株) ダ イ コ ウ

※他に50企業がありますが紙面の都合上、やむを得ず省略させて頂きました。

平成五年度卒業生進路状況表 (平成6年2月1日現在)

学 科	専 攻 科							計	
	船 航 運 送	船 関 課 程	漁 業 学 科	機 関 学 科	製 造 学 科	増 殖 学 科	研 究 科		
区 分									
卒 業 予 定 者 数	15	6	46	41	47	29	8	192	
進 学	大 学 院	0	0	1	2	4	3	10	
	研 究 科	0	1	1	1	1	7	13	
	専 攻 科	0	0	16	23	0	0	39	
	研 究 生	0	0	1	0	0	0	1	
計	0	1	19	26	5	10	2	63	
就 職	国 家 公 務 員	0	1	1	1	0	1	0	4
	地 方 公 務 員	0	0	0	0	3	3	3	9
	各 種 団 体	0	0	5	2	2	1	0	10
	水 産	4	0	16	0	12	11	2	45
	船 舶	9	3	0	0	0	0	0	12
	造 機 ・ 造 船	0	0	0	9	0	0	0	9
	食 品	0	0	0	1	23	2	1	27
	そ の 他 の 企 業	1	0	1	1	1	1	0	5
	※ そ の 他	1	1	4	1	1	0	0	8
	計	15	5	27	15	42	19	6	129
合 計	15	6	46	41	47	29	8	192	

各種団体=水産関係各種団体 水産=水産関係・関連企業 船舶=船舶・海事関連企業 造機・造船=造機・造船関連企業 食品=食品・関連企業 その他の企業=その他の企業・自営業
※その他=国家公務員・海技試験受験等の準備中の卒業予定者。

平成六年度 入試について

平成六年度の本校各学科志願者は、漁業学科百五十七名(募集定員に対する応募倍率三・一倍)、機関学科百五十四名(同三・一倍)、製造学科百九十四名(同三・九倍)、増殖学科三百二十二名(同二・七倍)、計八百二十七名(同四・六倍)であった。このうち推薦入試は、漁業学科三十一名、機関学科二十六名、製造学科十二名、増殖学科二十三名、計九十二名の応募であった。

全体として昨年の志願者を各学科とも上回り、受験者人口の減少が進む中で一定の志願者を確保できたものの、今後とも受験生に魅力ある大学校造りへの努力を怠ってはならないものである。

一般入試は、平成六年二月十二日(土)に下関試験場(本校)と東京試験場(東京商船大学)に今年から設置された大阪試験場(浪速予備校)の三会場で実施され、東京では二十五年ぶりの大雪に象徴されるように日本列島は合憎の大雪に見舞われる中、各会場とも一時間遅れの入試となった。しかし乍ら、一番心配された欠席者は例年より逆に少なく、関係者一同胸を撫で下ろした次第であった。

国際交流

漁業学科長 高島末夫

平成四年十一月と平成五年九月にそれぞれ二週間水産庁国際課の要請を受け、中近東ペルシヤ湾入口に位置するオマーン国首都マスカットに出張した。石油輸出が主であった同国が、漁業を第二の産業として選び、日本の漁業技術を取り入れようとしている。最初の出張では日・オ両国が漁業技術移転に関する基本的事項の協議を行い、二度目の出張では漁業、機関、水産加工の技術移転の方法、施設等について両国が協議し、プロジェクトを組み、人づくりを推進することとなった。現時点では日本から漁業訓練船等を送り、それぞれの部門に専門家が派遣され、現地のカウンターパート(政府職員)に技術指導が開始されている。

少し内陸に入れば見渡すかぎり砂漠となる国だが、豊富なオイルマネー?があるのか市街、道路、住居、学校、病院がほとんど整備されている。船乗りシンドバットの出身地と言われ、海洋王国として近代史にも名を残したオマーンは今、国おこし人づくりに全力投球している。水産大学の国際協力と人材育成の重要性を、改めて痛感した海外出張であった。

人物往来

〔平成五年度〕

〔人事異動〕

四・一〔採用〕

松生 洽

小畑 清和

上西 由翁

宮崎 泰幸

永井 毅

竹下 直彦

小野寺 隆

泉 賢作

長岡 忠勝

(転入)

本間 欽治

中原 幸夫

永野 幸二

山崎 要

福山 豊嗣

中野 一男

渡邊 幸隆

堀 四男美

河内 洋司

岸本 和子

(退職)

陣上 聚

金庭 正樹

石崎松一郎

石山 克己

片野 賢一

竹村 徳之

淵上 洋司

川畑 英伍

井手 俊彦

柿野 正昭

白澤 芳治

牧野 純子

谷村 亢

石鍋 成一

六・一〔採用〕

小松 和也

十一・一〔採用〕

杉原 滋彦

編集後記

近年、地球環境の様々な「異常現象」が報告されている。気象・海洋などの環境変化は、地球上に棲んでいるあらゆる生物に大きな影響を及ぼしかねない。これらに大きく依存している人間の社会活動もまた例外ではありえない。しかし、これらの「異常現象」のいくつかは新しいことではなく、過去には測定不能であったものが、技術の進歩によってあばき出された結果なのかも知れない。水産大学校は、いまだ大きく変化している最中にある。本校の現況を示すいくつかの指標についてここに紹介した。これらのいずれもが、過去から論じられてきた懸案で、それらが実現に向かつていま急速に形を整えつつある。新しい社会状況にかなった本校の学園づくりとは、資源・環境など早急に解決を迫られている今日的諸問題に対応できる条件づくりであることには変わりはないが、来たるべき社会を担う人づくりでもあることを忘れてはならない。

現在進行中の諸改革が、問題の解決に終始するだけでなく、「問題の背景」を洞察できる人づくり・組織づくりとなるよう願ってやまない。





水産大学の現況

水産大学校長 松^{まつ}生^{いけ}治^{かろ}

水産大学校
 ☎759-65
 下関市永田本町
 2丁目7-1
 発行
 学園だより
 編集委員会
 電話0832(86)5111



平成六年十月二十五日、晴れて澄み渡った青空の下、本校練習船耕洋丸は四十八名の学生を乗船させ、第八十四次遠洋航海に出航した。学生達は、日頃、座学で修めた知識を海洋の現場において実習し、海の厳しさを体得して、約三ヶ月後の平成七年一月十四日、全員無事に帰国した。寄港地のケアンズやオークランドにおいては、それらの国々の現況をつぶさに見学し、また、現地の人達との交流の中で国際的視野を広め、そして、巾広い国際人としての感覚を身につけたことにちがいない。さて、本校においては、約三十二

億円の予算を得て、図書館、マルチメディア・ネットワーク・センター、製造学科実習工場、機関学科実習工場、小野臨湖実験実習場、田名臨海実験実習場、そして学生会館の新築が一挙に展開されてきた。

いづれもが、水産に関する総合的な教育・研究機関である本校にとつて、今後の一層の発展を目指すための得難い施設の充実である。そして、長い間課題とされてきた学生会館の建設は、学生諸君の福利厚生、健全な文化活動の拠点になるであろうと特に喜んでいる。

就職状況については、今年度四年次生の就職状況は、いづれの学科も九十%以上の就職率で女子学生諸君の奮闘も華々しい。山口県下大学の中ではトップである。

昨年六月、教授会において、本校の改組の決議がなされた。水産庁に對しても二回に亘る連絡会で本校改

組の意向を説明し、各学科ともそれの実施に向けて学科長を中心にまとめをすすめている。初年度から専門学科、学科目になじませ、従来の一般教養学科に属する基礎学科目は高学年に配置することによってその理解と修得の実を挙げようとするものである。しかし、外国語に関しては初年度からの配置が必要と考えられる。

次に、目下、水産大学校国際水産研究所（水産大 水総研）の設置に關して学内で論議をすすめ、十一月一日水産庁漁政課、研究課と、私として付置研設置実行委員会代表による検討会議を開催し、両者間で具体的意見の交換を行った。今後の大きな課題である。

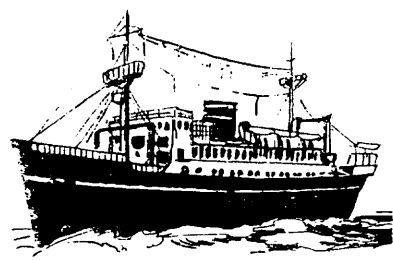
国際化が言われて久しい。本校のスタッフ陣も、今年度に関してはこれまで国際協力としてアルゼンチン、オマーン、トリニダード・トバゴに海外出張した。そして、国際研究会議ではメキシコ、中国、タスマニア、フランス（パリ）、ロスアンゼルス、スペインへ出張し、その実を挙げていく。これ等は広く本校学生達にも還元されていくであろう。

国際協力という点に關しては、JICAの集団研修「魚類生理・防疫コース」は八回目の研修を終え、修了生は五十名に達した。更に、一九九五年三月から「海洋漁業生産管理技術コース」（五名）が新たに開講

された。今後も、こうした途上国からの研修員受入れを通じて国際貢献の強化を推進していきたい。

去る十一月十六日、NHK報道は、全国生中継「昼とき日本列島」で本校を紹介した。また、十一月二十日、長門市で開催された「豊かな海づくりに大会」に天皇、皇后両陛下が御臨席になり、水産大学校展示コーナーで広報活動が行われ、練習船天鷹丸は一般公開された。なお、前日の十九日には、鈴木善幸同大会特別顧問（元首相）を囲む会に、部館科長並びに滄溟会、後援会各代表が参加したことも特記しておこう。

最後に、十一月十六日、海に關する国際的ルールを定めた国連海洋法条約が発効した。今後、本条約の有効な機能に注目しつつ、我々は全人類のための海の秩序維持に向けて、せめて先導的役割を果たすべく一層の研鑽を積んでいかねばならない。



豊かな海づくり

大会に参加して

漁業学科 内田 和良

「豊かな海づくり」このフレーズはまさに水産大学の使命であります。平成六年十一月二十、二十一日の両日「第十四回全国豊かな海づくり大会」が山口県仙崎港の特設会場において、天皇・皇后両陛下のご臨席を仰ぎ開催されました。その規模は県外招待者二千人、県内招待者二千人、さらに一般参加者六千人で、



展示と訪問者の説明

式典を始めとして様々な行事です。今回のテーマは「思いやる心が育てる青い海」。海と人とのかわり方を見つめ直し、豊かな海の創造を図るとともに、山口県の持つ特色ある海洋文化を全国に向け発信することにより、豊かで活力ある水産業の発展と地域の活性化を図るための行事です。この絶好の機会を逃すことはありません。そこで本校の存在をアピールするため山口県の協力を得てこの大会に参加しました。

本校では委員会が結成され委員長に竹下貢二先生が選出されました。テーマ館への出展内容は山口県の要請で次のように決定されました。

- ①宇宙から魚をさがす、②豊かな海を求めて、③練習船耕洋丸の世界一周の航海の軌跡、さらに④副会場である仙崎魚市場において天鷹丸の一般公開です。そこで、この事業を本校の広報活動の重要な一環として捉え、対象を次の世代の若者および子供を持つ父兄に定め、水産へのアプローチ姿勢を興味深いメッセージとして送る事としました。

内容は本校の紹介を航空写真と歴史で示し、耕洋丸を模型で展示すると共に大学案内を千五百部準備しました。漁法学講座による①では深田・毛利両先生による、人工衛星からの水温情報をもとにした、山口県日本海沿岸の定置網におけるブリ、ハガツオの漁獲と表面水温分布の関

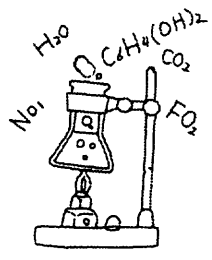


世界一周航海の写真展示

係をシミュレーションし、実際にコンピュータを動作させる工夫を試みました。漁業機器講座における②では私と濱野先生によって、長門海域における海洋牧場構築の現状をサイドスキャンソナー、レーザ計測システム、計量魚探機および自航式ROVを用いての漁業計測の手法と結果を、機器の展示・作動とパネルにより示しました。③では耕洋丸の環球航海を、海へのロマン、国際交流調査・研究をテーマとして学生を中心とした写真で示し、さらに大画面のテレビでKRYによる世界一周航

海とNHKによる海技実習、「ひろどき日本列島」の録画を放映しました。④の天鷹丸一般公開では船長を始めとして乗組員が一丸となって船内誘導、写真展、計器の作動と説明、さらに大学案内の配布と風船サービスなど精一杯の努力が行われました。多数の見学者が来館し、様々な質問が投げかけられ、延べ約七千人の見学者が本校コーナーを訪れ、大学案内の配布も大幅に制限せざるを得ませんでした。天鷹丸は主会場から離れた場所に位置していましたが、千五百人の訪問者で大わらわの盛況でした。

受験生確保は本校の重要な一つの課題です。出生率の低下からくる応募者数の激減は目前に迫っています。従って、様々な機会を捉え大いにアピールしていきたいものです。学生諸君の協力もお願いします。最後に出展に協力いただいた中野貴光氏、研究生岡田君、漁業学科四年生金子、小土井、折田、鎮守、宮原の諸君に感謝します。



卒業生・在校生の声

二年間を経過して

仲野芳尚

(漁業学科二年)

大きな夢と希望を抱き水産大学校に入学して二年、月日が経つのは早いものだ実感している。入学当初は、高校時代との落差があまりにも大きく、毎日戸惑いを感じていた。しかし、一年生の冬休みを迎える頃には、大学生活にも十分慣れ、将来のことについて考える余裕ができた。またその頃は水産の基礎知識が少し増えていたので、技術学課程に進むべきか、管理学課程に進むべきかと悩む時期でもあった。

二年生に進級すると、専門科目の授業が増え、技術学分野と管理学分野それぞれの特徴がある内容になった。前学期一杯、課程の選択に悩んでいたが、結局管理学課程に進む決意を与えてくれたのは、後学期が始まってすぐ経験した乗船実習であった。

実習中、天鷹丸の久保田船長と将来のことについて話す機会があり、船長から「自分自身の目標を決めて頑張ること」とアドバイスを頂いたとき、私は幼い頃の夢を思い出し、それと同時に、本校入学時に胸に抱いていた希望が明確に甦ってきた。

私は幼い頃から海洋に関する調査や研究に興味をもっていた。しかし、受験戦争から開放された気の緩みで、しばらくの間、そのことを頭の別の引き出しにしまいこんでいたのだらう。

入学して今日まで、周囲の様子はあまり変わっていないが、私にとってこの二年間というものは、将来の夢を改めて思い起こし、実現するための準備期間だったように思える。大学生活をマラソンで例えると、今は折り返し点を過ぎて、ゴールを目指したところだと思う。大学生活の中で得るものは将来に互り大きく影響するであろうし、またその中に人生を決めていく重要な鍵があると思う。我々漁業学科二年生は間もなく三年生になり、技術学課程と管理学課程とに分かれてそれぞれの道を歩む。専門分野は異なっても、平成五年四月に入学したクラスの友人は漁業学科の同じ仲間達だ。この仲間達と共に、これから残す二年間、夢と希望を実現する為にも努力しようと思う。そして、卒業後は本校で学んだことを大いに生かし、社会に貢献できる人間になりたいと思う。



水産大学校に入学して

数元聡子

(増殖学科二年)

私が水産大学校に入学してはじめて思ったことは、意外と女の子が多いということ。入学前は女の子が少ないと聞いていたけれど、私のいる増殖学科は二十七人のうち女の子が八人もいて約三分の一が女の子だったので特にそう感じました。年々、私たちの大学は一年年のうち女の子の占める割合が増えてきていて、そのため女子部を創れるクラブもあるほどです。クラブに入部してくる人のなかには経験者もいるけれどもほとんどの人が初心者で、いままでやってみただけだったけれど、かけがなくて入れなかつた人が多いようです。クラブに入部すると友達もふえ、先輩とも親しくなれて勉強や就職のことなどいろいろなことを教えてもらえます。また、大学に入学する前にイメージしていたサークルのようなものとは違い、真剣にかつ楽しく活動できるところも魅力のひとつだと思えます。

水産大学校ならではの良いところといえばクラス毎に担任の先生がいるということ。他の大学でも一応、担任の先生がいるところもありますが、形だけの担任で大人数の学生を一人一人のことまでなかなか面倒をみてくれないと友達から聞きま

した。その点、この学校は担任の先生が個人面談を開いてくれて進路のことは勿論、他のどのようなことでも相談に乗ってくれるのでとてもいいと思います。

もうひとつの良いところは、他の大学に比べて実験や実習がとても多いことです。一年生のときには専門の授業がほとんど無いけれど、実習や実験を通じて初歩的なことを学びました。二年生になってほとんどが専門の授業になり、授業で習ったことは実験を通じて繰り返し学ぶので、机上の空論のようにはなりません。実習や実験が多いことは、このような点では良いことではないかと思えます。

私の出発点

大原順一

(機関学科四十二期)

「やったぞー」帰宅途中の誰もいない路上で、嬉しさのあまり思わず叫んでしまいました。今日は一年半がかりで構想から制作まで自分で計画した装置を、初めて運転することができたのです。今までの道程を思い出せば決して順調ではなかったのですが、心の底から込み上げてくる思いがあったのです。それと同時に、現在に至るまでの様々な人との出逢いを思い出せばこれに感謝せずにはいられませんでした。

申し遅れましたが、私は現在、九州大学の大学院博士課程一年に在籍しています。研究のテーマは熱移動現象に関するもので、機関学科の皆さんが学習する熱力学や伝熱学の範囲の一分野です。水大在学中は実は遊び専門で、まさか今のような立場になろうとは夢にも思っていませんでした。一、二年生の頃は思いつくままに色々な遊びをしましたが、三年ともなると進路が気になり、友人と情報交換や議論をしたり、教官にアドバイスを受けたりと、一人になつては決心がつかずに迷っていました。

ところがこの時、ある教官が大学院への進学を薦めて下さったお陰で、私も一年発起して大学院を目指すことができました。それからは今まで怠つていた勉学を進め、進学への決意を維持するために納得のいくまで友人や教官方と将来のことや研究に関して、また勉強の具体的な内容についてディスカッションをしました。今では三年前のことですが、そのときディスカッションをした内容は、私にとつて今でも研究に対する気持の駆動源になっており、人々との出逢いは現在の私の支えであることを実感しています。研究としては第一歩を踏み出したばかりで、これから苦しい場面にも度々ぶつかると思いますが研究者としての私の出発点、水大での初心と人々との出逢いを忘

近況報告

岩 佐 隆 宏
(増殖学科三十九期)

早いもので、水大を卒業してから六年の月日が流れようとしています。水大では新しい施設が着々と整備され、また学士号取得や修士課程相当コースの発足等充実した体制が整つたと聞いています。その中で勉強できる学生諸氏は羨ましい限りです。

さて、私は現在兵庫県職員として城崎郡香住町にある水産事務所に勤務しています。入庁後、私は研究員として日本の海況観測や漁業上重要な資源調査を四年間担当してきました。これらの調査研究には水大で学んだ海洋環境や水産生物の生態等の知識がおおいに生かされたと思います。反面、私に最も欠けていたのは実際の漁業に関する知識でした。卒業して水産の調査研究を仕事として始めたとき、学生時代の勉強は自分の興味のある分野のみを選択していたために趣味の域を脱していなかったことに気づきました。そもそも私が水産系の大学に進学しようと思つた理由は生物好きと趣味である魚釣りが高じたため特に興味のあつたことは生物の生態に関するものでした。ゆもなかつたのです。

れずに励んでいきたいと思っています。

現在の私の担当はなんと水産物の利用加工研究で、加工業者の相談を受けたら、水産加工品の価値向上のための技術開発等を手掛けています。これは水大では製造学科で習得する知識であり、増殖学科卒の私には全く暗闇の世界でした。約二年を経た現在やつとその表面がうつすらと見えるようになってきました。しかし、いかんせん利用加工の基本的知識が乏しいため、ちよつとしたことにも

応用がきかないのが悩みの種です。「地元に戻りたい」、「仕事が楽そう」という単純な考えで公務員を志望し、幸運にも採用まではこぎつけたのですが、現実はそのなかに甘くはありませんでした。地元(瀬戸内海側)に帰れたと思えば、赴任先は日本海側であつたり、仕事は、やりがいはあるのですがかなり忙しく、なかなか自由な時間をつくることが出来ない今日この頃です。

旧学生会館は、昭和四十年四月大

施設紹介

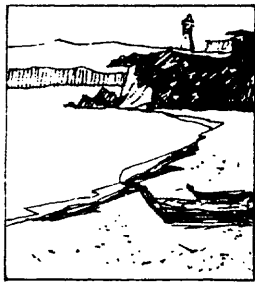
新学生会館の紹介

学生部長 村上正忠

平成五年度第三次補正予算において約五億円の学生会館建設費が認められ、新学生会館が七年三月に完成することになっている。

旧学生会館(水産大学校コミュニティホール)は、旧学生会館東隣、旧テニスコートの跡地に鉄筋コンクリート造二階建、延面積千三百三平方メートル、旧学生会館に比較して延面積は約二倍となり全館冷暖房空調設備が完備されている。

この新学生会館は、一階正面玄関ポーチをぬけると玄関ホールがあり、左側が売店(書籍・文房具・日用品雑貨等販売)、右側が食堂となつている。食堂の厨房機器は最新の設備を備え、メニューも豊富になり適温出食(温かい物は温かく、冷たい物は



冷たく)の賄いも可能となり一段と美味しい食事ができるようになる。食堂内は、BGMが流れ一度に百六十人がゆつたりとした雰囲気なかで食事ができる。要望によつては小パーティーも可能となっている。

中央玄関ホールから二階までは吹き抜けとなっており、玄関ホールから緩やかなスロープの階段を上ると前面にホールがあり、左側が医務室・会議室、右側が多目的ホールとなっている。

多目的ホールは、広い空間のなかにしやれた応接セットが配置され、書籍コーナーもある。落ち着いた雰囲気なかで、その名称にあさわしく学生相互、学生と教職員及び地域の人々の福利厚生に寄与する施設として幅広く利用できる。

マルチメディア・ネットワークセンター

(MNC)の新設

情報センター長 藤 石 昭 生

平成七年二月現在、学内では三月末の完工に向けて、マルチメディア・ネットワークセンター(MNC)を建築中である。先進国は近未来の高度情報化社会に対応すべく、産・官・学による協力態勢のもとに壮大な情報ネットワーク構想の実現を目指している。我が国でも例外ではなく、昨今のマスコミ報道を見ると、

高度情報化社会は早い時期に実現するであろう。こうした世界情勢に遅れるのは教育機関にとつて致命傷になりかねない。

MNCは、二十一世紀に社会人として活躍する学生諸君にとつて、また、教官諸氏の教育・研究を進展させる上で必要不可欠の施設である。

現在使用中の情報センターは昭和六十二年に設置されたもので、その更新を要請中であつた。幸いにも、昨年初頭、文教施設を重視した第三次補正予算に、MNCの建築費及び情報処理・語学教育関連機器類を含めて約四億五千九百万円が認められた。この新しいMNCの横顔を紹介する。

建物：二階建延床面積

一階 三百八十一・〇八平方メートル

二階 三百五十二・三八平方メートル

合計 七百三十三・四六平方メートル

設備：一階 六十人収容のL・L・C

AI教室、事務室、研究室、倉庫、ホール

二階 情報処理室、情報処理演習室、サーバールーム、研究室

以上のほか、学内LANが整備され、学内の事務部、学生部、図書館、五学科の各教官研究室、各実験棟への情報伝達網が順次、整備される。

また、MNC完成時には、国内外へのネット・ワーク網の利用も可能になる。

水産大の玄関：防波堤完成

漁業学科長 高 島 末 夫

水産学の教育研究の原点は「海にあり」とよく言われる。まさにその通りである。本校が自然環境に恵まれたこの地に設置されて以来、ほとんど全ての学生が、海にロマンを求め、優しい海、母なる海に魅了され、凶暴な海に教えられ、不思議な魔力を秘める海に研究課題を求めてきた。古びた小さい実習艇で、何度も何度も沖合い遠くまで出かけて実験を繰り返したり、カッター、ヨットで青春を燃やす若者の姿は、水産大ならではのドラマであろう。昭和三十年代からの学内教育施設の見事な発展充実と比較して、キャンパスと海との接点付近の整備はかなり遅れていた。舟艇の繫留施設、進水設備も不十分で、管理者は四季を通じて暴風情報に目を光らせていた。

一方、地域に開放された大学、地域の活性化に貢献する大学として産学共同研究の重要性が提起されて久しく、本校も各分野で活発な活動が開始されている。企業、個人の別なく水産にかかわる問題提起者に対して、研究で得た水産大のノウハウを

提供して水産業の活性化に協力することは、水産大学の重要な責務の一つではなからうか。そのためには、地域の漁業者が自船でいつでも水産大を訪問できるように、受け皿を準備しておく必要も生じてきた。

水産大学には毎年多くの訪問見学者が来られる。機会あるごとに予算要求と説明をしてきたが幸いにも国、県、市の関係者のご理解とご努力により、平成六年三月キャンパス隣接海面に小型沿岸漁船、小型舟艇繫留用の防波堤が完成した。平成五年三月竣工した本校実習艇「紺碧」(十三トン、十七ノット、定員二十八名)と併せると、大きい施設の充実である。

本校のキャンパスに隣接する海面船付場は、吉見港の一部分である。漁港は漁港法、山口県漁港管理条例、下関市漁港管理条例により規制を受けており、吉見漁港は種類別では第二種漁港(その利用範囲が地元漁業者だけではなく、他方その利用者が全国的なものではない)である。今回の防波堤設置は、吉見漁港局部改良事業として着工され、永田川から流れ出る砂が港内に押し寄せてくるのを防ぐことを目的としている。防波堤の概形は、砂浜から五十メートル沖まで突き出し、ほぼ逆L字型に四十メートル右に延びている。内側は干潮時水深二メートルとなるように浚渫し、邪魔になつてた捨石

も別の機会を利用して沖合の部分
撤去した。この完成により学生の操
船実習も随分容易になり、機動艇二
隻、カッター五隻が楽に繋留でき
ただ防波堤、繋留設備としてはピ
ット、リング、フェンダー、棧橋、給
水、照明設備など、まだまだ不十分
であり、今後の整備が必要である。

さらに重要なことは、地元利用者
と融和協調を図りながら、早急に本
来の水産大利用方法の実現に、努力
が必要である。

この施設の整備により、地域沿岸
漁業に従事する皆様も漁船操業の姿
そのまま本校を訪問していただ
けるようになり、また学生・教官も更
に海に出やすくなったと思う。この
設備が、水産大の地域交流と情報発
信の大動脈として、そして人類の最
も貴い財産「海」を愛する若人の玄
関として、活発に利用されることを
期待している。

新機関学科実習工場の概要

機関学科実習工場建設委員会

従来の機関学科実習工場は昭和三
十八年に完成したもので長期間にわ
たり学生実習を行っていましたが学
内外の皆様の多大なご尽力とご支援
により平成五年度補正予算で建替え
が認められ、平成七年二月現在国際
交流会館の西側に新しい実習工場の

機 関 学 科 実 習 工 場 主 要 設 備 一 覧 表

機 器 名 称	用 途 お よ び 性 能
コンターマシン	板材の任意形状切断
CNCフライス盤	小・中型角物部品の精密加工
CNC旋盤	丸物部品の加工
旋 盤	丸物長尺部品の加工
成形研削盤	歯車やスクリーコンプレッサー歯形の精密研削
平面研削盤	平面の精密仕上げ
万能研削盤	円筒部品および内面の精密仕上げ
プロセスロボット	自動加工システムの実習
オートグラフ	材料の繰返し疲労強度試験
電気炉	金属部品の熱処理
ガス・アーク溶接器	鉄板やステンレス鋼などの溶接
TIG溶接器	ステンレス鋼やアルミニウムなどの溶接
CAD・CAMシステム	EWSによる機械構造物の設計支援
X線回折装置	結晶構造、残留応力などの測定
走査電子顕微鏡	試料の高倍率観察
歯車測定機	歯車の精度測定
3次元形状解析システム	表面形状の精密測定

- 建設が進められています。
- ところで、機関学科実習工場は機
械加工全般にわたる実習を基礎に教
育と研究を支援する設備・施設と考
え、変動する時代の要求に柔軟に対
応できるとともに長期間有効に活用
できるよう、
- (一) 最先端機械技術の基本となる
加工原理と精度、機械的性能
評価のための実習教育
 - (二) 研究および教育・研究用実験
 - (三) 装置や試験機の試作
海洋や水産関連の機械や構造
物の設計、強度評価、損傷解析
 - (四) 本校の教育・研究の支援や地
域産業の指導育成
- などを考慮し設備を計画しました。
- 皆様方もご関心あるのが(二)、
(四)の項目かと思いますが、主要設
備の名称と用途などを説明した表を
左に示しますので、竣工の暁にでも
ご見学頂けたら幸甚に存じます。

製造学科実習工場の更新

製造学科長 原 田 勝 彦

平成七年一月に製造学科新実習工
場が竣工し、三月の製造学科三年生
の製造学実習から稼働を始めます。

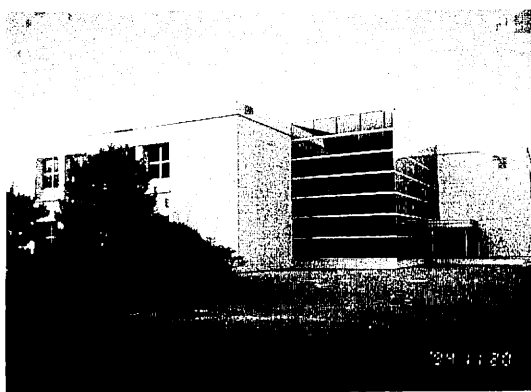
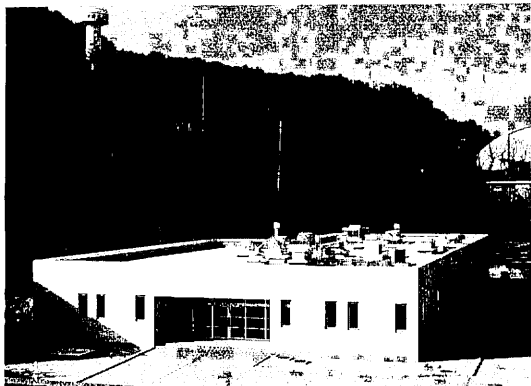
旧実習工場は設置以来三十六年間に
わたり、千六百名を越える学生の実
習と実験に使用され、製造学科の教
育に大きな役割を果たして来まし
たが、近年、水産業界の急速な技術革
新に直面し、早急な施設の整備と設
備の更新を求めてきました。新工場
は総床面積九百平方メートルの衛生
的な施設と広範囲の水産食品の製造
機器は教育・研究に大きな力を發揮
するものと期待されます。ここで、
主な工場の施設と設備を紹介しま
す。基本的な水産加工に対応し得
る施設・設備として、マイナス六十
度とマイナス二十度の冷凍室、摂氏
四度の低温室、摂氏十度の低温加工
室、包装のためのクリーンルーム、
品質管理のための検査室などを備
えています。さらに、将来の食料問題、
環境問題を念頭におき、水産物の高
度有効利用に対応するため、主要な
加工品の製造に対応可能な加工設備
を導入するとともに、副産物の高度
利用のための加工設備も導入しま
した。従って、この工場では搬入した
原料は、血水を除き、すべて社会的
に有用必須な製品に加工可能です。

また、旧工場建設当時に比べ、食品の安全性についての、社会の考え方は大きく変わり、安全性を考慮していない施設、設備での製品は社会的に受け入れられなくなります。そのため、施設・設備の衛生面には最大の配慮を払いました。工場を気密化し、エアージャワー、手洗い、足洗い、ロッカールーム、クリンルームなどを設置するとともに、工程ごとの区画化を図っています。さらに、品質管理に関わる分析機器も充実しました。製造学科の卒業生は食品業界の広い分野で指導的役割を果たしているといかなければなりません。新実習工場で習得した知識と技術が大きな力になるよう、各教官は重大な責任を感じています。

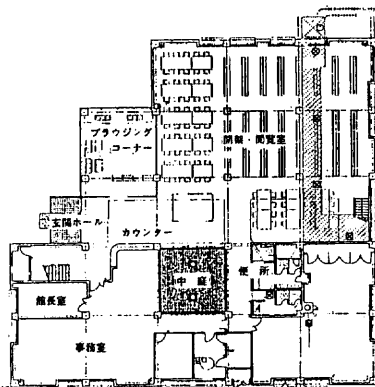
新図書館紹介

平成六年十月に外観が出来上がり、平成七年度完成に向けて現在内部設備の充実がはかられています。完成すると総工事費六・二億円、二階建総面積約一、六八三平方メートルの建物となります。別図のように、一階にブラウジングルーム、開架・閲覧室、二階にロビー、視聴覚室、閉架書庫があり、一階中央部には中庭が設けられるなど、誰もが気楽に入館できる設計となっています。

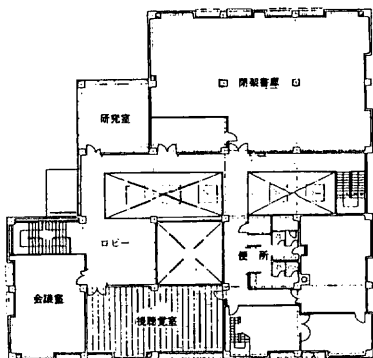
平成七年の秋を目途に新図書館への移転準備を進めています。移転を目標として図書館業務の電算化を進めています。



1階平面図



2階平面図



新任紹介

生きてるか、死んでるか

製造学科 芝 恒男

「バイオテクノロジー」を耳にするようになって、久しいものがあります。近年食品衛生検査にも、この「バイオテクノロジー」が応用されようとしています。食品が食中毒菌に汚染されているかを調べるには、すりつぶした食品を寒天培地にまき、数日後生えてきた細菌の数や性状を調べる方法がとられています。これだと結果が出るまで五〜七日もかかってしまい、かなり不便だといえます。かわりに、食品からいきなり細菌の遺伝子を抽出して調べたらかなり便利ではないでしょうか。

PCR、別名「遺伝子増幅装置」。かなり耳慣れない言葉ですが、この機械を使ってほんの微量しかない遺伝子を、数時間のうちに数百万倍、あるいは数千万倍にも増やすことが現在可能になっています。これによって、血痕すらからも目的の遺伝子を得ることができ、その結果、その血痕の主を特定することも可能なのです。このPCRを使って、食中毒菌に特有の遺伝子のみを食品から抽出する試みが世界で繰り返されています。これらの遺伝子が抽出されて

同定されれば、食品衛生検査は数時間ほど終了するはずですが、ところが食品のなかの成分がいろいろと邪魔をして、なかなかうまくいかない場合も多いようです。

しかし、これらの問題も数年で解決されることでしょう。問題はもつと他のところにあります。やつかいなことには PCR は死んでいる細菌の遺伝子も増やしてしまうのです。せつかく滅菌して安全な食品が、汚染されていると判定される可能性もあるのです。どうしたら「生きているか、死んでいるか」を判定できるのでしょうか。生きていることを示す遺伝子はこの世にはないのです。

生死の判定はやはり培養法に頼らざるを得ません。しかし種の判定に遺伝子を用いれば、今度は一細胞が数個に増えるだけで充分です。これですと数時間で食品衛生検査が可能となるでしょう。実用化は間近にせまっていますと言えます。私どもの研究室では、実現化に向けての基礎研究もさることながら、これら遺伝子を使った新技術の担い手を社会に送り出したいと考えています。今の所そのような使命感をもって研究室を運営しているところは他にないので

す。



水産大学校に着任して

製造学科 前田 俊道



水産大学校に製造学科微生物講座の助手として着任して、すでに

九カ月たち、やっと大学校や下関に慣れてきたところです。それまでは京都大学の農学部の水産微生物講座に在籍しており、海洋細菌の生理、生態学的研究を行っていました。具体的には、有機物が希薄な環境でも増殖することのできる海洋細菌について、なぜこのような環境で増殖することができるのかという疑問から、有機物の取り込みのしくみや細菌細胞のタンパク質組成について研究を行っていました。残念ながらこの疑問を解決するには至りませんでした

が、希薄な有機物環境で増殖しているときに特異的に発現するタンパク質を数種見つけることができました。現在、私の所属する微生物研究室では、遺伝子による食中毒菌や海洋環境菌の迅速で簡便な検出、分類法の確率を目指して、研究、実験を行っています。卒論もまともに入ったこの頃、やっと機動にのり始めたという具合です。私は主に四年生の卒業論文研究の指導補助を行っています

す。

す。この間に学生の就職、大学院への進学、などさまざまなことがあり、教育、指導の難しさを実感しています。

本校は海に面しており緑も多く、勉学そして研究にうってつけの環境にあると思います。また、研究室も新しく、きれいであり、さらに学内の建物がほとんど整備されていくのを見ながら、良いところに就職できたことを幸せに思っています。今後ともみなさまのご指導を承ることをお願いいたします。

大学院生時代の

研究生生活を振り返って

野田 幹雄

(田名臨海実験実習場)

フィールドワークは苦勞が多く努力しても成果が少ない——広島大学大学院に在学中、指導教官や周囲の先輩に溜息まじりによく愚痴られた言葉です。大学院で私は野外観察を主体とした研究をはじめ、ウェットスーツを身にまといもっぱら海に入る毎日でした。ですから実務面の大変さに比べて実りが少なく、努力すれど報われぬ不足感を何度となく実感させられました。しかし、今振り返ってみると、苦勞が多かった分、当初のテーマをやり遂げたときの喜びもまたひとしおであり、とうてい突き破れないと思われた壁もいつの

まにか克服していることが多かったように思います。

たとえば、修士課程のときもそうでした。多くの文献にあたり熟考のすえ立てた最初の予想は研究に着手してまもなくあっさり裏切られ、その後の研究方針の目途も立たないまま一年が過ぎてしまいました。しかし二年目に入って、何気ない雑談のなかで指導教官がつぶやいた一言でひらめき、結局は首尾よく修士論文をまとめることができたのです。そして三年間のプランクの後(一時就職してました)、広大の博士課程に編入してからは、修士論文をさらに発展させ、体系化した研究を進めることができました。

大学院生時代に研究することの「喜び」を体験し、その醍醐味を実感することができたことは大変幸運であったと思います。「わかった!」と感じたときのあの感覚。それがまた原動力となり次の研究へ展開していきます。私の場合、諦めの悪い性分が幸い(災い?)して執拗に当初のテーマを追いつけていくことになったのですが、研究者としてむしろ足かせとなりそうに見えるこの愚直さこそが、未開の分野に分け入って自力で筋道をつけ、独自の研究を進めるときに、大変重要な資質になってくるような気がします。研究者の世界でも最近では「効率」至上主義がはびこりつつあるようです。その

国際交流

トリニダード・

トバゴ共和国雑感

機関学科長 中川 隆 夫

トリニダード・トバゴ共和国といつても何処にあるのか大方はご存知ないと思いますが、カリブ海の西インド諸島の南端に位置し、ベネズエラに近接した島国です。此の度、国際協力事業団の漁業訓練計画事前調査団の団長(兼機関分野担当)として、鈴木喜隆教官(水産加工分野担当)と浜口正人教官(漁業分野担当)と共にこの国を訪れる機会を得ましたので、堅苦しい話は抜きにして、特に印象深かったことをお話ししたいと思います。

本場のカリプソを聴く

私の乏しい記憶では、確かにこの国はカリプソの故郷と思つていましたので、念のため国語辞典で調べてみると、カリプソとは「トリニダード島の黒人たちの労働歌に始まる民俗音楽で、四分の二拍子の軽快なリズムを持つ」とありました。そこで、この機会に何とかカリプソを聴きたいものと、首都のポートオブスベ

一方で息の長い愚直とも思えるような「鈍」な心持ちも相変わらず必要な気がします。

インに到着した翌日、車の中から町中を物色したのですが、それらしい気配は全く感じられませんでした。ところが、幸いなことに、その夜日本大使館主催の歓迎夕食会の席上で隣り併せたS参事官にこのことを話すと、毎週水曜日に「マスキヤンプ」という店でカリプソを聴くことができる、ただし夜の町を歩くのは物騒なので車で往復した方がよいとの有難い助言をいただきました。

そこで早速翌晩その店に向いたところ、参事官の言われるように、店の周りの雰囲気は決していいとはいえない感じでした。一歩中に入ると、薄暗い店内は熱気に包まれ、ステージでは十名程度のバンド演奏をバックに男性歌手がカリプソを熱唱中で、マイクのポリリウムを一杯にあげ、大きなスピーカーを通して耳を聳せんばかりの歌の迫力に圧倒されました。観客は地元の人ばかりで、椅子に座れない人達は立っただまの状態で店内に溢れ、私達も場違いな感じを受けつつ人ごみにもまみれながら聴いていました。

カリプソはまさに労働歌と言われるところで歌手は喜怒哀楽を体で歌いあげ、そのエネルギーたるや物凄いのでした。観客も歌手と一体になつて共に歌い、リズムをとって酔いしれ楽しんでる様は、日本での若者のライブでの行動と似通つていますが、この歌の歴史的な背景を想う

と、本質的に異なるのは当然だと思えます。このあと四、五人の歌を聴き帰路につきましたが、この国の人々の潜在的なエネルギーを垣間見た思いがしました。

日本車のオンパレード

この国の総人口は約一二〇万人、首都ポートオブスベインの人口が約五〇万人と言われています。人々の交通手段は車しかなく、当然のことながら、町には車が溢れていましたが、驚いたことに、乗用車からダンプに至るまでその大半は日本車で、各メーカーの様々な車種が見られ、それも殆どが十数年前の型のものでした。

何故このような状況になつているのかは定かではありませんが、察するに、石油で景気が良かった頃に日本の自動車メーカーが当地に進出し、現地組立てを行つていた経緯から見て、その影響が多分にあると思えます。

古い車が故障もせずによく走るものだと感心していましたが、首都の郊外に日本車専門の部品屋が沢山あるのを見て納得した次第です。

庶民の足として家用車以外に活躍していたのが乗合いタクシーで、均一料金で何処でも乗り降り自由とのことで別に行き先の表示もないのによく見分けられるものだと感心しました。乗合いタクシーにはもう

一つワゴン車タイプ(十二人乗りが標準)のものがありませんが、こちらは殆どが日本製の新車でした。聞くところによると、政府の方針で無税で輸入を認めているとのことでした。

もう一つ印象深かつたのは、信号機も少なく、車が一見乱雑に走っているようでも、交通事故を見掛けなかつたことです。きつと暗黙のルールでもあるのかもしれない。

クラブ紹介

端艇部

白石克 弥

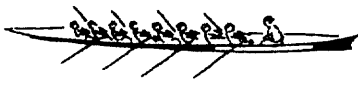
主将(漁業学科三年)

「各艇、その位置……」決勝レース直前、二コースの水産大クルーの緊張はピークに達した。そして、スタートダッシュユノ水産大クルーはスタートに強いと言われていたが、今回、この決勝レースのスタート直後、不覚にも一コースの東京商船大に一艇身のリードを許してしまった。しかし、千メートルの回頭後、本部席より、「水産大、二艇身リード」とアナウンスされ、応援に来ていた者は「いけるよ」と確信した。「このまま一気にゴールへ」と見ていた者にも力が入る。終盤、他校の追隨を許さず、独走態勢と思つた瞬間、はるか五コースを走っている海上保安大

のカッターが目に入る。「まだいけるよ」「八年振りの全国制覇を」「涙がこころでもかき」クルー全員、無我夢中で力一杯オールを引いた。数秒間の空白……、ゴールへなだれ込んでいる。そして權立て……。しかし、クルーにも、応援している者にも、水産大の順位が一着なのか二着なのか、はっきり分からなかった。しばらくして、水産大と海上保安大は同着だったと知らされ、後の判定で二着となった。全国制覇はできなかったが、水産大クルーにはやるだけやったという充実感がみなぎっていた。水産大に入學し、先輩に鍛えられ、幾度も厳しいと感じた端艇部であるが、レースの達成感、クルーの一体感、言葉を表現できない程、満足を感じていた。第三十八回全日本カッター競技大会は、水産大準優勝という輝かしい成績を残して幕を閉じた。

さて、端艇部の紹介をします。部員数四十六名、顧問は高島教授で監督は下川教官です。年間に全日本大会、三大学対抗戦、西日本新人戦の三つの大会があり、それぞれの大会前二ヶ月程合宿練習を行います。対戦校は、水産系大学、商船系大学、防衛大、海上保安大など海が大好きな若者が集う大会で、レース前後に行われる余興大会でも、他大学との交流を深めています。夏には、帆走により博多湾や角島などに巡航を行

っています。過去には、「魏志倭人伝」の記述を古代推定船「野生号」により追体験・検証するため、昭和五十年夏、先輩たちが韓国釜山港から対馬・杵岐を経て博多港まで、權漕成就した記録もあります。練習は厳しいのですが、沖から見える北浦の美しい海岸線や加茂島に沈む真っ赤な夕日など、キャンパスでは普段見られない素晴らしいシーンを休憩の合間に眺めることができます。「海が好き」そしてカッターに興味がありましたら、いつでも声を掛けて下さい。我々部員一同、大いに歓迎いたします。



平成6年度卒業予定者進路状況

(平成7年3月卒業予定者)

区 分	学 科	専 攻 科		漁業 学 科	機関 学 科	製 造 学 科	増 殖 学 科	研 究 科	計
		航 空 運 送	船 舶 機 関						
卒業予定者数		16	18	50	51	47	39	0	221
進 学	大 学 院	0	0	2	3	4	5	0	14
	研 究 科	0	0	2	1	3	6	0	12
	専 攻 科	0	0	16	28	0	0	0	44
	研 究 生	0	0	3	0	0	0	0	3
	専修学校等	0	0	0	0	0	0	0	0
計		0	0	23	32	7	11	0	73
就 職	国家公務員	1	4	0	0	1	2	0	8
	地方公務員	3	1	0	0	1	3	0	8
	各種団体	0	0	6	0	2	5	0	13
	水 産	3	1	14	0	11	10	0	39
	船 舶	4	0	0	1	0	0	0	5
	造機・造船	0	7	0	9	0	0	0	16
	食 品	0	0	0	6	22	1	0	29
	その他の企業	0	0	3	0	1	1	0	5
	※その他	5	5	4	3	2	6	0	25
	計		16	18	27	19	40	28	0
合 計		16	18	50	51	47	39	0	221

(平成7年2月1日現在)

(分類内容)

各種団体=水産関係各種団体 水産=水産関係・関連企業
 船舶=船舶・海事関連企業 造機・造船=造機・造船関連企業
 食品=食品・関連企業 その他の企業=その他の企業・自営業
 ※その他=国家・地方公務員・海技試験受験等の準備

学生部だより

平成六年度卒業予定者の進路状況

日本経済のバブル崩壊以降、学生の就職は今や「氷河期時代」と言われ、社会問題となっているが、本校の学生にとっても例外ではなく、昨年度に比べ求人企業は大幅に減少し、一段と厳しい状況であった。

平成六年度卒業予定者の就職内定状況は、専攻科、本学科の求職者数一四八名に対し内定者数一二四名(八三・七%)に止まっており、本

年度の大きな特徴として、企業の業種別・業績内容によって学科間の内定者数に顕著に現れた。

来年度は、水産関連企業においても例外ではなく厳しい状況が予想され、新しい分野での企業開拓が急務である。

本年度の進路状況は別表のとおりである。



平成6年度卒業予定者進路状況(平成7年3月卒)

(平成7年2月1日現在)

Table with columns for university/department, job type (進学, 就職), and specific institutions/positions. Includes entries like '長崎県信用漁業協同組合連合会', '大 洋 技 研 (株)', '第一製薬 (株)', etc.

平成七年度 入試について

本校の志願者は、十八歳人口の減少に伴う厳しい局面が予想されたが、今のところ受験者の国公立志向に助けられ、前年を上回る志願者を確保できた。

一般入試の志願状況は、漁業学科百四十四名、機関学科百五十四名、製造学科百八十三名、増殖学科三百四十二名、計八百二十三名の応募であった。その応募倍率は、漁業学科四・一倍、機関学科四・四倍、製造学科五・二倍、増殖学科十四・三倍であった。

推薦入試には、漁業学科三十三名、機関学科二十八名、製造学科二十二名、増殖学科二十七名、合計百十名が応募し、五十一名が合格した。

一般入試は、平成七年二月十二日(日)に下関試験場(本校)、東京試験場(東京商船大学)、及び大阪試験場(浪速東予備校)の三会場で実施され、いずれも順調に終了することができた。

次年度の募集については、今年度と同様に近隣の高等学校への入試説明のための訪問を継続するとともに、志願者確保のために、全学をあげて更に努力する必要がある。

人物往来

〔平成六年度〕 〔水産特論講師〕

六月九日 水産庁企画課長 山口 展弘

七月八日 水産庁国際課長 田中 誠

十月十四日 水産庁水産流通課長 永山 勝行

十月二十六日 水産庁開発課長 上之門量三

十一月二十二日 海外漁業協力財団理事長 海野 研一

〔姉妹校交流〕 十二月八・九日 釜山水産大学校 企画室長(教授) 姜 龍柱

十一月二十四日 総同窓會事務局長 藪 相根

〔博士号取得〕 農学博士 宮崎 泰幸

〔名誉教授授与〕 元教養学科教授 武部 健治

元製造学科教授 田川 昭治

〔叙位・叙勲〕 勲六等瑞宝章 元耕洋丸操機長 吉田 強

編集室より

学園便り第九号をお届けいたしました。ご多忙の中、多くの方々からご寄稿いただき有り難うございました。今後、さらに親しまれる学園便りにしたいと思っております。ご意見・ご感想をお寄せ下さい。



水産大学校
 〒759-65
 下関市永田本町
 2丁目7-1
 発行
 学園だより
 編集委員会
 電話0832(86)5111

水産大学校の現況

水産大学校長 松生 治



平成七年は、激動の年であった。一月一七日には阪神地区に大地震が発生し、非常に大きな被害をもたらした。本校練習船耕洋丸(乾栄一船長)は、勃発の数日後に学生四名、乗組員四名の他、高島、内田両教官を乗せ災害援助に向かった。その日は、遠洋航海から帰港して間もない時期であり、乗組員及び学生は大変な疲労が蓄積していたにもかかわらず、崩れた神戸港岸壁に着岸し、救援物資の配送や分配等の仕事に約一週間にわたり携わった。乗組員一同の必死の救援活動には、全く頭の下がる思いであった。後日、農林水

産大臣、水産庁長官から丁重なる感謝をいただいた。さて、本校においては膨大な予算を得て、新図書館、マルチメディ・ネットワークセンター、学生コミュニティホール、製造学科及び機関学科の実習工場、小野臨湖及び田名臨海の実験実習場等の建設や改築が行われてきたが、これらも全て完成した。

平成七年度は、水産生物飼育培養棟の改修、舟艇管理棟更新、回流水験水槽更新、天鷹丸改造工事等が実施されている。

これらにより、学生諸君の文化活動や福利厚生が一層充実され、総合的な水産教育研究機関としての力を発揮できることとなった。

来年度の最も大きな仕事は、学科の組織改正であり、二年間にわたり学内で検討を重ね、更に水産庁に設置された水産大学校連絡会議で意見

交換等検討の結果、いよいよ九年度から教育体制に関する新組織が動き出すこととなった。

その概要は次のとおりである。
 教養学科を水産情報経営学科
 (平成一一年度より学生募集)

漁業学科を海洋生産管理学科
 (平成九年度より学生募集)

機関学科を海洋機械工学科
 (平成九年度より学生募集)

製造学科を食品化学科
 (平成九年度より学生募集)

増殖学科を生物生産学科
 (平成九年度より学生募集)

に名称変更し、従来の各学科の教育・研究内容に加えて、
 水産情報経営学科では、水産流通、
 経営、情報分析等

海洋生産管理学科では、資源管理、
 資源量推定法等

海洋機械工学科では、漁場造成、
 藻場造成等

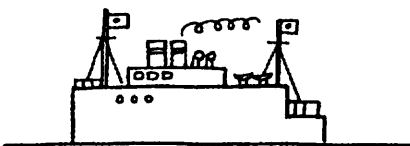
食品化学科では、未利用の水産資源の有効活用、機能性食品の開発等

生物生産学科では、資源管理型漁業、つくり育てる漁業等、の強化・充実に図る。

更に、小講座制から大講座制へ編成替えし、四年一貫教育を実施することとした。現在は、具体的なカリキュラムの編成に入っていると

ある。

一方、共同研究棟の建設敷地の調査費が認められた。数年後には立派



な共同研究棟が建つものと確信している。今後、本学の研究は勿論のこと、各地域からの研究者の招へいや共同研究及び諸外国からの研究者や研修生の来訪が盛んになるであろう。大学院修士課程相当の水産学研究科は順調に推移しており、八年三月には第一期生が卒業する。

学生の就職については、厳しい水産界の実情にかかわらず、同窓諸士のお力添えによりほぼ一〇〇%決定した。

最後に、釜山水産大学校との学術交流懇談会が五月にもたれ、今後の運営についての合意文書が取り交わされたことをつけ加えておく。

本学は今後、水産の将来や国際問題についての知識の発信源として大いに役立つ行かねばならない。このことはOB諸士の夢であり期待であらう。

学科改組について

学生部長 高橋 幸 則

水産大学校は五〇年の永きに亘り、水産指導者を養成する高等教育機関として、水産業及びその関連分野に多くの人材を輩出してきました。しかし、その間に水産業をとりまく情勢は、二〇〇海里体制の定着に伴う輸入水産物の増加、つくり育てる漁業及び資源管理型漁業の浸透など、著しく変化しています。大学運営及び教育においては、大学受験者の中心をなす一八才人口が平成四年の二〇五万人をピークにして、その後急激に減少し、平成一二年にはピーク時人口の五〇万人減となることが必至の状況にあることから、大学関係者の間では倒産する大学の続出が懸念されています。また、従来から行われていた大学教育に対して、新世代の若者の志向に大きな変化が生じていること、さらには入学後約二年間の一般教育と、その後の専門教育が分断していることに伴う弊害など、いくつかの問題点が指摘されています。

本校は昭和二五年から今日に至るまで、全く同一の組織で教育と研究を行ってきましたが、前述の水産業並びに大学教育情勢の変化に対応し、社会的要請にこたえる水産指導者を育成して我が国水産業の持続的発展

に資することを目的に、平成九年度に学科を改組することになりました。改組の要点の第一は、大学受験者人口の減少と新世代の志向の変化に対応するために、新世代の若者が夢多き大学と実感できる学科名称に変更するとともに、国際化・情報化社会に対応でき、しかも創造性豊かな人材を育成可能な教育へと内容を充実させます。すなわち、平成九年度から、教養学科の新学科名称を水産情報経営学科に、漁業学科を海洋生産管理学科に、機関学科を海洋機械工学科に、製造学科を食品化学科に、また増殖学科を生物生産学科に変更します(表

表1 改組前後における学科・講座・学生募集人員対比表

(現 行)	(改 組 案)
教養学科 (学生募集人員 0名) — 人文科学教室 — 社会科学教室 — 自然科学教室 — 外国語教室 — 保健体育教室 — 水産社会科学教室	情報経営システム講座 数理科学講座 社会文化講座 水産情報経営学科 (学生募集人員 20名) <small>但し平成11年度から募集</small>
漁業学科 (学生募集人員 50名) — 漁業管理学講座 — 漁具学講座 — 漁法学講座 — 漁場学講座 — 漁業機器学講座 — 航海学講座 — 運	生産システム学講座 運航システム学講座 資源環境計画学講座 海洋生産管理学科 (学生募集人員 45名)
機関学科 (学生募集人員 50名) — 蒸気原動機講座 — 内燃機関学講座 — 補助機械講座 — 機械工学第一講座 — 機械工学第二講座 — 電気・電子工学講座 — 計測・制御工学講座	動力システム工学講座 海洋機器工学講座 海洋環境工学講座 海洋機械工学科 (学生募集人員 45名)
製造学科 (学生募集人員 50名) — 食品物理化学講座 — 生物化学講座 — 食品化学講座 — 微生物学講座 — 水産製造学講座 — 食品製造工学講座	生物化学講座 資源理化学講座 食品利用学講座 食品化学科 (学生募集人員 45名)
増殖学科 (学生募集人員 30名) — 水産資源学講座 — 水産環境学講座 — 水産動物学講座 — 水産植物学講座 — 水産増殖学第一講座 — 水産増殖学第二講座 — 水族防疫学講座	資源生物学講座 資源環境学講座 資源増殖学講座 生物生産学科 (学生募集人員 30名)

1 参照。

要点の第二は、水産業をとりまく情勢の変化によって、水産物流通、経営及び情報解析に係る課題が多くなっていることから、これらの課題に対応する人材を育成するために、平成一一年度から水産情報経営学科

要点の第三は、社会的要請にこたえるために、これまでの授業科目を見直し、海洋生産管理学科においては国際的な資源管理と国際漁場の確保

に二〇名ずつの学生を收容し、社会ニーズに合致した教育を行うことになりました。

に係る教育を、海洋機械工学科においては新たに海洋環境工学講座を設置して、海洋環境の工学的手法による保全に重きをおいた教育を、食品化学科においては未利用資源の有効利用や機能性食品の開発に係る教育を、また生物生産学科においては、つくり育てる漁業と資源管理型漁業に重きをおいた教育を行って内容の充実を図ります。

要点の第四は、知識と技術の高度化を必要とする社会のニーズに応えるために、一般教育の低学年時実施と専門教育の高学年時実施の教育システムを改め、低学年時から専門教育に触れることができるように、一般教育と専門教育を一貫した体系の中で実施します。

要点の第五は、これまでの小講座制が個々の専門分野に細分化されているために、水産業をとりまく社会が必要としている海洋環境問題や資源管理などの重要な課題に即応しにくいこと、また授業内容が特化しすぎて学生に幅広い教育ができてにくいことなど、いくつかの問題点が指摘されていることから、これらの課題を解決するために大講座制を採用することにいたしました(表1参照)。

このような学科改組によって期待される効果としては、(一)受験生の増加が見込まれ、学生の質の向上が図られる。(二)社会の要請に応えうる人材の育成ができる。(三)一貫教育によ

って高度な知識と技術をもち、しかも創造性豊かな人材の育成が可能となる。(四)水産に関して幅広い視野をもつ人材の育成ができる。(五)大講座制の採用によって、境界領域の研究が促進され、社会が必要とする研究の実施が可能になる。…などのメリットが挙げられますが、改組という仏を作ったのちに重要なことは、教官並びに事務官が一九となつて魂を入れ続け、生き生きとした学生を育て、世に送り出すことではないかと思えます。

水産大学校—釜山水産大学校 学術交流懇談会(第一回)

国際交流委員長 原 田 勝 彦

最初にこの懇談会開催の経緯を簡単に触れさせて頂きます。水産大学校の歴史は昭和一六年釜山市に創設された釜山高水産大学校に始まります。釜山水産大学校もその起源を同じくしており、両大学校は真の意味での兄弟校といえます。平成二年両大学校は五〇周年を迎え、本大学校が記念式典を開催したのを機に、水産及び関連する学術並びに教育の相互交流を促進するため、「学術研究及び教育に関する情報交換」と「教官及び学生の交流を柱とする学術・教育交流」に関する協定を締結しました。これを受けて今回(平成

七年)の第一回学術交流懇談会を開催する運びとなりました。この間、釜山水産大学校五〇周年式典(平成三年)に本大学校の校長他二名が表敬訪問、本大学校で開催された日本水産学会秋期大会(平成四年)には釜山水産大学校の三名の教授による特別講演、さらに釜山水産大学校から三名の学生交流団(平成五年)の訪問がありました。特に一昨年度、釜山水産大学校の企画研究室長が本大学校を訪問され、今後の具体的な学術交流の遂行の要請があり、今回の運びとなりました。

学術交流懇談会出席のため、松生校長他四名が平成七年五月一日から一五日の間、釜山水産大学校を訪問しました。初日(二日)は第一の目的である今後の懇談会の合意文書の調印式を行いました。この内容の大きな柱は「毎年交互に出向いて学術交流懇談会を行う」という合意文書です。これによって、今後益々両大学校の交流が深まることになりました。この日は総長訪問、大学校紹介、構内見学、懇談会事前打ち合わせを行いました。懇談会に先立ち、総長の挨拶があり、続いて松生校長の基調演説、本大学校の先生三名の講演が通訳と討論を含めて行われました。活発な意見交換があり、一〇〇人以上の参加で盛大に行われました。約一時間の予定時間を超過したことはこの間接的な証明となりました

よう。学術的な研究が必要であると認識が締めくくりでした。このように第一回の学術交流懇談会が成功裡に終えたことは有意義であり、今後の両大学校の学術交流が益々発展することを強く示唆しているといえます。

図書館に寄贈された

石山礼蔵文庫

石山文庫設立準備会
世話人 林 健 一

元水産大学校教授 石山礼蔵先生(東京水産大学名誉教授)より、蔵書寄贈のお気持ちがあることを知ったのは昨年末でした。石山先生は、水産大学校に昭和二六年から昭和四二年まで在職になり、増殖学科魚類学講座の主任教授として教育・研究に情熱を注がれ、多くの卒業生を送り出されました。この間、日本近海産ガンギエイ科魚類の分類学的研究で日本水産学会賞を受賞されるなど、ここ下関の地と水産大学校に深い愛着を持っておられます。蔵書の受け入れ先の選定にあたって、水産大学校を選ばれたことに、石山先生のお気持ちがいかに現れていると思われ、東京水産大学に移られてからも魚類学会の会長として、学会の設立から発展へと大いに貢献されておられ、昭和六〇年には勲三等旭日中授

賞を受章されています。

本校は平成六年度から修士課程である二年制の研究科の発足をみたわけであり、専門分野の図書充実が急務とされるおり、時宜を得た申し入れでした。早速、実現に向けて、学内に松生校長を会長にして石山文庫設立準備会を作り、受入についての準備をいたしました。その結果、同窓生をはじめ非常に多くの人々の協力により、文庫の設立が可能になりました。蔵書の内訳は、専門の魚類学や水産資源学関係、生物学や動物学関係をはじめ、退官後から本格的に取り組まれた自然保護や環境関係の書籍を中心に単行本一、〇一六〇点、雑誌類二二〇点の多くに及んでいます。キャンパス中央にできた新図書館内にこれら書籍類の搬入も終わった平成七年一〇月一六日に石山先生をお招きして、国際交流会館の大会議室において石山文庫設立の報告と、感謝状の贈呈式を行いました。このとき、八三才という高齢にも拘わらず、「半世紀余 私歩んだ道」と題した感銘深い講演を、学生たちに対してしていただきました。

新図書館はコンピュータによる検索システムが稼動しており、上記図書についてはそれに適合するよう現在手続きが進められていますので、広く学生・教職員の利用に供される日もそう遠くないと思われます。なお、このほか、先生の専門分野の研

究別刷りが約八、〇〇〇編あり、これは今後、未利用資源が多いと言われている軟骨魚類関係の研究には欠くことのできないものであり、カード化を急いでいる状態です。

水産大学校

田名臨海実験実習場

田名臨海実験実習場長

柿元 皓

一、沿革

第二次世界大戦中に山口県熊毛郡にあった大竹潜水学校柳井分校や平生嵐部隊の施設として使用されていた施設が、終戦後大蔵省に返還されたが、地元希望によって教育施設として利用されることになり、昭和二三年から本校漁業学科の授業と実習に利用されたり、各学科の夏季実習に利用された。その後、職員が常駐するようになって、主として増殖学科の実験と実習に使用されるようになった。昭和二六年には全施設が本校に移管されたが、その間校名の変更と共に、昭和二七年に第二水産講習所田名実習場、昭和二九年に水産講習所田名臨海実験実習場、昭和三八年に水産大学校田名臨海実験実習場と改称された。昭和五九年には宿舎が新築されて宿泊環境が改善されたが、実験棟は移管された時の状態のままであった。平成七年三月に

この実験実習棟を全面的に新築する事が出来て教育施設のみならず、研究施設としての機能の拡充、強化が図られ、設備、内容、外観を一新した。

職員は場長(併任)のほか、教官一名、事務官一名の、三人体制で、常時二名が常駐している。

二、施設の概要

本実験実習場は瀬戸内海国立公園の一角、山口県東部の平生町にあって、流程五〇キロメートルの田布施川の河口域に面しており、近辺水域には干潟、岩礁帯、藻場、島嶼が散在しており、瀬戸内海のモデル的な

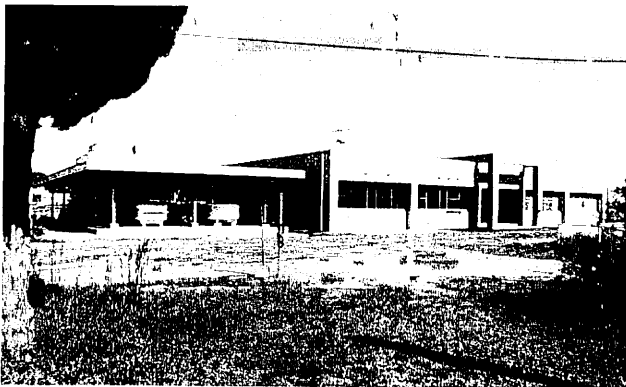
環境下にあつて実験実習の材料の極めて豊富な場所にある。

実験実習場の敷地は四、一三五平方メートル、建物は延べ一、〇八八平方メートル、実験実習棟は鉄筋コンクリート平屋建てで、実験室はドライラボとウェットラボの二室、その他恒温研究室が二室、冷凍保存室、暗室、セミナー室、事務室などが設備された近代的な設備である。また、新たな施設として屋外飼育水槽六面(方形FRP六立方メートル水槽二面、円形FRP二立方メートル水槽四面)を設置したほか、海水の給排水施設がある。宿舎は鉄筋コンクリート二階建てで、和室一〇畳間六室、六畳間四室、浴室二室、食堂、調理室があつて、三八名が宿泊定員となっている。

舟艇は「なぎさ丸」一・一トン(FRP、六〇馬力、定員二名)が配属されており、頻度高く利用されている。

三、本校対象教育研究活動

本校学生対象の教育としては、とくに一年次生を対象とした増殖学科学生では、潮汐観測、浅海観測、タイドプール、干潟、プランクトンなどの調査を実施し、二年次生を対象にした臨海生物学実習では、より高度な浅海観測、潮間帯、岩礁帯、アマモ場、沖合生物、幼稚魚などの調査のほか、貝類の発生などを、必修として実施している。また、必要に



応じて講演会、セミナー等も開催している。

研究としては実験実習場の立地的特性を生かして、内海水域や汽水域の環境特性、生態的特性、資源生物的特性の研究等について行っているほか、各学科教官、卒業論文学生、研究科修士論文研究などに利用されている。この五年間にプランクトン、海藻、二枚貝、稚仔魚に関する研究論文が十数編報告されている。

四、外部利用状況

他大学の教官、学生による調査研究に本施設が利用されているほか、県水産試験場等の調査機関の行う調査にも利用されている。

また、地もと平生町を初めとして、近辺の漁業協同組合、地域住民は水産大学の教育、研究に理解が深く、実習時は勿論、諸調査、研究に際して極めて協力的に対応されており、地域小・中学校が主催する体験学習、県漁業協同組合連合会が主催する漁民大学などの催しにおいて、会場として利用され、講師として本校教官が対応している。

五、予想される新しい研究展開

過去においては水産大学校田名臨海実験実習場と小野臨湖実験実習場のそれぞれにおいて、海水産生物、淡水産生物の研究を実施してきたが、河川域、汽水域、沿岸水域のみならず、山林までも含めた環境と生物を連続的に調査研究し、それらを生態

系として、保護、保全する必要が生じてきている。そこで本実験実習場をエコテクノセンター、小野臨湖実験実習場をバイオテクノセンターとし、両センターの連携を密にした研究体制として、アクアエコロジーセンターと位置づけした研究開発を進める。

新装なった 小野臨湖実験実習場

小野臨湖実験実習場長

鬼 頭 鈞

はじめに

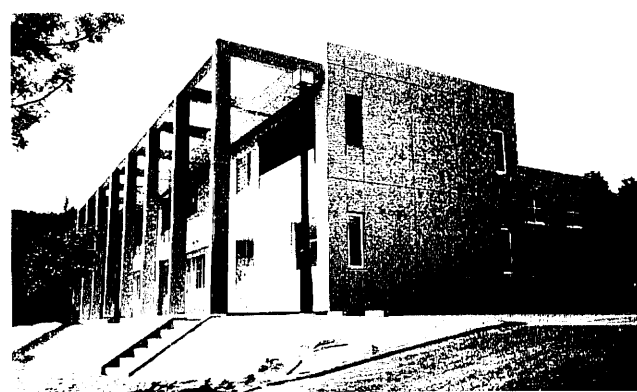
小野臨湖実験実習場はかねてより施設の老朽化が目立ち、その更新が望まれていた。幸いなことに平成六年度に、景気刺激策の一環として補正予算施行の対象となり、その年度内に全面的に新築された。そして、これを機に機能の整備拡充が図られ、特に遺伝子工学を利用した魚類の増殖技術や環境保全を志向した陸水域の生態系研究を進めるための機器設備が完備された。以下に新装になった施設の概要を紹介する。

一、沿革

本実習場は、昭和二九年四月、現在の場所に開設された(官報公示)。当初の設置目的は陸水に関する実習と淡水魚類の増養殖漁業に関する実習を行うことで、昭和二八年地元の

小野村より実習場建設用地二、九四七平方メートルの寄贈を受けた後、同年から昭和三〇年にかけて、孵化池、亀甲型流水池、学生実習用宿舍などを建設した。昭和三三年四月には、実習池に隣接していた宇部市の養殖池を同市より寄贈されたことにより、現在の実習池が完備するに至った。

平成七年三月、これに先立って平成六年度補正予算によって全面新築が認められたことにより、一階の研究設備と二階の学生宿舍からなる、一、〇六二平方メートルに及ぶ新研究施設が完成した。この結果、研究



設備としての機能が飛躍的に改善された。特に、遺伝子工学を利用した魚類増殖学に関連する研究設備が新たに導入され、幅広い先進的な研究が可能となった。

職員は場長(併任)、教官一名、技官一名で、うち場長を除く二名常勤体制である。

二、施設の概要

本実験実習場は山口県宇部および小野田両市の工業用水、上水道用水ならびに灌漑用水などの確保のため、昭和二六年に築造された多目的ダム(小野湖)の上流部に設置されている。小野湖へは石灰岩台地である秋吉台の東側を流れる太田川と西側を流れる厚東川が流入している。このように小野湖は陸水学ならびに淡水増殖学の実験実習に極めて適した環境要素を多く持っている。

実験実習場の敷地は八、六二四平方メートル、建物は延べ一、〇六五平方メートル。このうち新しく建設された宿舍兼実験実習棟は鉄筋コンクリート二階建てで、延べ九五〇平方メートル、中には実験実習室二、セミナー室、研究室、培養室、学生宿泊室六、和室三、食堂、炊事室、浴室、管理室が設置されており、宿泊定員は五〇名である。この実習棟には、遺伝子工学を推進する上での必要機器すなわち、走査型レーザー型顕微鏡、フローサイトメーター、遺伝子分析装置、遺伝子増幅装置、

超遠心機等一〇種以上に及ぶ重要機器が整備された。

なお、魚類飼育設備としての養魚池は従来と変化無く一六面で計一五平方メートルが設置されている。この池の改修に関しては今回は対応出来ず今後に残された。

三、本校対象の教育研究活動

本校の学生対象の教育利用としては、増殖学科二年次生に対し陸水学実習がある。この実習では湖沼の水質調査や基礎生産力測定ならびに底質調査、さらに河川域の生物調査、特に附着珪藻や水生昆虫の同定と定量等の項目を中心に観察研究が行われる。また、増殖学科三年次生を対象としては、内水面増殖学実習があり、淡水養殖魚類の種苗生産および飼育管理法の実習を行っている。具体的な項目としては、親魚養成、産卵および人工受精、卵の発生、孵化の観察、稚仔魚養成、養魚管理などである。

近年JICAの研修生に対しても、淡水魚の種苗生産および飼育管理について短期の実習を行っている。

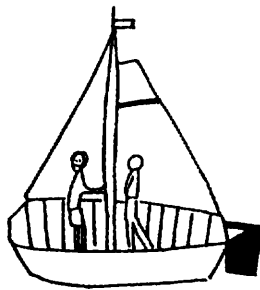
本実習場を利用しての最近五年間の研究としては、ウナギ、コイについての呼吸生理に関する研究、オイカワ、マシジミの集団遺伝学的研究、アユの体表粘液における生体防御機構に関する研究など、二〇編の研究論文が報告されている。

四、外部利用状況

他大学の教官、学生および県水試などの公的な研究機関による調査研究のために周年利用されている。延べ人数にして年間約一〇〇人におよぶ。また、地元漁業協同組合等の要請に応じて、小野湖を始め近隣の河川に対し、毎年幼鯉の放流を行っている。

五、予想される新しい研究展開

近年、地球規模での環境問題が世界共通の課題となってきたており、二一世紀に向けた快適環境づくりへの取り組みが各方面で始まっている。水域環境に関しては、河川上流域から沿岸域までの連続的な生態研究を進めることが重要であると考えられる。この様な研究を行う上で本実習場は今後重要な拠点となるであろう。また、新しい魚類増殖学を進めるために、遺伝子工学の導入は不可欠であり、新設された本実習場の諸設備はこの様な面に大きな成果をもたらすものと思われる。



卒業生・在校生の声

学園生活二年間の雑感

山 森 幸 寿

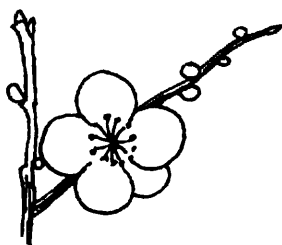
(機関学科二年生)

大学では興味のある分野の勉強が出来、しかも自分で選べるといわれ希望を抱いて入学しました。ところが私を待っていたのは、教室の講義についていくには自分で勉強して補強しなければならぬというハードなものでした。自主的勉強が大学教育と分かっていましたが、これまでの勉強法との違いに大変にとまどいました。このことは二年生になり専門科目が始まると痛感させられました。内容が数学や物理の知識を基礎とするため難しく、理解出来ないという学生が始めました。それでも先生に「これらが基礎となり、今後に役立つ」と言われ、四苦八苦しなから頑張っています。

このような緊張の学園生活で、学園祭はリラックスできる行事です。昨秋、平成七年度から使用されている新設の機関学科実習工場で、先輩方を中心に私達で学校自慢の実習用装置や測定器の展示会を催しました。見学にきた多くの一般の人に興味をもってもらえ、展示にたずさわった私達には満足のいくものでした。このおり、多くの先輩と話をしたり、

機械の説明を聞いたりすることが出来、愉快なときを過ごしました。今年には自分達でアピールするものをもと考えています。

過ごした二年間の印象は、学生数が少ないこともあって、先生との触れ合いが多いと思います。勉強にしても日常生活にしても、一人一人の学生について見てくれてるように思います。時に厳しく忠告されることもありませんが、それだけ細かい気配りをされている証拠でしょう。他大学にない特徴のあるカリキュラムをもつ水大での勉強と、キャンパス周辺に自然が多くある場所での生活は、便利さが日常的であった入学前と違い、自活の大変さを痛感したことから、一時期自分のおかれている状態と将来について悩みました。この体験から、私の大学生活の目標を見付けました。それは今までの自分をみつめ直し、進む方向をみつめる時期だということです。今年はその出発が出来るような年にしたいと思います。



私にとっての一人暮らし

高 崎 卓 也
(製造学科四年)

初めての一人暮らし、当初は受験からの開放感や高校の時に比べ授業が楽で、精一杯遊べるのではという期待から、夢の様な日々が約束されていると思込んでいた。しかし、月末になると金欠病になり、そうそう遊んでもいられないと思い、アルバイトを始めた。やってみると、大で教わることに以外に、社会人と学生アルバイトとの違いや接客の仕方、商品の扱い方などを学んだ。もっと有効にお金を使う為に、自炊も始めた。初めは、油物しか出来なかった私の色々挑戦していく内に煮物など手の込んだものも作れる様になった。いた。

今まで紹介したのは私の一人暮らしのほんの一部だが、私一人の力でここまで出来る様になった訳ではなく、それぞれ私の成長していく過程に欠かせないのが友達の存在である。みんな色々なことを教えてくれた。私が最も教わったのは、私の性格の本質ではなからうかと思う。素直に人に頼れない性分であった私を、自分のことの様に心配してくれる。又強がりばかりで他人に弱味を見せたくなかった私を信用し、頼つてもくれた。私は、人間誰しも一人で生きていくことは出来ない、常に何らか

の手助けがあつてこそであると痛切に感じた。父に入学前、「大学での友達は大切にしないさい。大学の友達は利害関係を越えて付き合うこと出来る人に出会うから。」と言われたのを覚えてる。正直に言つて四年前はよく分からなかったが、今の私なら分かる気がする。

今、卒業も間近に迫り四年間を振り返つてみると、私が一人暮らしをしたことにより、良い友達に出逢い有意義な大学生活を送れたのも、両親のお陰だと思ふ。今まで私が両親にどれだけ支えられ生きて来たかを、一人暮らしをして初めて分かった。又、友達も卒業してそれぞれの道を進むが、いつまでもいい仲間であった。私にとっての一人暮らしは、私自身を再発見する貴重な場であつた。

学んだことが生かされる

吉 岡 武 志
(漁業学科四二期)

平成四年三月卒業の吉岡武志です。現在、福岡県水産海洋技術センター筑前海研究所、研究第一課という研究専門の分野で働いています。仕事の内容を一言で表現しますと、「筑前海における浮魚に関する仕事」ということとなります。浮魚の中でも、この海域でよくとれるアジ・サバ・イワシを中心に、これら魚種の漁況や資源状態等を把握・予想するため

の調査・研究をしています。定期的な調査としては、卵稚仔分布調査、魚群探知機による魚群分布調査等を行っています。浮魚についてはまだまだ未知の部分が多く、その解明も一筋縄ではいかないものが多いのですが、それだけに興味をそそられ、未熟な頭脳で日夜あれこれと考え、迷い、そして戦っています。

学生時代の生活は二年間を滄溟寮で過ごすなど、毎日が新鮮!?で楽しい日々でした。講義では、海の中を見渡すことのできる魚群探知機に興味を覚え(濱野先生の名講義に誘われて……?)、卒業研究では漁業機器学講座に入りました。卒論のテーマは「キユウリエソの鉛直移動と天空照度との関係」でした。論文の「ろ」の字も知らない私を濱野先生はデータの収集方法、論文のまとめ方……等、初歩の初歩から熱心に指導して下さいました。その後、魚群探知機への興味は深まり、長崎大学大学院に進学しました。ここでは、二年間という時間を一つの研究にのみ当てられたため、「研究のやり方」等をじっくりと、そして、さらにより深く学ぶことができました。これらのことは現在の仕事に大いに役立っており、先生方には大変感謝しております。

大学院に進学して

宮 村 和 良
(増殖学科四五期)

昨年、水産大学校を卒業した後、九州大学大学院に進学し、農学部附属水産実験所に在籍しております。福岡県筑後川と熊本県緑川におけるアリアケヒメシラウオの生態研究をテーマに、日々研究に取り組んでおります。アリアケヒメシラウオといいますが、実際に見られた方はほとんどいらつしやらないと思います。本種は、全長六センチメートル前後に達するシラウオ科の魚で、汽水域の中でも特に塩分が低い水域にのみ生息しております。ちなみに、水産大学校の近くの永田川、西田川に春遡上してくるハゼ科のシロウオとは異なります。

私が調査を行っている筑後川と緑川は、潮汐差が最大六メートルにも及ぶ有明海に注ぐ河川であるため、感潮域が非常に長く、特異な環境が形成されております。そこには、アリアケヒメシラウオ、ムツゴロウなど、日本の他の地方では見られない

魚種が生息しています。筑後川では河口から約二四キロメートルの地点に筑後大堰が稼働し、感潮域が狭められ、流量が減少したため、そこに生息している生物に影響を与えているのではないかと思われます。近年、アリアケヒメシラウオの生息数も減少しており、環境庁のレッドデータブックでは絶滅危惧種と記載されておりあります。

実際に筑後川へ調査に行き、川の様子を見ますと、ただ驚かされることばかりでした。最大六メートルにも及ぶ潮汐差のため、上げ潮時には渦を巻きながら川が逆流しますし、有明海の軟泥を運んでくるため、水は絶えず褐色に濁っています。それに研究を始めますと考えたようには行かず、研究を進めることの難しさや自分の力の無さを痛感することになりました。約一年経って少しは川の様子や調査にも慣れ、多くの人々に助けられて、どうにかこうにか、少しずつではありますが、研究が進んでおります。

実験や調査の無い日は、サンプリングと称しては、投網採集や釣りを行って、有明海の珍しい魚や実験所近辺の魚を捕まえては、種の同定をしたり、飼育をしたり、そして食べてみたり、水産大学校在学中と変わらない日々を送り、楽しんでおります。

新任紹介

はじめまして

事務部長 上 関 征 治



平成七年
六月一日付
学校に転勤
を命じられ
着任して約

一〇ヶ月が過ぎ去り、多少の慣れと落ち着きを持つことができるようになりました。

私の出身は岩手県大船渡市、入省は昭和三四年七月に林野庁を振り出しに昭和三九年一〇月から一〇ヶ月間南極海捕鯨母船に乗船、昭和四三年大臣官房、昭和四八年六月水産庁に機構改革があり総務課に、その後企画課、漁政課、平成二年四月に遠洋課、平成四年資源課、平成六年四月漁業損害賠償処理委員会に派遣された後、水産大学校に至りました。

水産大学校には、今まで何度か用務で訪れましたが、自然環境に恵まれ学校としても優れた立地条件にあるものと漠然と考えていました。しかし、赴任早々に平成八年度予算組織要求、校内施設整備等色々と折衝していかなければならない仕事お待ち受けていました。勿論、これらに

限らず問題は少なくないよう水産大学校の業務も年々繁忙をきたしている状態の中で限られた予算人員で、より円滑に進めるよう支援的な役割を認識し、私なりに努力を重ね、いくらかでもお役に立ちたいと考えております。

皆様のご指導並びにご支援を賜わりますようお願い申し上げます。

練習船に復帰して思うこと

天鷹丸船長 武 田 靖 昭



平成七年
四月天鷹丸
に赴任して
早や一年を
経過したが、
思い起こせ

ば一九年の練習船勤務から離れ、平成三年四月から五年三月までは北水研所属調査船北光丸、平成五年四月から七年三月まで本庁沖合課所属取締船白萩丸に乗船し日本の漁業が直面している現状とその将来につき多くを考えさせられた。

取締船勤務では山陰、九州及び三陸、北海道沖の韓国、中国漁船の違反操業の状況を見て漁業協定が有名無実で陥っている現状と、日本の沖合漁業の厳しさを考え合わせ、二〇〇海里漁業水域設定の必要性を痛感した。

二〇〇海里時代の漁業の将来について思うことは、釧路勤務の際に見聞きした自然保護と漁業のかかわりあい、サケの孵化放流(一二八河川水系に一三三孵化場)や沿岸漁業の主要生産物であるホタテや昆布の増殖に対しての取り組みで、未だ北海道には手付かずの自然が多く残っていることとされているが、現実には人手が入り破壊も進み、河川への泥流の流れ込みの結果、沿岸漁業の荒廃を招いたため、河川水の浄化及び砂塵飛散の防止のため各地で森林を復活させるための植樹が行われ、生産の向上に努力していた。

漁業とは自然界においては生態系との関連性が大きく、漁業環境の悪化は陸地に主な要因があり、自然環境の無秩序な破壊防止と修復保全は今後の魚類の再生産機構の維持と人類の健全な生存にも重要なことである。

漁業の衰退を当然のごとく論じるのではなく、再生を考慮した新しい視点から物事を眺め直しオールラウンド的な管理型漁業を目指し、その基礎たる海岸、資源及び生態調査を海上という絶好のフィールドにある練習船を十分に活用する実習内容を盛り込み、海から陸への視点を変えた教育も加えて行うべきであろう。

各種の航海計器及び機関制御がコンピュータの発達に伴い自動化され運航及び情報処理のコンピュータ

―処理が可能となつて運航管理に余裕が出た分を単なる航海士及び機関士教育のみばかりでなく練習船を高度に活用して海洋資源調査等に回す時間を作り出し、より付加価値の高い練習船教育を実施すべきであろう。幸い平成九年度から学内教育組織改革が行われることが決まり大講座制に移行するのを機会に、練習船実習教育も新しい時代を認識した内容に変えて行くべきと思う今日この頃である。

「国際化」について思うこと

教養学科 最 首 太 郎



早稲田大学
水産大学
校の法律学
担当講師と
してここ下
関に赴任し

て来て以来一年が経過してしまいました。仕事や生活においてまったく戸惑いがなくなつたとは思いませんが、それなりに環境に順応してきたと自認しております。以前は、パリにあるOECD（経済協力開発機構）という国際機関に二年余り勤務していました。また、フランスという国に関して言えば、このOECDでの勤務に先立ち、大学院生時代に南フランスのエクス・アン・プロヴ

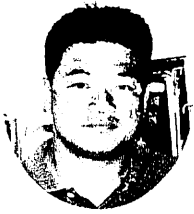
アンスの大学に約二年間留学してまいりました。都合同四年間に渡るフランスでの生活は、当時も現在と変わらぬ「発展途上」にあつた私に「国際社会」、「外から見た日本」について多くを学ぶ機会を与えてくれました。OECDという国際機関の主要なテーマは、人、物、資本の完全自由化です。この自由化に際して、各国の経済力、さらに個々の産業の競争力を考慮に入れないならば、形式的平等に基づいた経済的強者の支配する世界となつてしまいます。従つて、そこでの協議は、「紳士的攻防」の観を呈することとなるのです。

ここ数年「国際化」という言葉をよく耳にしてきました。とりわけ近年は、「自由化」がこれに加わつていくようです。しかし、これらの用語が意味するところは、多様で、論者によつては価値判断を含んだ巧みな使い分けもなされていくようです。本来、これらの概念は目的的概念であり、そこに到達する過程が重要であると思われまふ。またさらに、そのような過程への参加に際しては、主体性が求められているのです。このことを背景として、果たして、ともすれば自己が帰属する集団に埋没しがちな日本人が国際社会に生じているこのような意思決定過程にどれほどイニシアチブをとつて積極的に参加できるものか疑問に思う今日この頃です。

伝統からチャレンジへ

―永遠の課題―

教養学科 中 嶋 健



京都市に
生まれ、大
学と大学院
生活を茨城
県つくば市
で過ごした

私が、この風光明媚で、伝統と歴史の町、下関で教員生活を始めてから早くも一年が過ぎました。実に半世紀をこえる水産学の研究と教育の伝統を持つ本校において、体育教官としての私の役割はいったい何なのか。これが、私の赴任当初の課題でした。私の研究分野は「スポーツ史学」です。ので、少し歴史的な事柄もまじえて、本校における私の役割について考えていることを簡単に述べたいと思います。

一八六一年、アメリカ合衆国マサチューセッツ州のアマスト大学 (Amherst College) において、世界で最初に体操を中心とする大学体育の授業がスタートしました。この

時の体育教官であつた Erasmus Hichcock (一八一―一九一一) は、「私の任務は、大学教育、大学生活の基盤である個々の学生の健康度の向上を体育実技によつて実現することと、卒業後の運動実践への基礎的動機付けや習慣を与えることである」と述べています。この考え方は、二〇世紀初頭の日本の学校体育の草創期のモデルになり、今日の大衆体育の伝統的理念として脈々と生きついでいます。その後、一九六五年から一九七〇年代には、ヨーロッパ諸国を中心に学校体育は「体育(体操)からスポーツの時代へ」移行し、体育の教材は、体操からオリンピック大会に代表的な近代スポーツ種目に変化しました。

しかし、この近代スポーツもまた時代の変化の中で不変ではなく、さらに「競技からレジャーの時代へ」という新たな移行期をむかえつつあります。

今日、スポーツは、教育の世界から開放され、われわれの生活と極めて密接になり、ライフスタイルにまでその影響を与えるようになったといつても過言ではないと思ひます。スポーツは時代により変容する、あるいは時代を変容させる文化として認識しなければなりません。今後、「地球時代」といわれる未来を担う学生達にとつて、スポーツという文化を「理論」と「実践」を通じて正

しく理解することは、まさに現代、
未来に生きるための教養を獲得する
ことになる。私は確信しています。

だからこそ、このための教育実践
は、単に大学体育の伝統的理念によ
るだけではなく、常に変化に対応で
きる研究成果を持ち、学生と共に
行動する創造的なものでありたいと
願っています。私は、赴任当初の課
題を今解決されなければならぬも
のと考えずに、永遠の課題として受
けとめることにより、新たなチャレ
ンジを生み出す動機にしたいと決意
しています。まだまだ未熟な教師・
研究者ですので叱咤激励をお願い
いたします。

「海って不思議だなあ」

漁業学科 千手 智晴



昨年四月、漁業学
科漁場学講
座に助手と
して着任い
たしました。

よろしくお願いいたします。それま
では、東京水産大学で博士課程修了
後、研究生という立場で、研究・教
育(?)に携わってきました。東京
水産大学にも船があり、先生や大学
院生、学部学生と一緒に毎月のよう
に海へ出かけ、私自身、いろいろな

ことを体験し、学んできました。そ
して、いつも思うことは、「ああ、
海って不思議だなあ」ということ
です。

私の専門は、「海洋物理学」と呼
ばれる分野ですが、これは、海で起
こる様々な自然現象、例えば黒潮の
大蛇行だとか、親潮の異常南下だ
とか、エルニーニョがどうしただ
とか、そんな問題を物理的な視点で研究す
る学問です。私はこれらの中でも、
特に海洋の中層や深層での海水の循
環に興味をもち、そのモデル海域と
して、日本海を研究してきました。

今、本学の目の前に広がる日本海
は、海洋学的に見ると極めて興味深
い海です。というのも、日本海は浅
くて狭い海峡によって大洋と切り離
されているため、深いところの水
(深層水)が、太平洋から日本海へ
入って来れないからです。このこと
は、日本海の深層水は、日本海内部
で形成されたことを意味します。実
はこの水塊が、日本海の中で、ど
のように形成され、そしてどのよう
に広がって行くのか謎に包まれてい
ます。三年程前、ロシアが日本海に
核廃棄物を投棄していることが報道
され、大きな社会問題になりました
が、それがどこへ流れて行くのか?
日本へ来るとしたらいつ頃やってく
るのか?といった問題に、未だに明
確に答えられないのは、まさにこの
問題が良くわかってないから、と言

えます。

目の前にある海のことすら、まだ
まだ解らないことがたくさんある。
本当に「不思議だなあ」と思います。
これからも、できるだけ海に出かけ
て、解らないこと、不思議なことの
一つでも解決できるように頑張っ
ていきたいと思っています。

浮遊幼生、田名に漂着!

増殖学科 荒木 晶



私は平成
七年四月に、
水産大学校
田名臨海実
験実習場の
助手に着任
しました。ち
ょうど五年
前に本校の
増殖学科を
四〇期で卒
業し、昨年
までは九州
大学大学院
農学研究所
に在籍して
いました。

九州大学に通っていた五年間に、
本校は先進的な設備を備えた近代
的な建物へと大きく変貌を遂げて
いました。そして田名臨海実験実習
場も、私の赴任と同時に新しい実
験棟に生まれかわりました。私が学
生実習や卒論で実習場を利用してい
た頃は、夏は暑くて蚊が多く、冬
は隙間風だらけの今にも倒れそ
うな木造の建物でした。現在では
明るい水色の鉄筋コンクリート製
で、どこから見ても

水産大学の施設と解るものに変
りました。昔の実習の思い出が懐
かしくもありますが、新たな気分
で仕事に臨んでいます。

私の専門は「水産動物学」で、特
に甲殻類の生態を中心に研究して
います。四年生の卒業論文の時に
は林健一先生の下で東海・黄海の
小型のエビ類を、有用魚類の天然
餌料としての観点からとりま
とめました。サワガニは、その名
のとおり沢にいるカニで、一生を
河川の清流域で過ごします。産
卵期にも海にまで下ることがな
く、親ガニは大きな卵を少なく
産み、幼生期がないため卵から
孵化する時には既にカニの格好
をしています。日本に広く分布
しているカニですが、産卵生態に
ついては未解明な部分が多く今
後の課題となっています。最近
では、河川の改修等かなり生息
場所が狭くなっているよう
です。

多くの先生方から「サワガニに
顔や仕草が似てきたらしめたもの
」とよく言われています。運動不
足で顔に丸みはできてきましたが、
サワガニにはなかなか似てきま
せんし、生活面でも稚ガニが最
初から足を地に付けて踏ん張
っているのに、私はまだ浮遊幼
生期でなかなか着底できませ

ク ラ ブ 紹 介

サ ッ カ ー 部

新 主 将 橋 本 洋 明
(製 造 学 科 二 年)

サッカーと言えば現在ではJリーグ、ワールドカップと連想する人が多いことと思います。

では、「サッカー部は？」と聞かれて何を連想するでしょうか。私が推測する限りでは、「疲れる」、「一生懸命」、「流行」、「まねごと」という答えが返ってきそうです。そこで、水産大学校サッカー部はいかがなものかと考えてみます。まず、部活である以上勝利至上主義的なものが一義として存在します。しかしこれは時と場合によって見え隠れするのが現実であって、サッカーをプレーする事を楽しみ、汗を流す事を目的として部活動していると言っても過言ではありません。これは私の言い分ですが、何をするにせよ、まずそれを楽しまなければ行う意味は激減すると考えます。

先程、時と場合によって見え隠れすると述べましたが、これが目に見

えて現れてくるのが、北九州インカレ(北九州・下関地区大学体育大会)です。これは我々水大サッカー部が出場する最も大きな大会であり、国立の大学校で規模は小さいが、部員一同頑張っているという姿を見せつけるチャンスなのです。最近の試合結果は、六月に行われた春季大会では一回戦で九州共立大学と対戦し0-1で敗退(優勝：九州共立大学)。また、一二月に行われた秋季大会では一回戦で福岡県立大学と対戦しPK戦(4-3)で勝利、二回戦で再び九州共立大学と対戦し0-1で惜敗(優勝：九州共立大学)と共に優勝校に敗れたものの、春から秋にかけて成長の跡が見られます。

練習は毎日午後四時三〇分から行っています。又、試合に慣れ、体力をつける意味から、下関市サッカーリーグ(一部)四部に各一〇チーム、計四〇チームが参加し、水大サッカー部は現在一部リーグにも加盟し、勝てるチーム作りを目指しています。

平成7年度卒業予定者進路状況

(平成8年3月卒業予定者)

区 分	学 科	専 攻 科		漁 業 学 科	機 関 学 科	製 造 学 科	増 殖 学 科	研 究 科	計
		航 空 航 空 運 送	船 舶 運 送						
卒業 予定者数		13	28	47	51	49	33	8	229
進 学 先	大 学 院				2	1	3		6
	研 究 科			2	3	1	3		9
	専 攻 科			27	27				54
	研 究 生			1	1				2
	専 修 学 校 等		1						1
	計	1	30	33	2	6			72
就 職 先	国 家 公 務 員	2	2	1					5
	地 方 公 務 員	4	1	1	1	3		1	11
	各 種 団 体	1	1			2	5	1	10
	水 産			10		18	13	2	43
	船 舶	5	13						18
	造 機 ・ 造 船		4		12			1	17
	食 品				1	16	1		18
	そ の 他 の 企 業					2	1		3
※ そ の 他	1	6	5	4	6	7	3	32	
	計	13	27	17	18	47	27	8	157
合 計		13	28	47	51	49	33	8	229

(平成8年2月1日現在)

(分類内訳)

各種団体=水産関係各種団体 水産=水産関係・関連企業
船舶=船舶・海運関連企業 造機・造船=造機・造船関連企業
食品=食品・関連企業 その他の企業=その他の企業・自営業
※その他=国家・地方公務員・海技試験受験等の準備



学 生 部 だ よ り

平 成 七 年 度

卒 業 予 定 者 の 進 路 状 況

本 年 度 の 進 路 状 況 は 別 表 の 通 り で 有 る。

活動するということ事は、さまざまな人間と接することの出来るよい機会です。つまり、年齢、学年、性格、出身地等の異なる人間の集まりである大学のクラブというものは、限りある人間の一生の中での特長な経験であるばかりでなく、これからの人生を大きく変化させる要因ともなり得るでしょう。

豊かな人間形成を達成する上で、是非とも大学での部活動、特にサッカー部に入部することをおすすめします。

平成7年度卒業予定者進路状況一覧表(平成8年3月卒業生)

(平成8年2月1日現在)

Table with 4 columns listing graduates' career paths. Columns include: 進学(大学院等), 就職(官公庁), 水産関係各種団体, and 民間企業. Rows list various institutions and companies such as 北海道大学, 東京商船大学, 山崎真珠, etc.

平成八年度入試について

本校の平成八年度志願者は、一八才人口の減少・水産業をとりまく厳しい情勢等からその動向が懸念され、受験生の国立志向、女子の四年制大学への進学増等に支えられ、対前年二〇%増の志願者を確保できた。

一般入試の志願状況は、漁業学科一四〇名(四・〇倍)、機関学科一五九名(四・五倍)、製造学科二〇二名(五・八倍)、増殖学科四九八名(二〇・八倍)、計九九九名(七・七倍)であった。

推薦入試には、全体で一〇二名が応募し、漁業学科・機関学科各一五名、製造学科一三名、増殖学科六名の計四九名が合格した。

一般入試は平成八年二月二日に下関・東京・大阪の各試験場で実施され、二月三日に合格発表を行った。次年度の学生募集については、高校新課程卒業生に対する初めての入試に加え、本校学科改組初年度入試であることから、多様な展開が予想されるが、いずれにしても、受験生に魅力ある教育を前面に打ち出して対応して行く必要がある。

人物往来

〔平成七年度〕
〔水産特論講師〕

七月二三日

- 水産庁企画課長補佐 淀江 哲也
水産庁国際課長 海野 洋
水産庁水産流通課長 永山 勝行
水産庁開発課長 上之門量三
〔特別講演講師〕
一月一九日

- 水産庁研究部参事官 嶋津 靖彦
水産庁研究部研究管理官 宮地 邦明
水産庁研究部研究課 院去 満代
一月二一日
カナダ漁業海洋省太平洋生物研究所
資源解析部長 G.A.McFarlane
海洋生物部門 上席研究員 R.Kiesser

- 〔叙位・叙勲〕
一月三日 勲三等瑞宝章
二月一三日 正四位 稻益 猷二 (名誉教授)
〔博士号取得〕
九月二九日 水産学博士 本村紘治郎
九月二九日 水産学博士 酒井 治己

編集室だより

大きく変わる水大の姿が具体化している中、ご多忙にもかかわらず原稿の依頼をこころよくお受け頂きました。次号では一層の充実がはかれるよう皆様のご意見をお聞かせください。